

平成27年度

研修集録

第 30 号

秋田市立秋田商業高等学校



「やる気」を引き出す言葉がけ

校 長 鎌 田 勝

新学習指導要領による取り組みも3年目となり、本校でも生徒の主体的な活動を取り入れた授業改善に取り組んでいるところである。平成26年11月に、下村文部科学大臣により、中教審に「初等中等教育における教育課程の基準等のあり方」について諮問があった。その中で、「何を学ぶか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶのか」という質の高まりを重視することが必要とされ、課題解決の発見と解決に向けて主体的・協働的学習（いわゆる「アクティブラーニング」）やそのための指導方法を充実させることが求められた。こうした学習方法・指導方法は、知識・技能を定着させる上でも、また、生徒たちの学習意欲を高める上でも効果的であると示された。

今年度本校では、「生徒の興味・関心をかきたてるための授業改善」を研修テーマに取り組んできた。6月の第1回職員研修では、産業能率大学の林巧樹先生から「アクティブラーニング」(AL)について学ぶ機会を得た。一方向的な講義形式の授業を見直し、生徒の主体的・能動的、協働的な授業実践に向けての意識改革の重要性を教えられた。その中で、「知識の定着・確認（授業から半年後にどれだけ内容を覚えているか）」では、学習形式によってその定着度が大きく異なることが、具体的数値としてははっきりと示された。グループ学習やペア学習、体験学習、問題解決学習など、AL型授業の具体的方法について学ぶことができ、本校の先生方も、生徒の主体性を重視した授業改善に、さらに進んで取り組もうとする姿勢が見られるようになった。

「世の中には、3種類の教師がいる」。これは、KANSAIこども研究所所長原坂一郎氏の言葉である。彼によると、教師は大きく分けて、「N」（ネガティブ）の言葉がけが多い教師、「P」（ポジティブ）の言葉がけが多い教師、「O」（アウトオブエフェクト、ネガティブでもポジティブでもない）の言葉がけが多い教師の3種類に分けられると言う。「N」の言葉をかけられると暗い気持ちになる。「P」は褒め言葉が代表的なもので、言われたら嬉しくなる。「O」の言葉は事務的で、聞く側も淡々と聞く。当然、「P」の言葉がけの多い教師が望ましいことは言うまでもない。そして、「P」の言葉がけが多い教師の授業は、生徒の「やる気」に満ちている。「P」の言葉一つで生徒の表情が変わる。そんなとき教師は、生き生きとした食らいつくような生徒の視線を感じることができる。相手への信頼と期待を込めた「P」の言葉がけで、生徒はそれに応えようと「やる気」を高めていく。生徒一人一人が教師とつながり、充実したよい授業となる。本校でも、「やる気」を引き出す言葉がけが活気ある授業に結びつく実践が積み重ねられてきている。

本誌には、本校の教師が実践してきた研究活動の一端が紹介してある。常に真摯に学び続けようとする教師の姿勢に、深甚なる敬意を表するとともに、その成果を発表できることは誠に意義深いことと考える。

終わりに、多忙の中、研究・執筆・本誌の編集作業にあたられた方々に心から謝意を表するとともに、本誌をご覧いただいた方々からの御指導、御鞭撻を切にお願い申し上げます。「研修集録」発行に当たっての序といたします。

目 次

◎巻頭言「やる気」を引き出す言葉かけ	校 長	鎌 田 勝	
I 指導主事訪問（研究授業・協議会）			
◇日程・訪問指導主事	教 務 部		…… 3
◇研究授業の学習指導案と協議会（芸術科）	芸 術 科		…… 4
◇研究授業の学習指導案と協議会（商業科）	商 業 科		…… 11
◇全体協議会	教 務 部		…… 16
II 校外研修（東北六県商業教育研究大会）			
◇東北六県商業教育研究大会での研究授業と研修会	商 業 科	保 坂 徹	…… 21
◇研究授業の学習指導案（商業科）	商 業 科	小 西 一 幸	…… 22
◇研究授業の学習指導案（商業科）	商 業 科	保 坂 徹	…… 24
III 校内研修の記録			
◇「授業アンケート」による授業改善	教 頭	船 木 文 子	…… 26
◇第1回校内職員研修「アクティブラーニング」		研 修 部	…… 31
◇第2回校内職員研修「心と体の健康づくり」		研 修 部	…… 34
◇特別職員研修「AED研修」	総 務 部	米 澤 雅 史	…… 41
IV 勝平中学校との学校間連携			
◇勝平小・中・高・特別支援学校連携協議会		研 修 部	…… 43
◇勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会		研 修 部	…… 47
◇勝平中学校2年生による商業科目授業体験	商 業 科	櫻 庭 咲 子	…… 49
V 授業公開週間実施報告		研 修 部	…… 55
VI 報告			
◇ビジネス実践「AKI SHOP」	商 業 科	櫻 庭 咲 子	…… 65
◇ビジネス実践「キッズビジネスタウン」	商 業 科	石 田 雄 哉	…… 67
◇ビジネス実践「エコロジカルビジネス」	英 語 科	大 堤 直 人	…… 69
◇ユネスコ主催気候変動国際セミナーに参加して	英 語 科	大 堤 直 人	…… 71
◇センター研修参加報告			
B講座「各教科などの指導における言語活動」	商 業 科	柏 谷 亜 紀 子	…… 75
C講座「教育相談に生かすカウンセリングの技法」	理 科	藤 中 由 美	…… 77
「気になる児童生徒への支援」	英 語 科	舟 木 志 保	…… 80
◇高等学校授業力向上研修講座（8年研）報告	商 業 科	大 久 保 薫	…… 82
◇高等学校教職10年経験者研修報告	保 健 体 育 科	菊 地 亜 紀	…… 86
◎平成27年度研修会・研究会等参加者			…… 92
◎編集後記		研 修 部	

平成27年度 指導主事学校訪問における 研究授業学習指導案と各科協議会及び全体協議会

場所：秋田市立秋田商業高等学校

期日：平成27年9月29日（火）

11時30分～16時30分

日 程

- | | |
|---------------|--|
| 11：30 ～ 11：50 | 学校経営説明 |
| 12：00 ～ 12：50 | 4校時 校内授業参観 |
| 12：50 ～ 13：30 | 昼食 校長室 |
| 13：30 ～ 14：20 | 5校時 研究授業（芸術科・商業科）
芸術科 池田先生 3年A組
商業科 柏谷先生 2年AB組 |
| 14：45 ～ 15：35 | 各科協議会：芸術科及び参観者：語学室
商業科及び参観者：会議室 |
| 15：45 ～ 16：30 | 全体協議会：会議室
1 授業改善等について
秋田県教育庁高校教育課
2 総評
秋田市教育委員会学校教育課
3 質疑応答
4 校長より |

訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課指導主事

主席主査 大山 裕 先生

秋田市教育委員会学校教育課指導主事

主 査 長谷山庫之 先生

秋田市教育委員会学校教育課指導主事

主 査 大月真由美 先生

秋田県教育庁高校教育課

指導主事(商業科) 野呂田義彦 先生

秋田県総合教育センター

指導主事(芸術科) 高橋 晋 先生

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

日 時：平成27年9月29日（火）5校時
 対 象：3年A組（男子6名、女子13名）
 授業者：池田孝幸
 教科書：教育出版 *Tutti*（トゥッティ）音楽Ⅰ

- 1 題材名 「聞こえる」～混声合唱の響きを求めて～
 2 題材の目標 合唱曲「聞こえる」について、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、各声部の役割を意識して歌うことができる。

3 題材と生徒

- (1) 題材観 本題材は、学習指導要領「A表現 (1)歌唱 ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと」と、「エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと」に関連している。
 「聞こえる」は1991年、第58回NHK学校音楽コンクール高校部門の課題曲として作曲された作品で、現在では全国の中学校・高等学校の校内合唱コンクールなどでも多く選曲され、親しまれている合唱曲である。旋律や和声、楽曲の構成の素晴らしさのみならず、歌詞の深いメッセージ性も感じ取って演奏を作り上げていくことはより深く混声合唱に親しむことにつながると考える。
- (2) 生徒観 明るく活発で授業中積極的に活動することができる。生徒同士での練習や活動もしっかりできる生徒が揃っており、授業者の与え方次第でより高い音楽表現を求めることのできるクラスである。
- (3) 指導観 パート練習や調べ学習など、生徒自身の活動を多く取り入れ、自ら楽曲の深さや意味または演奏のコツを気付くように進める。また作曲者が一つの主題に和声や声部、調性・テンポや拍子などあらゆる手法で変化を与えながら展開するように気付かせることで、生徒が高い意識を持って取り組む混声合唱へ仕上げたい。

4 題材の指導計画と評価規準（総時数8時間）

時間	学 習 活 動	評 価 規 準			評価方法
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	
2	<ul style="list-style-type: none"> 「聞こえる」冒頭の主旋律を全員で歌い、主題を把握する CDの範唱を聴き、作品全体の雰囲気やテンポ、各声部を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の美しさと曲の場面展開の多彩さに関心をもち、歌唱の学習に主体的に取り組もうとしている。 			観察
3	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や楽譜中の記号を調べ、理解する 自分のパートの音程・リズムなどを把握するためにパート練習をする 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容を調べた結果を発表し、他人の発表も進んで聞こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当する声部の音程を知覚して正しく歌い、パート練習へ積極的に取り組むことができる。 		観察 発表 プリント
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や楽譜の表現記号などを生かして表現ができるようパート練習をする 各声部の役割を生かし、工夫した表現をしながら合唱する 混声合唱の響きを味わう 		<ul style="list-style-type: none"> 曲想を歌詞の内容や表現記号と関わらせて感じ取り、テンポの変化なども含めて各場面の表現を意識して歌唱している。 		観察
1	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習内容を生かし、工夫した表現をしながら合唱を行う 録音した自分たちの演奏を鑑賞し、感想を書く 	<ul style="list-style-type: none"> 録音をよく聞き、進んで自分達の演奏の長所や課題に気付こうとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 創意工夫を生かした演奏をするために必要な歌唱の表現を意識して意欲的に歌唱する。 	観察 プリント

5 本時の計画（7／8）

(1) ねらい

「聞こえる」の各声部の役割を生かし、工夫した表現をしながら合唱し、混声合唱の響きを味わう。

(2) 学習過程

段階	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導 入	1 「コンコーネ50番No.1」を 斉唱する	・正しい姿勢、正しい発声を心がけ、歌詞をはっきり発音する	
	2 「聞こえる」を合唱する		
	3 両方の演奏について各パート内で話し合う	・自らの声部の反省とし、次の目標を見出ださせる	
展 開	4 本時の目標の確認をする	・生徒全員に目標が明確に伝わるようにする。	
	各声部の役割を生かし、表情豊かに歌おう		
	5 各パートの役割について説明を聞く	・作品全体が主旋律とその他の役割に分かれることをわかりやすく説明する。	
	6 各パートで集合し、役割の確認後パート練習に取り組む	・教師が各パートを巡視し、練習状況を確認して練習が滞っているパートにはアドバイスをし、進むような配慮をする。	
整 理	7 パート練習の成果をお互いに聴き合う	・パート練習の状況により単独パート、2パートの組み合わせなど臨機応変に行う。	○自ら積極的にパート練習へ取り組むことができたか（A）《観察》 ○各声部の役割を生かし、表現を工夫しようとしたことができたか（B）《観察》
	8 全員で混声合唱を行う	・全体を通して合唱することにより、練習成果と混声合唱の響きを感じ取らせ、次時へ向けての意欲や目標を持たせる。	○他声部との関わりを聞きながらバランスを考えて合唱することができたか（C）《観察》
	9 次時の目標確認		○各声部の役割を生かし、練習した表現を意識して合唱することができたか（C）《観察》

【評価】（A）音楽への関心・意欲・態度

（B）音楽的な感受や表現の工夫

（C）表現の技能

指導主事訪問協議会（芸術科）

日時：平成27年9月29日（火）

場所：音楽室

司会：泉 広宣 記録：三浦 康平

1 はじめに（司会）

①授業の組み立てや展開、指示や生徒の学習活動（特に生徒の動かし方）について。

②本校の今年度の研修テーマ「生徒の興味・関心をかきたてるための授業改善」について。

以上2点の観点を中心に協議していきたい。

2 授業者から（池田孝幸先生）

今回は、いろいろな角度からアプローチができ、また、とても時間がかかる題材ではあるが、教科書にも載っている「聞こえる」という名曲に3年A組にトライしてもらった。

今日の授業については想定外のことが一つあった。それは、最初の全曲通しの時に、最後の部分、楽譜だと81小節目以降がまだ歌えていなかったということだ。前回その部分を練習して今回の授業に備えたつもりであったが、私の指導不足で、生徒たちが音などを忘れてしまっていたため、想定外に時間を10分ほど余分に使ってしまった。その10分を使えたら、役割の話や歌詞の組み合わせられ方、調整による表現などの話について、もう少し深くまで入っていられたが、結局一つ二つ内容をカットしてしまった。しかし、生徒たちは積極的に元気に、またきれいに合唱することができていた。その後、パートに分けて練習をするときも、私は毎回特に指示を出さない方式をとっているが、生徒たちはきちんと自分たちで練習するところを選んでできていたところがとても良かった。

あとは最後の通しのところまで至らなかったこと、計画したところをカットしなければならなかったことが反省すべき点である。まとめのところも、通しをやってから、少し皆で話し合わせたりできれば良かった。それは次時に回したい。

3 参観者から

①授業の組み立てや展開、指示や生徒の学習活動（特に生徒の動かし方）について。

高橋賢右：先生の指示に従って生徒がてきぱきと動いていたり、しっかり整列して歌ったり、机に戻って楽譜を見ながら主旋律の話をする際も、生徒は主体的に活動していた。各自の練習時間になった際にも、各パートに分かれて、自分たちで活動に取り組んでいた。どこまでできるかわからないが、ぜひ自分の教科にもそのような活動を取り入れたい。とても参考になった。

佐藤寛仁：この授業を参観するにあたって一つ興味を持っていたのが、音楽の授業の中では言語活動をどのように活用するのかということだった。おそらく普段の先生の指導がしっかりされているからだろうが、お互いがどういうところに気をつけて歌っているか話し合う際、生徒はきちんとできていた。音を聞いてその中で気づいたことを話し合うという言語活動の機会をしっかりと取り入れていて、授業の組み立てが上手だと感じた。

指導案には時間配分が書かれていないが、先生の中ではきちんと目安はあったのか。

池田：あった。導入と整理のところを5分ずつにして、展開のところを当日の状況を見て、

割り当てていこうと思っていた。そしたら想定外のことが起こった。

藤中由美： 本時の内容を黒板に書くだけでなく、先生の言葉でわかりやすく話すことで、生徒もうなずきながら、今日やることがわかっていた。「表情豊かに」の表情にはいろいろあるという説明があり、はっと気づかされた。生徒も同じ気持ちだったと思う。生徒がとても自主的に動いていて、どうしたらこのチームで動けるかということを考えて活動していたのが印象的だった。

佐々木ひな子： いつも向かいの調理室から自分のクラスの授業などをたびたび覗かせていただいている。先ほど先生と会話をしたときに、「普段通りです」と謙遜しておっしゃっていたが、日頃からとても規律の取れた授業をされており、本当にいい意味で普段通りの授業だと感じた。生徒の歌っている様子にその人間性が表れていた。とてもいい顔で歌えている生徒は、進路に関しても意欲的な生徒が多い。そういう意味で、授業や進路指導、生徒指導はすべてつながっていると改めて思った。

奥山桃子： いつも音楽室から聞こえてくる歌声に感動していたので、今日はじめてその授業を参観できて、生徒の歌がどんどん上手になっていく過程が、何も歌がわからない私でもわかって本当に感動した。

意思表示をするときに挙手させていたのは、発問して答えさせるよりも全体をつかみやすいからだったのか。それともスピードを上げるためのものだったのか。

池田： 今日はスピードを意識してのことだった。いつもだと当てて答えさせて隣ももう二・三人当てたりするが、今日はとにかくスピードを上げなければいけなかったので、一人二人に聞いて後は手を挙げさせてということにしてしまった。

②本校の今年度の研修テーマ「生徒の興味・関心をかきたてるための授業改善」について。

大堤直人： 生徒の興味を引き付ける上で、歌そのものの良さが大きいのではないかと思った。「聞こえる」という歌が優れた歌だとおっしゃっていたが、素材の良さも大きく関係してくるのかと思った。また、先生のピアノを弾く姿も拝見し、音楽性の高さ、レベルの高さを生徒たちが見るわけで、教員自身の音楽性の豊かさなども生徒を引き付ける上で大きな要素になっていると思う。

野呂耕一郎： 興味関心という意味で、最初に池田先生が「聞こえる」という曲は名曲だとおっしゃっていたが、確かに聞いていてとてもいい曲だなと感じた。この曲について事前学習には取り組んだのか。

池田： この曲は一般の合唱団も歌っており、また、20年くらい前のNHK学校音楽コンクール高校の部の課題曲にもなっており、その当時の合唱部の高校生たちが青春をかけて取り組んだ曲でもあるので、曲そのものもとてもいいなと思い、そのような話をした。また、高校生の演奏を範唱として聞かせた。あとは、歌詞に非常に強いメッセージ性があり、実際の世界で起きた事件などに付けられた詩を使用しているので、実際に生徒に家で調べて来させて、何の事件についてこの詞は表現しているのかという調べ学習も行った。

野呂： これは教科書に載っている曲か。それとも先生が投げ込みで入れた曲か。

池田： 教科書に載っている曲だ。

野呂： やはり素材がいいと生徒も興味関心を持つと感じる。

泉： いわゆる「本物に触れる」というのは生徒の興味関心を引く最大のポイントという気がする。そのため我々教員もこのことを意識して授業に臨む必要を感じる。

高橋伸友： 私も同じ実技教科である体育が専門であり、体育ではなかなか積極的に動けない生徒もいる。同様に音楽でも恥ずかしがり屋で声をうまく出せない生徒がいると思う。しかし、今日の授業ではパート練習の際に、リーダーがしっかりとしていて、他の生徒をうまく引っ張っていた。また、先生の板書によっても生徒たちの声が大きくなり、うまく生徒の力を引き出していると感じた。

リーダーをどうやって育成するかということと、なかなか歌えない生徒にはどう対応しているか教えていただきたい。

池田： 本校以外の学校では一般的に「音楽Ⅰ」は1年生で学習することになっている。しかし本校では3年生に「音楽Ⅰ」を学ぶことにしてから数年経つ。はじめに1年生で授業をしていたときは、やはり先生がおっしゃるように、歌えない生徒、声が小さい生徒、恥ずかしがり屋の生徒がいた。しかし3年生の場合は、人間関係がクラスですでにできあがっており、精神的な成長もあるため、これまで指導で苦労したことはほとんどない。3年生で「音楽Ⅰ」をやるというのはとても嬉しい気持ちである。リーダーシップという点でも、パート練習をやると必ず誰かがリーダーになってくれる。3年生であるという点が非常に大きいと感じる。その中でも恥ずかしがって声を出せない生徒がいれば手をかけていくが、あまりそれで苦労したことはない。

杉村美香： いつも隣の教室から聞こえてくる歌声を聞きながら授業をしている。今日先生の授業を拝見して、生徒たちが自分で考えて動くということを何よりも大切にしているということを感じた。とても参考になった。

③総括

船木文字子教頭

音楽の授業は私も校内を回って時々知っている曲を聞くとよく教室を覗かせていただいている。今日は楽しみにして参加した。「聞こえる」という曲は知らなかったが、普段の授業を覗いてもいつも生徒が安心して、「ここでは下手でも大きな声で歌ってもいいのだ」という気持ちで歌っていると感じた。

剣道部の二人が積極的に授業に参加し、剣道をしていない彼らの別の表情を見ることができたのも良かった。表情ということでは「表情豊か」の「表情」という言葉を、歌の言葉の表情だったり、メロディーの表情だったり、そういう風に生徒もきちんと理解して、強弱にこだわったり、そのこだわっていることをまた別の生徒が気づいたりというように、お互いが気づき合えるという授業が展開していた。

挙手についても、時間の都合でおっしゃったが、生徒がどこかに手を挙げなければいけないとなれば、必ず何かを考えなければならなくなり、全員参加する気持ちになる。私も普段の授業で手を挙げさせたりしている。このような様々な工夫がなされていた授業だった。

実技教科の一番いいと感じるところは、授業の最初ではあまりうまくできなかったところでも、授業の終わりにはしっかりとできるようになり、生徒自身が今日一日50分がんばってここまでできるようになったというのを実感して授業を終われるということだ。そういう意味で今日の授業はとても良かった。

4 指導主事から

秋田市教育委員会学校教育課指導主事

主席主査 大山裕先生

池田先生の取り組みの良い点や生徒たちのすばらしさについては、他の先生方の話に集約されているので、私からは外から今日この授業だけを見た者として大きく2点について課題などを話していきたい。

一つ目が本時の目標についてである。今日授業参観をさせていただいたすべての授業で本時の目標が提示されていて、組織的な取り組みがなされていると感じた。今日の池田先生の目標は二つあり、一つは「パートの役割を生かす」、そしてもう一つが「表情豊かに歌う」という大きな二つの目標があった。「パートの役割を生かす」というのは、ただ単に自分のパートを音程正しく歌うとか、大きい声で歌うとかではなく、合唱したときに自分のパートがどんな役割をしているのかということを理解できていないと自分のパートの役割を生かすことはできない。ただ今日の授業では、先ほど「想定外」という話もあったが、若干まだ音程に自信がなく自分を思い通りに表現できない生徒もいて、パートの役割をほかのパートとの関連で理解するというところまで全員の生徒ができていたわけではなかった。そこに一つ目の今日の目標の達成度という点では若干課題があったのではないかな。二つ目の目標である「表情豊かに歌う」というのは、先ほど話題として挙げた通り、歌う生徒の顔ではなく、音楽の表情である。たとえば5分間の曲があるとすれば、ずっと一本調子だと当然誰も聞かないだろう。最初から最後まで同じリズム、同じ和音だと当然これは商品としても売れない。人に聞いてもらって良い心地にさせるには、いろいろな戦略がある。それをいかに歌い分けるか、演奏し分けるかというのが「表情豊かに」歌うということだ。とすれば、一つ目の目標「パートの役割を生かす」ということよりもこれはもっと高度な目標である。すべてを理解しすべてをマスターして他とのバランスをとりながら歌おう、そして音楽の良さを人に伝えようというのが「表情豊か」というねらいのはずであり、そういったところまでいくとなると、さらに高度な取り組み、指導、生徒の活動が求められるため、今日の目標と生徒の活動を照らしてみると、もう少し簡単な捉えやすい目標でも良かったかもしれない。

二つ目は言語活動についてである。授業の中で15分間ほど先生と生徒の間答があったが、そこはぜひ生徒たちに歌わせながら考えて発言させるという言語活動にしてほしかった。一問一答のようにただ単にその音楽について言葉で表現させ、考えさせるだけのやり取りではなく、実際に歌わせてみるという働きかけをすることにより、生徒たちが音楽を分析的に捉え、しかも音楽表現を伴った言語活動になっただろう。

目標の設定のしかたと、目標に近づけるための生徒たちの言語活動と音楽活動とのバランスを今後も考えていただければと思う。

小学校を例に挙げると、小学校は学団、学年で組織的な共同研究がなされている。算数なら算数で、自分の専門教科とは関係なく全員でその教科を研究する。しかし中学校ではなかなかそうはいかず、複数の先生が同じ教科にいる場合は共同研究もできるが、音楽のような教科は一人しかいないと悶々と孤独に研究するしかない。高校になると中学校と同様かそれ以上に研究の難しさがあるかと思うが、こういった機会は非常に大事である。教科科目を超えて遠慮しないで他教科に踏み込んでいけば良い研究になるのではないかな。授業を作るという点においては教科科目は関係ない。目標を立てて指導計画を組んで評価するという営みは共通である。ぜひ今日のような研究の機会を今後も継続していただき、組織的に授業改善を図ってほしい。

秋田市教育委員会学校教育課指導主事

主査 大月真由美先生

生徒たちが真剣に歌っている姿に感動した。部活動ではなくて普通のクラスの授業であそこまでレベルの高い合唱ができるのに驚いた。小学校の音楽では高学年あたりになると、どうしても男子が声変わりをして歌うことをためらったり、音楽が嫌いだと言ったりする児童も多いが、今日は三人の男子生徒も真剣に音をとって、すばらしいと思った。おそらく池田先生が普段の授業から、音楽って楽しい、歌うことって楽しいということを感じさせる授業をされているのだろう。また、たとえば「さすがA組うまいねえ」「すごいねよく知っていたね」など、生徒の活動や発言に先生がしっかりと価値づけているのがとても良かった。

どこが切れ目かという場面で、21小節目で切れるという生徒と、22小節目で切れるという生徒がいて、そこで正解はこちらですというふうに話が流れていったが、なぜ21だと思うのか、なぜ22だと思うのかを生徒に語らせても良かった。同じく、パートごとで発表したときにも、ソプラノはこだわった点をはっきりしていたが、アルトや男声パートにもどこにこだわったのかを語らせたかった。

秋田県総合教育センター

指導主事（芸術科） 高橋晋先生

私は高校1年生の授業しか拝見したことがなかったので、今日生徒たちの第一声を聞いたとき非常に驚いた。日々の取り組みが感じられた最初の出だしだった。途中のパート練習の様子を見ても、池田先生がおっしゃったように、自分たちで今何が必要なのかを考えて自分たちで活動しているのが非常にすばらしかった。

目標を立てて板書をしているが、教師側から提示するだけでなく、できれば生徒側からも出てくればなおさら良い。たとえば最初に歌わせてみて、今の自分たちには何が足りないかと問いかけ、それが先生がねらっている目標とつながるように前時を作っておくと、生徒たちも自分たちで立てた目標なので、興味関心を持って取り組む。簡単ではないが小学校あたりでは盛んに取り組んでいる。今回のような力のある生徒たちだとそれも可能ではないか。

言語活動という話があったが、一生懸命頭の中だけで考えさせるのではなく、実際に歌わせてみて話し合わせたかった。たとえば、ある部分でも取り出して、今どうだったのかとか、少しここのパートが強かったとか、生徒同士でやりとりをさせて、それを繰り返していくことで、パートの役割というものをとらえさせると生徒の力になる。確かに時間が厳しかったと思うが、このような生徒のやりとりがあると深まったものになる。

商業（原価計算）学習指導案

日 時：平成27年9月29日（火）5校時
場 所：2年B組教室
対 象：会計コース2年A・B組（標準クラス）
授業者：柏 谷 亜紀子
教科書：原価計算 実教出版

1. 単元名 第2編 原価の費目別計算 第10章 工程別原価計算

2. 単元の目標

工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算の仕組みを理解させ、適切な処理方法に習熟させる。また、半製品の意味や記帳方法を理解させる。

3. 単元と生徒

(1) 教材観

前工程費や半製品などの工程別総合原価計算の特徴的な勘定の意味や金額の算出法を理解させ、工程別総合原価計算表を作成する能力を身に付けさせる。また、本単元は、部門別計算、等級別計算、組別計算などさまざまな原価計算を学習した後の単元であるため、他の原価計算とどのように違うのかを明確にしながら理解を深めさせたい。

(2) 指導観

工程別総合原価計算の全体の流れをイメージさせ、どの部分の手続き、計算を行っているかを意識しながら問題を解くように指導したいと考えている。

(3) 生徒観

男子16名、女子10名のクラスである。11月に日商簿記検定2級合格を目標としている。簿記会計分野に対する能力が高く、真面目に授業に取り組む生徒が多い。男子は積極的に質問をしてくるが、女子はおとなしいため、一部の生徒に偏った授業展開にならないよう注意して進めていきたい。

4. 指導と評価の計画

第2編 原価の費目別計算（全4時間）

第10章 工程別総合原価計算

- | | |
|--------------------|------------|
| 1 工程別総合原価計算の意味 | } 本時 1 / 4 |
| 2 工程別総合原価計算の手続きと記帳 | |

【評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
原価の部門別計算の重要性に関心を持ち、積極的に問題演習に取り組もうとする。	なぜ工程別計算を行うのか、また、手続きのどの段階の処理を行うのかについて考えている。	各工程の工程費や配賦額を的確に計算し、工程別総合原価計算表を作成できる。	工程別計算の基礎的・基本的な知識を身に付け、工程別計算の特徴を理解している。

5. 本時の計画

(1) 本時のねらい

工程別総合原価計算の特徴を理解し、工程別総合原価計算表が作成できる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教師の指導・支援	評価の観点
導入 5分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">発問1：関連図の中に、今までと違う勘定はありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連図から工程別原価計算の特徴を見つける。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本時の目標：工程別総合原価計算表を作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工程毎に仕掛品が存在することに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連図を見て、今までと違う勘定があるか見つけようとしている。(関)
展開 40分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">発問2：それぞれの勘定がいつ使われ、完成品と月末仕掛品がどのようなになるか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手続きの流れを入れた関連図を完成する。 【例題】 ・工程別総合原価計算表を作成する。 ・練習問題1.2を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前工程の完成品原価が次の工程の前工程費になることに気づかせる。 ・月末仕掛品原価の計算はこれまでの総合原価計算と同じ方法であることを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手続きの流れを表す矢印を記入できたか。(思) ・月末仕掛品原価を算出できたか。(技) ・前工程費を正しく記入できたか。(技) ・工程別総合原価計算表を作成できたか。(技)
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を確認する。 ・次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連図を用いて流れを確認させる。 ・半製品について学習することを伝える。 	

(3) 目指す生徒の姿

工程別総合原価計算の各勘定の関連性を理解し、工程別総合原価計算表を作成できる。

指導主事訪問協議会（商業科）

日時：平成27年9月29日（火）14:45～15:15

場所：会議室

司会：谷内 陽一 記録：嶋田 平

司会より：1. 授業の組み立て、展開、生徒への指示と生徒の学習活動について
2. 生徒の興味関心をもたせるための授業改善について
3. 全体を通して
の順に協議をしていきたい。

●授業者からの感想

柏谷先生： 授業を参観していただきありがとうございました。

4月に転勤して、1学期のうち、毎時間考えながら生徒の実態に合った授業を考えてきたが、2学期になっていろいろなアイデアが出てきた中で、今回の工程別原価計算の内容は、後半部分の内容だが授業の中で新しい発見や、新しい知識に気づくことが薄くなってきている段階だ。生徒が会計コースであり、11月の日商簿記を目指している状態で、残り1ヶ月ということで検定に向かう。今日は工程別原価計算の1時間目ということで特徴や原価計算表の作成を通して特徴をつかめるような計画を立てたが、問題を解くところまでいかず、反省している。

おとなしい生徒（女子）が多く、男子は比較的明るく前向きであるがその差をなるべくなくし、無反応な生徒も参加できるように工夫している。

その中でグループ学習も取り入れている。はじめは一斉に実施していたが、グループ活動をしない方が進度は速いが、グループ活動によってわからないところを確認できるという点で、今後も続けていきたい。ただし、すべてグループだとメリハリがなくなるので途中でグループにしていきたい。

わかっていること、わからないことを区別させた。

検定だけではなく、秋商の会計コースという意識を持たせる。

興味関心を持たせるために具体例を考えさせる。

1. 授業の組み立て、展開、生徒への指示と生徒の学習活動について

畑沢： 最後のマグネットボードを使用しての確認による方法が斬新で良かった。

佐藤大： 実物投影機、ホワイトボードの使用で生徒と同じプリントにも書くということで、生徒も授業を受けやすかったと思う。原価計算では順序（流れ）を書かせることで、うまく意識付けができていた。本時の目標に合った授業内容であった。

小西： 質問が二つある。一つめ、ICTはいつから使用しているのか。また、使用した時としない時の生徒の反応はどう違うか。

柏谷： 実物投影機は、他の先生が使っていたため、簿記の板書の時間を削減するためや、生徒が書くのが早いのでそれ以上の作業のために、夏くらいから使用した。白紙のもの、途中で作表したもの、完成した作表の3種類のプリントを作成して、時間を効率よく使っている。生徒の変化についてはあった方がいいという反応がある。写すものには書き込んでも

らう方が手順がわかり、わかりやすいようだ。

小西： 二つめ、本時は作表であったが、この後の授業展開はどうなるのか。

柏谷： 半製品と正常減損の入った問題の予定で、3時間くらいでも間に合いそうだが、本日は予定よりも問題を一つできなかった。

石井： プリント配布のタイミングがすごく良かった。東北6県商研での授業でも、1回ですべてのプリントを配るのではなく、分けて配布していた。作業時間にストップウォッチを使用してはどうか。

2. 生徒の興味関心をもたせるための授業改善について

米澤： 感心することばかりだった。

村井： 検定に追われてやりきれないが、ICTの活用やグループ活動ができるといいと思っている。

佐藤(和)： 1年生の簿記でパソコンを使用しているが、同じものを書くことによって、さらに興味を引く。表計算ソフトなどを利用し、文字を白くして、解答の際に黒く表示したりしている。生徒も、目で見えて確認できるので、普通教室でもICT機器を使用して興味関心を引く授業を心がけたい。

亀田： いろいろな道具で生徒は引きつけられる。私は簿記の知識がない状態で参観したが、授業の流れは素晴らしい。自分の授業でも知識のない状態で参加している生徒は同じ感じなのかと思った。

田中： 自分の授業が詰め込み型だったことを認識した。大事なことを説明して終わるのではなく、ICTや発表を取り入れ、具体例などを理解させた上で学習させるということで参考になった。

菅生： 商業の授業の中でグループ活動はあまり見たことがなかった。職員研修でもあったアクティブラーニングは商業科の授業でも活用できるか。

柏谷： 生徒に知的好奇心を持たせるためには、グループ活動をするということは、必ずコミュニケーションをとらなければならないので、言語活動を通して伝えることの難しさを訓練させるための場として活用している。

クラスの、中の層～下の層の生徒には有効だが、上の層にはあまり変化がなく、自分の知識の確認だけである。

坂田： 商業の授業はあまり見たことがないのだが、グループ学習を通してお互いに教え合うことにより、生徒の知識が身につくと思った。

3. 全体を通して

戸田： はじめて授業を見たが、モチベーションを持っていればがんばれる。分かっていることと、分からないことを区別する。

鎌田(修)： 同じ授業を持っている。興味関心を引くためには、ICT機器の活用も必要だが、言葉でイメージを持たせることやパソコンなどで反応を見ながらやっている。

●指導主事より

野呂田先生：秋田県教育庁高校教育課指導主事（商業）

研究授業について

一言でいえば、さすがだなという授業だ。

実物投影機により効率化を図り、プリントも個別原価計算から続いている内容であり、地味な準備だが、素晴らしい取り組みであった。

グループ学習で学び合い、確認し合っていた。分からない生徒には最後のまとめはよかったのではないか。

ホワイトボードでまとめるのも、はじめて見た。赤と黒の色分けをしながら授業を振り返っていた。

県立高校では、ここしばらく、組織で取り組む授業改善を狙いとし、個々の教員の力量の上の授業ではなく、教科全体、学校全体で共有していく仕組みを作ろうとしている。そのために、教科会や授業研修会を定期的実施している。

本時のねらいについて

- ・指導案のねらいは教師側のねらいであり、本時の目標は生徒側の目標である。小・中では「目当て」などという言い方をし、「～できる」という表現になる。
- ・考える時間が足りない、十分な時間を与えると教師側に不安ができる。今回はホワイトボードに書くときに十分とれたのではないか
- ・学習指導要領には言語活動という表現が多いが、原価計算では取り入れづらいが、今回は話し合ったり、発表したりしていた。
- ・教科書の中身は各自で理解し、アクティブラーニングにより、学び合う授業、簿記とビジネスに関する実務の関係を認識させるために実例を使う、実学に立った視点で取り組んでほしい。アクティブラーニングは平成32年からの学習指導要領の目玉になるはずだ。

指導主事学校訪問全体協議会

日時：平成27年9月29日（火）15:45～16:30

場所：会議室

司会：船木文子教頭 記録：坂田 絵里

1. 授業改善（野呂田義彦指導主事）

- ・今朝のさきがけ新聞に秋田商業高校の校歌の特集が載っていた。甲子園での清々しさが伝わってくるものであった。
- ・東北六県商業教育研究大会で、保坂先生、小林先生、小西先生、石田先生の授業力の高さが他県の教員から評価されていた。同様に、本日研究授業を行った柏谷先生も随所に工夫がなされていた。
- ・授業改善の重点事項2点（県立高校で学校訪問を行った際に重点事項としてお願いしていること）

1) 組織で取り組む授業づくりの推進

授業改善につながる。

個々の教員の力量の上に成り立つ授業から、教科全体・学校全体で授業の質や水準の向上を実現できる仕組みを構築していくことが重要。

①学習のねらいに基づいた授業構成、②生徒の思考をうながす授業展開、③評価と検証に基づいた授業改善、の3点について組織で取り組んでほしい。

①について

本時の目標を多くの先生が授業の早い段階できちんと示していたが、その中にはただの単元名だったり実施する内容だったりする場合もあった。本時の目標は生徒がこの1時間で何ができるようになればよいのかを示すものである。それを目標に生徒が授業に参加するので、示し方をさらに工夫して欲しい。表現方法は「～ができるようになる」。

②について

<発問>

発問が大切（発問とは、学習指導の中に意図的に設けられる児童・生徒への問いかけのこと。答えが一つのものは質問である。）生徒の思考を促す発問であって欲しい。

総合教育センター作成の『あきたのそちから』を活用して欲しい。東北六県商業教育研究大会の授業ではこれを活用し、授業の組み立てを行っていた。

発問の条件（5点） ア 明快な問いであること

イ 計画的、意図的であること

ウ 興味、意欲を呼び起こすものであること

エ 児童・生徒の実態に合っていること

オ タイムリーであること

本日参観した授業では生徒とのコミュニケーションがよくとれていた。しかし、一問一答になっている場面も多く見られた。主発問を意識して生徒全員へなげかけていく必要がある。

<板書>

声は消えてしまうが、板書は残る。残る見える板書を最大限にいかし、学びの流れ・概念や知識の習得過程を後で振り返って生徒が見ることができるような板書計画をして欲しい。

③について

毎回の授業を評価し、授業改善を図ることも大切である。しかし、各教科において組織的に評価規準等を年間指導計画に組み込み、研究授業等を通じて検証し、改善を図ることも大切である。

2) 「こころ 姿 振る舞い さわやか高校生」運動の推進

秋田商業高校は整容がしっかりしている。このことも授業改善につながると思われる。

- 秋田県高等学校総合整備計画第7次素案から、商業科で目指すところは「将来のスペシャリストとして必要な専門分野の知識と社会的責任を担う職業人としての倫理観や遵法精神、起業家精神等を身に付けた創造性豊かな人材を育成する必要がある。このため、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図るとともに、高度な資格の取得や競技会等への挑戦など、目標をもった意欲的な取組を通じて、商業に関する知識を深めることを目指す。また、地域社会等との連携・交流を通じた実践的な学習を充実させ、ビジネスを展開するための適切な実践力やコミュニケーション能力、社会への適応能力等を育成する。」ということである。秋田商業高校では多くのことが取り入れられており、ビジネス実践として県内高校の先駆けとして実施されている。AKI SHOPやキッズビジネスタウンは地域からも高く評価されており、年々改善が加えられ充足している。第7次素案とも一致している内容なので、今後もこの活動を充実させて欲しい。また、こうした活動の展開には専門性、専門知識に基づく活動となるようにして欲しい。文部科学省の西村調査官からは「本当に商業を学んだ生徒でなければできないことなのか。」と厳しい指摘もある。専門教科である商業を履修したからこそできる活動になるように工夫して欲しい。このことが、普通科や総合学科の商業コースとの大きな違いになる。

最後に、ビジネス実践を通して生徒を確実に伸ばしている学校だと感じた。しかし、生徒の入学時のレベルを考えると、さらに伸ばせるのではないか。素直に授業に臨む生徒の姿勢を見ると、指導方法の工夫によりさらに生徒を伸ばせる。全県の商業を学ぶ生徒の目標となる学校になるようにがんばって欲しい。

2. 総評（大山裕指導主事）

1) 校内の感想（授業改善において取り組むべき課題4点）

①授業を構造的に捉える

授業1単位時間（50分）の中で、結果や成果が求められるべきである。

目標の設定、目標に基づく指導過程（事前の準備・アイデア）の確立、評価の3点が1セットとなって授業が作られるべきである。指導過程においては一斉指導、グループ活動、ペアワークの学習形態がある。指導過程をつなぐ発問と指導の結果及び経過を残す板書がかみあって一つの授業になるので、「授業を構造的に捉える」ことを今後の研究推進のテーマにして欲しい。

②本時の目標の吟味（生徒の主体的な学習の大前提）

子どもたちが何を意識して学ばよいかかわからない授業もあった。

子どもたちが主体的に学ぶことがポイント

組織的に目標を掲示していることに努力は感じるが、今後の授業の1ステップアップのためにも目標の内容の吟味をして欲しい。

③言語環境としての先生方の授業における話し方

国では「言語活動の充実」ということを広く知らせており、前提に「言語環境を整えること」を一文に加えている。

生徒の言語環境は掲示物、ICT、プリントなどもあるが、最も大きな影響を与えるのが先生方の話す言葉である。授業はフォーマルな取り組みなので、フォーマルに話したり、くだけたりするときを使い分けて欲しい。先生方の話し方に使い分けがないと先生方の言語活動がそのまま生徒の言語活動に反映される。言語活動を考える際に先生方一人一人の話術・話し方も検証して欲しい。

④資料の提示

パワーポイントや模造紙にしても資料が見えなければ子どもたちは見ないし、見えない子どもには役に立たない。(いくらいい資料でも、クラス全体に見えるようにしないと意味がない)

資料は使えばいいというものではない。

文字の大きさ・色など細かなところに配慮する。

2) 教科指導の留意点

- ・平成25年度の指導主事訪問の総評を述べた際には言語活動に関して「言葉をみがく」をキーワードとして伝えた。

先生方の言語活動も、説明の仕方に配慮、発問の工夫に変化が見られた。

- ・H26.12、中教審「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」を公表し、「生きる力」をはぐくむため義務教育から高等学校、大学までを通した教育のあり方を示した。
- ・高等学校教育の現状における課題としては、小・中学校と比較して知識伝達型の授業にとどまる傾向がある。(「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む」といういわゆる「学力の三要素」をふまえた取り組みが浸透していない。)
- ・高校生の進路が多様化して教育課程や授業内容が多岐にわたり、高校教育として生徒に共通して身につけさせるべき力が明確にされていない。(意識改革のメッセージとして捉え、校種を問わず小中高大の求める学力観を共有し、指導方法の改善に努めるようにして欲しい。)

<次への課題として「板書について」を提案したい>

- ・板書は生徒の思考を刺激し、学習の中心・要点を明確にする機能を持ち合わせているもの。時間とともに塗られていくもの、情報を記録する羅列版ではなく、授業の中心(その授業の中で一番いたいこと)がわかるように板書を工夫して欲しい。

<次期学習指導要領の改定のキーワード>

- ・資質・能力の育成にむけた教育課程の構造化(アクティブラーニング、カリキュラムマネジメント)。今後も国の方向を見定めつつ指導方法の改善に努めて欲しい。

3) 秋田市教育委員会からのお願い

生徒指導にからめて「命の大切さ」を継続的に指導して欲しい。

福島県立高校で部活動の人間関係に悩んだ女子生徒が校舎内で自殺したという痛ましい事案が発生したが、その学校では第三者委員会を立ち上げ、いじめの部分を含め事実関係を明らかにする予定である。

本校でもこれまで通り生徒一人一人との指導的なふれあいを通して、深い生徒理解のもと「命の大切さ」に関する継続的な指導を心がけて欲しい。

最後に、小・中学校の学校訪問の際には全体会の前に教科とは別に30分間の時間を設定して先生方の教育観に関わる協議の場を設けている。

今年のテーマ『教師が教師であるために私が子どもたちから学んだこと』

先生方が生徒から学ぶということは「生徒一人一人の反応や表情から自分の指導の妥当性を振り返る」ということ。(生徒一人一人の反応や表情は先生の指導を映す鏡)

・本校の経営の取り組みについて

授業改善への取り組み(授業アンケートの結果による指導)、秋商キャリア教育はさらに深めて成果を上げて欲しい。特に秋商キャリア教育は以前よりグレードアップしており、県内の様々な高校へ情報提供してもいいのではないかと、言われているくらいよいものであり、今後活用して欲しい。

3. 質疑応答

校長： 「本時の目標」を小中学校ではどのようにしているか。

大山先生： 小学校においては「めあて」として、子どもたちの言葉で示している。小学校では「めあて」を示す前には前時の活動を振り返らせて、子どもの発言から引き出させ(興味・関心、学習意欲につながる)、もともと用意していたものを読ませクラス全体で確認する。

中学校では「めあて」「目標」「学習課題」としている。この時間で何をどうすればよいかわかるようにしている。提示の仕方と内容が大事。

4. 校長より

・今年度、「生徒の興味・関心をかきたてる授業改善」を研修テーマとし、講義式からの脱却を目標に取り組んでいる。

・年2回、授業公開週間を設けている(先生方で参観し感想をお互いに書いてもらう)が、本当に効果が上がっているかはわからない。

最後に、少しずつ変わっているとわれ嬉しい。授業が勝負ということで、日々の努力を考えていかないといけない。

<野呂田指導主事から>

・教科全体の仕組み、共通理解での交流など教科の壁を越えて取り組むことが学習のねらいに基づいた授業構成をするためには必要ということであるが、交流が少ない。公開授業の間などにもっと活発に交流して欲しい。

・生徒の思考を促す授業展開では、生徒が主体的に学ぶためにも発問の工夫をこれから考えていかなければいけない。生徒の興味・関心をひくためには教師自身が工夫を凝らし、情熱を持っていかなければいけない。

<大山指導主事から>

・「授業を構造的に捉える」という話があったが、小中学校で授業を受けてきた生徒が高校にきて

どうなるか。

- ・本時の目標の吟味を授業を行う前にして欲しい。(教材研究をして授業に臨む)
- ・先生の話し方に関しては、「言葉をみがく」ことを意識して欲しい。先生方の言葉の一つ一つが生徒に影響を及ぼす。
- ・板書に関しては、要点を明確に。思いつきで書いていたり、いつも同じパターンで書いていたりするので、変わっていかないといけない。

東北六県商業教育研究大会での研究授業と研修会

商業科 保 坂 徹

1 取組のねらい

東北六県商業教育研究大会で研究授業をするにあたり、秋田県として組織的に指導案検討会やコミュニケーション授業を企画し、授業担当者の指導力を高める。

2 取組概要

(1) 背景

以前より、文部科学省の西村修一教科調査官の講義で中国五県研究大会の研究授業が紹介され、東北六県商業教育研究大会での実施を検討してきた。商業を学ぶ生徒の実態と1時間1時間の授業展開が見える研究大会は、絶対に必要だという意識が高まり、平成27年度秋田大会（大館国際情報学院高校）から行うことが決まった。

その実施に向けて秋田県商業教育研究会では、組織で取り組む研究授業を目指し、県教育委員会指導主事の指導の下、研究授業テーマを「あきたのそちからを活用した授業改善～確かな発問の工夫～」として、指導案検討会や大館国際情報学院高校の生徒を対象にしたコミュニケーション授業などを企画した。

(2) スケジュール

日 時	内 容	場 所 等
5月1日	(連絡) 授業のテーマ・指導案書式など	県商研総会
5月中	(連絡) 指導案に記載する対象クラスの状況	電話やメールで
6月30日	(提出) 指導案(第1案)・研修会の申込	大館国際情報学院高校
7月11日 9:30~16:00	(指導案検討会) 1 授業の構想と指導案の説明検討 財務会計Ⅰ、簿記、ビジネス基礎 マーケティング、情報管理、プログラミング 2 指導助言	場所：秋田商業高校 指導：県教委指導主事 担当校教頭
(1回目) 7月 (2回目) 8月	(コミュニケーション授業) 研究授業をするクラスで事前授業	大館国際情報学院高校 指導：担当校教頭
8月20日	(提出) 指導案(第2案)	指導：県教委指導主事
9月2日	(打ち合わせ) 前日	大館国際情報学院高校

(3) 指導案検討会で話し合った内容(一部)

- ・指導案に使われている専門用語は、説明があった方がわかりやすいのではないかな。
- ・板書にはどのようなことが書かれるのか。その書かれていることをまとめて振り返るようにしてはどうか。
- ・消費者の立場から、企業の立場に考えを変えて生徒に考えさせるには、時間が足りないのではないかな。ケースや題材を絞ってはどうか。



3 実施上の利点

- (1) 研究授業に向けた組織を作ることで各指導者の「発問の工夫」の理解が深まり、生徒の学びにつながる授業となった。
- (2) 授業検討→事前授業→研究授業→協議会を各担当(指導・会場・授業)が協力し合い行うことができた。

4 今後の課題

- (1) 各校の商業科教員が減少している現状がある。県全体で授業改善に取り組むためにこのような研究授業と研修会を継続して取り組む必要がある。

商業（プログラミング）学習指導案

日 時：平成27年9月3日（木）2校時
場 所：大館国際情報学院高等学校 2年E組教室
対 象：国際情報科2年生 選択者11名
授業者：秋田商業高等学校
T 1 小西 一幸、T 2 小林 克
教科書：最新プログラミング 実教出版

1. 単元名 第2章 プログラミング基礎 5節 オブジェクト指向の考え方

2. 単元の目標

オブジェクト指向に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、高度情報化社会を生き抜くために必要な情報活用能力の重要性を理解するとともに、情報社会に参画する上での望ましい態度について考察を深める。オブジェクト指向の考え方を、プログラミングのみならず、他の商業科目や他教科に用いることができるようになることを目標としている。

3. 単元と生徒

（教材観）学習を通して問題解決の手法や手順を、オブジェクト指向で考える力を身に付けさせる。

（生徒観）情報分野に強い興味を持っている生徒が選択している。

（指導観）難しい科目と思われがちなため、わかりやすい教材の提示方法を考える必要がある。

4. 単元の計画

第2章 プログラミング基礎（全13時間）

1節 プログラミングの手順（2時間）

2節 データの入出力と演算（2時間）

3節 アルゴリズムの表現技法（2時間）

4節 条件判定と繰り返し処理（3時間）

5節 オブジェクト指向の考え方（本時3／4）

【評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
具体的な事象について、 のUML図に関心を持ち、 意欲的に取り組んでいる。 各オブジェクトをUML で表現しようとする意欲 がある。	システム全体の事象のモ デル化の方法について、 UML図で考えることが できる。 各オブジェクトをモデル 化し、オブジェクト間の 関連性を考えることがで きる。	手書きでUML図を書く ことができる。 UMLモデル化ソフトを 使用してUML図を作成 することができる。	オブジェクト指向の概念 や注意点について理解し ている。 UML図を用いてシステ ム全体のデータフローを シミュレーションするこ とができる。

5. 本時の計画

(1) ねらい

- ①システム全体の仕組みをオブジェクト指向で考えることができる。(思考・判断・表現)
- ②システム全体の仕組みをユースケース図で書き出すことができる。(技能)

(2) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
導入 (5)	予習内容を確認する。	本時の内容を明記したプリントを配布・確認させる。	
	本時の目標：オブジェクト指向の考え方にもとづいて、システム全体をUML（ユースケース図）で書き出すことができる。		
展開 (35)	・4人～5人のグループを作る。		
	発問1 このオブジェクトを組み合わせることでどのようなシステムが出来るでしょうか。		
	・グループごとに考える。 (ホワイトボードに記入) ・UMLについて知る。 ・ユースケース図について理解する。	・生徒が適切に話し合いできるように支援する。 ・UMLについてプリントに沿って説明する。 ・ユースケース図の描き方について説明する。	・発問に対して各班で十分に考え、適切に表現できる。 (思) 発表・観察
	発問2 ユースケース図をどのように書いたらよいか。		
	・プリントにユースケース図を記入する。 ・グループ内で一番読み取りやすいユースケース図をホワイトボードに記入し、説明する。	・机間指導しながらホワイトボードをタブレットPCで撮影する。	・発問に対して、各班で考え、わかりやすく説明できる。 (技) 発表・観察
整理 (10)	・タブレットで撮影した写真を全員で確認する。	・シーケンス図についての予習プリントを配布する。	

(3) 目指す生徒の姿

UMLをシステム開発の必須知識の一つとして身に付け、ビジネスの諸活動の様々な場面で活用できる。

商業（ビジネス情報管理）学習指導案

日 時：平成27年9月3日（木）2校時
場 所：大館国際情報学院高等学校
第1コンピュータ室
対 象：国際情報科 2年 選択17名
授業者：秋田商業高等学校
T1保坂 徹、T2石田 雄哉
教科書：ビジネス情報管理 実教出版

1. 単 元 名 第2章 情報通信ネットワークの構築と運用管理
第7節 情報通信ネットワークの構築と運用管理の実習

2. 単元の目標

情報通信ネットワークの構築に必要なネットワーク機器の種類と機能について理解させ、情報通信ネットワークを設計する基礎的な方法について理解させる。

3. 単元と生徒

(1) 教材観

ネットワークは日頃生徒の目に見えないものであることから、実習によってネットワークに対する知識と理解を深めさせたいと考えた教材である。

また、システム障害も教材にした。これはグループで現状分析と解決の手段を話し合わせ、力を合わせて課題を解決していく学習を目指したものである。

(2) 指導観

1年生の情報処理で学んだ知識をもとに、実習を多く取り入れ実物を見ながら、その仕組みや機能などを教えたいと考えている。

(3) 生徒観

情報関係の学習に苦手意識をもつ生徒もいるが、積極的に発言し、作業に取り組む姿勢が見られるなどの雰囲気の良いクラスである。

4. 指導と評価の計画

1. ネットワーク図の作成（1時間）
2. ネットワーク設定案の作成（本時2／2時間）

【評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
ネットワークの構築について関心をもち、ネットワーク構築に必要なハードウェアやソフトウェアについての学習や実習に積極的に取り組もうとしている。	ネットワークを設定するためのネットワークアドレスやサブネットマスクを理解し、要望事項に応じたネットワークの構成を考えられる。 システム障害に対して原因を突き止める考え方ができる。	ネットワークを構築するために有線LANの接続設定、ネットワークアドレスの設定ができる。 システム障害に対して適切に対処できる。	ネットワークの構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法の知識を理解している。

5. 本時の計画

(1) 本時のねらい

ネットワーク設計図を見て、ネットワークを構築できる能力とシステム障害に対処する能力を身に付けさせる。

(2) 展開

項目	学 習 活 動	教師の指導・支援	評価の観点
導入 5分	前時の振り返りと、本時の学習内容と目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 目標を提示し、プリントに記入させて確認をする。 4人のグループに分かれて、役割を分担させる。 	(T1が全体の指示をする)
本時の目標：会社のネットワーク設計図をもとに、ネットワークを構築する			
展開 38分	グループで必要なノートパソコン、スイッチ、LANケーブルを用意する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課題1 グループでネットワークを構築したあと、全員でネットワークを構築し、通信ができるかを確認する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して準備をさせる。 ノートパソコンはローカルログインで立ち上げさせる。 ネットワーク設計図を見ながら、IPアドレスを設定させて、ネットワークを組ませる。 通信の確認はpingコマンドで行う。 全員でネットワークが完成したらサーバに通信できるかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク設計図どおりに接続設定、ネットワークアドレスの設定ができる。 (技) 観察
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 発問：システム障害が起きた時、どの順番で考えて対処すればいいのだろうか </div>	<ul style="list-style-type: none"> どのような障害なのかを確認して、場面や箇所の切り分けを考えさせる。 グループで原因を調査した後、対処の方法を考え、実行させる。 障害への対処が終わったら、プリントに整理してまとめさせる。 	(課題は、T2が準備) <ul style="list-style-type: none"> システムの現状を把握し、障害に対する対処の方法を考え、適切に処置できる。 (思) 観察
整理 7分	本時の学習を振り返る。 後片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> プリントに書いてあることで授業内容を振り返る。 グループで協力して後片付けをする。 	

(3) 目指す生徒の姿

ネットワーク図を見てネットワークを構築でき、ネットワーク障害の対処を考えられる生徒。

「授業アンケート」による授業改善

教 頭 船 木 文 子

1 授業アンケートの導入

平成26年度から「授業アンケート」を取り入れたのは、毎時間「本時の目標」を確認する意識づくりをする方法を考えたことがきっかけであった。5月にアンケートを作成した際、せっかくであれば「本時の目標」だけでなく先生の授業や指導の仕方、さらには生徒の授業への取り組み状況を評価し、先生と生徒がお互いによりよい授業を作る上で参考になるものになりたいと考えた。

1学期のアンケートは任意で行い提出は不要とし、「1：授業のねらいが明確に示されていますか」という最初の質問には注目してほしいことを伝えた。

2学期は勤務評価の面談の際、「教科等の指導 自己目標及び手立て」の自己評価に関連するものがあれば資料として提出してもらった。授業の中で取り組んだ成果を1学期と比較し、成果を確認できる点でも「授業アンケート」は有効であった。

2 27年度1学期の取り組み

27年度は「授業アンケート」を年2回実施し提出することを年度当初にお願いした。そして今年度の重点項目を「8：授業はチャイムとともに始まり、チャイムとともに終わっていますか」「9：私語・居眠りに対して注意するなど、規律のある授業となっていますか」の2点とし、具体的には職員室を始業2分前には出る、授業への参加状況の良くない生徒は職員で共有し指導する等の方法が校長先生から示された。

1学期終わりに実施したアンケートの結果からは、2つの重点項目とも生徒が「そう思う」

と感じる度合いは4段階の「3.73」と「3.61」であった。職員が同じ方向で取り組むことが生徒にも伝わっているといえるが、ここで満足せず向上させることが重要である。

一方、生徒の自己評価では「4：自ら意見を述べたり質問をしたりして、意欲的に授業に取り組んでいますか」が5項目中最も低い「3.28」であることに課題がある。生徒は「みんなで話し合う時間がほしい」「挙手や発言の場面がほしい」とも要望している。6月に研修部で「アクティブラーニング入門」の職員研修を行ったこともあり、2学期は一斉講義式から脱却し、生徒が活動し学び合う授業形態を取り入れようということ、8月の職員会議で共有した。



3D 音楽 発声練習から合唱、器楽演奏 楽典の説明など、多彩な展開で生徒も集中しています。

3 27年度2学期の成果

2学期の授業公開週間は11月中旬から下旬に実施する際、研修部から「ALを意識した授業を心がける～生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する～」が留意点として示された。それを受けて公開週間開始前にはグループ活動を取り入れている数学の授業の実施例(資料1)を、終了後には公開週間の中での取り組み例(資料2)を配布しALやICT活用の取り組みをさらに広げていくように紹介した。

2学期の終わりに実施したアンケート結果には、授業改善の取り組みの成果が現れている。年度当初からの重点項目「8」「9」も向上しているがそれ以上に「4：質問や教材を工夫して、生徒を引きつける授業が行われていますか」は0.19ポイント向上し、また「9：あなたはこの授業に満足していますか」も0.14ポイント向上した。生徒への質問「4：自ら意見を述べたり質問をしたりして、意欲的に取り組んでいますか」が0.18ポイント向上したところにも満足度が現れている。グループで話し合うなどの場面を設けることで授業への参加意識が高まり、自分の発言や活動が授業に関わっていると実感することで満足感が得られているものと考えられる。また「周りの友達の意見を聞くことで理解が深まる」という生徒の感想からも、生徒相互の学び合いの有効性がわかる。

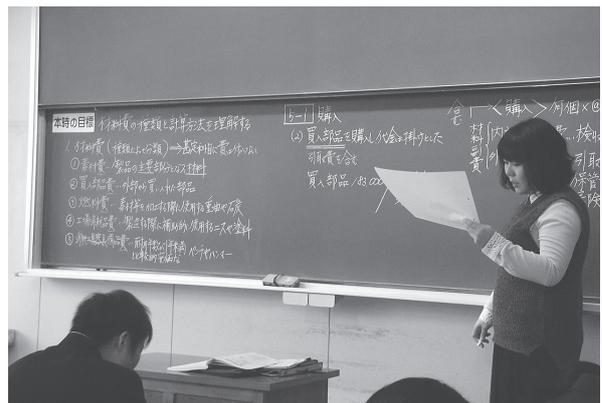
4 これからの課題

2学期に課題として挙げられるのは「2：板書は丁寧でわかりやすいですか」の評価が「3.67」と低い上に、生徒からの要望にも板書に関する記載が多かったことである。授業の基本中の基本にも、まだまだ改善の余地があることをアンケートによって気づかされた。これは次年度への課題としたい。

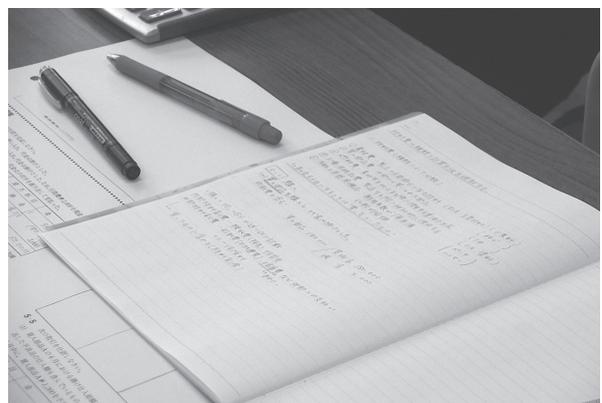
授業アンケートそのものについても、これでよいというわけではない。最後に3点ほど課題を指摘しておきたい。まず1点目は、これが本校の授業のすべてを反映しているわけではない

ということである。数クラス担当している中で1クラス分を提出してもらったが、ほかのクラスはどうかは把握し切れていない。2点目として、単独で行っている授業で実施してもらったため、TTの授業ではアンケートを行っていないことである。TTならではの質問項目があるべきか検討が必要である。3点目は集計作業に手間がかかることである。これはマークシート方式にすることで解消可能と思われる。

今年度は「授業アンケート」で明らかになった課題に研修部の職員研修や授業公開週間がうまくかみ合い、その成果がアンケートの結果にも現れて、職員の励みにもなった。授業改善には「これでゴール」ということはないので、これからも研修部に推進してもらいながらよりよい授業づくりに励んでいきたい。



1 E 簿記 授業のポイントがよくわかる整理された板書。左上には「本時の目標」。



1 E 生徒「毎日の復習やテスト勉強では、ノートを見ると大切な用語がわかるし授業のことが思い出せるので、ノートはとても役に立っています。」

平成27年度授業アンケートの比較

平成28年 1月19日

4. そう思う 3. だいたいそう思う 2. あまりそう思わない 1. そう思わない

No.	A 先生の授業内容・指導内容について	1 学期		2 学期		
		最高 最低	平均	最高 最低	平均	
1	授業のねらいが明確に示されていますか。	4.0 3.0	3.64	4.0 3.3	3.79	↑
2	板書は丁寧でわかりやすいですか。	4.0 2.3	3.55	4.0 2.6	3.67	
3	説明する声が大きく、聞き取りやすいですか。	4.0 3.1	3.78	4.0 3.5	3.87	
4	質問や教材を工夫して、生徒をひきつける授業が行われていますか。	4.0 2.6	3.46	4.0 2.9	3.65	↑
5	学習内容は、わかりやすく説明されていますか。	4.0 2.4	3.53	4.0 3.0	3.68	↑
6	授業は、生徒の理解度を確認しながら、適切なペースで進められていますか。	4.0 2.2	3.50	4.0 3.0	3.67	↑
7	生徒の発言や反応を大事にしていますか。	4.0 2.7	3.63	4.0 3.1	3.74	
8	授業はチャイムとともに始まり、チャイムとともに終わっていますか。	4.0 3.2	3.73	4.0 3.4	3.82	
9	私語・居眠りに対して注意するなど、規律のある授業となっていますか。	4.0 3.2	3.61	4.0 3.0	3.74	
10	あなたは、この授業に満足していますか。	4.0 2.6	3.56	4.0 3.0	3.70	

No.	B あなた自身の取り組みについて	1 学期		2 学期		
		最高 最低	平均	最高 最低	平均	
1	始業のチャイムと同時に着席し、授業の開始を待っていますか。	4.0 3.3	3.83	4.0 3.6	3.85	
2	指名されたら返事をして起立し、明瞭な声で答えていますか。	3.9 2.5	3.47	3.9 3.1	3.59	
3	私語・居眠りを謹んで集中して授業を受けていますか。	4.0 2.9	3.52	4.0 3.2	3.63	
4	自ら意見を述べたり質問をしたりして、意欲的に授業に取り組んでいますか。	3.9 2.5	3.28	3.9 2.9	3.46	↑
5	提出物や宿題などの課題にきちんと取り組んでいますか。	4.0 3.4	3.76	4.0 3.3	3.79	

↑は0.15以上アップした項目

授業に対する意見・要望等があれば、自由に記入してください。	
1 学期	<p>【テスト対策】 ・テスト範囲を早く知らせてほしい。 ・一週間前よりもう少し早くしてほしい。</p> <p>・テスト対策の課題を作ってほしい。</p> <p>【授業ペース】 ・授業の進むペースが速すぎる。 ・ゆっくり説明してほしい。</p> <p>・授業の進度はもっと速くてもいい。 ・発展問題をもっと多くしてほしい。</p> <p>【授業形態】 ・グループ学習をしたい。 ・みんなで話し合う時間がほしい。</p> <p>・挙手や発言がしやすい環境にしたい。 ・公平に当ててほしい。</p> <p>・実習があってわかりやすかった。 ・実験をもっとやりたい。</p>
2 学期	<p>【授業形態】 ・周りの友達の見聞を聞くことでわかることが多くなったと思う。</p> <p>・一人一人が発表する機会を作るとよい。 ・グループ活動を増やしてほしい。</p> <p>・回って教えてくれるのでわかりやすい。</p> <p>・自分で勉強できる時間があり、集中できる。</p> <p>【板書】 ・テスト前にノートを見ても意味がわからないことがある。</p> <p>・丁寧な字で書いてほしい。 ・「重要ポイント」の色を毎回変えないでほしい。</p> <p>・スクリーンに映す文字が見えにくい。 ・ホワイトボードの文字が見えにくい。</p>

数学授業改善 「グループ学習」

生徒どうして教え合い、関わり合いを増やし、やる気を起こさせながら、学習課題を全員が理解できるように、グループごとの学び合いを行う。

クラスの席順を利用

取り組み方法

1. 実施の前の時間に生徒に連絡

- ①グループ人数（3名～4名） 2名や5名以上は学習効果低下
- ②グループを指示する
- ③代表者1名（話し合うときの司会）、発表者1名（班を代表して、発表する）
代表者と発表者は毎時間交替する
全班が決定するまで班の代表者は手を上げている
- ④約束毎の確認を行う
 - ・授業に関係すること以外の私語は禁止
 - ・班員全員が理解するまで、班内で話し合う
 - ・発表した人の間違いなどを冷やかさない、他クラスの人に言わない。ネットにも掲載しない
 - ・発表者、大きな声で「ハイ」といい、単語だけの発言はしない。理由をしっかりと述べる
 - ・教師側の「まとめ」の時には、机を元にもどす



2. 課題は黒板に板書したり、プリントを配布して、子供達に何を考えれば良いか明確にする。「さあ、はじめ」で机をくっつけて開始 5分

3. 学び会う時間 20分

または 35分

4. 発表（意見、解答）10分



5. まとめ5分

6. 確認テスト・プリント（配布）3分 解答3分

成果の確認 次回どうしたら学習の理解が進むのかを考える 2分

7. その他

授業をスムーズに教え、生徒理解が図れる教具

黒板に班の番号を書き、班の発表者が学び合いが終われば○をする。

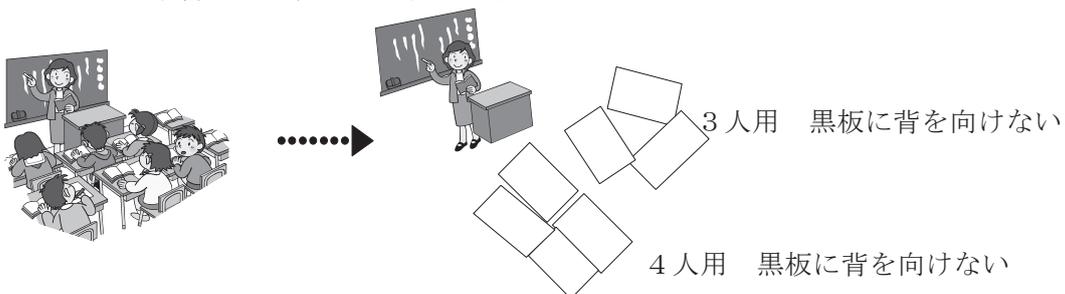
○が付いていない班には、他の班の代表者などが教える。

教師は手順を明確に説明し、時間を有効に管理することを心掛ける。

使用教具

実物投影機（板書時間を減少）、パソコン、スクリーンなど

グループ学習の3人、4人の机の向き



平成 27 年度 第 2 回授業公開週間の授業から 研修部
【基本編】 生徒の興味・関心・意欲を高める工夫

資料 2



2D 日本史 生徒の問いかけに挙手で答える。単純ですが参加意識が生まれます。



1F 家庭基礎 「家事も育児も積極的に行います」と表明する男子。将来が楽しみです。

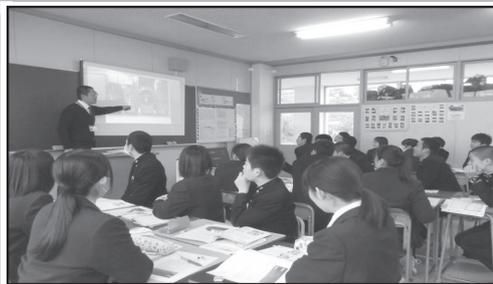


1CD 体育 手本を示す船木日向君と鈴木勇斗君。生徒が輝く場面を意識して作っています。



3B 生物基礎 高校生でも先生からマルをつけてもらうときはやっぱり嬉しそうです。

【実践編】 ICT活用はもう当然



2A 保健 全員の視線がスクリーンに集中。先生の説明もよくわかります。

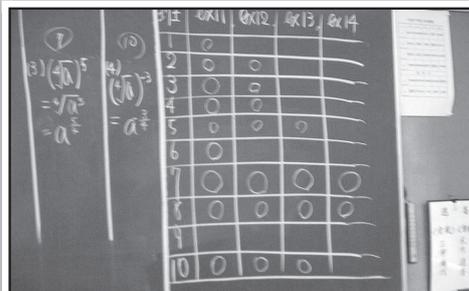


3A コミュ英Ⅱ ビックパットで提示した教材は視覚に訴え、理解も一層深まります。

【発展編】 グループ学習を一層効果的に



3ACE 国語表現 話し合ったことをホワイトボードに書いて発表。中学校でもやっています。



3E 数学Ⅱ 班ごとの進み具合がわかる表。他の班の人に教えてもらって解決できます。

第1回校内職員研修

「アクティブラーニング入門」 ～アクティブラーニングの意義と実践について～

講師：産業能率大学 入試企画部長
林 巧 樹 氏

1 概要

日時：平成27年6月29日（月）

会場：情報処理室

講師：林 巧樹氏（産業能率大学 入試企画部長）

趣旨：「生徒の興味・関心をかきたてるための授業改善」を目標に、一方向的な講義形式授業を見直し、生徒主体の能動的な授業実践へ向けての意識改革を図る。

2 内容

○ウォーミングアップ

・後出しじゃんけん（講師の先生とじゃんけん）

1. 勝つ
2. あいこ
3. 負ける

・自己紹介（教科、名前、1日が25時間だったら、寝ること以外に何をしたいか。）

☆アクティブラーニング教室が安全、安心の場であることが条件。子どもたちの話し合いが成立する場でなければならない。

○アクティブラーニングが出てきた背景

①富士フィルム

ーカメラ技術を応用し、化粧品を開発。売り上げの20パーセントが化粧品。

②コンビニエンスストアと歯科診療所の数の比較

ー歯科診療所の数がコンビニエンスストアより、25,000軒多い。そのような状況下、歯学部に進んだ学生にかかった学費の元手がとれるのか。資格をとっただけでは一生食べていける時代ではなくなってきた。

③携帯電話

ー高校生のスマートフォン所持率は80パーセント。定期考査時にインターネットサイトのグーグルを持ち込んだら、ほとんどの人が満点をとることができる問題である。

④車

ープリウスのような次世代自動車は、2000年には所持率6万台程度であったが、2013年には、所持率500万台となった。かつて珍しがられていたものが、時代の進歩につれて、当たり前なものとなる。

<まとめ>

次世代を担う子どもたちも、現在存在しない職業に就いたり、企業に就職する可能性が高く、せっかく得た知識も使えなくなる可能性がある。そのために知識を得るだけでなく、生涯学び続ける習慣を身につけることが大事である。

また、企業が求める人材は①主体性 ②コミュニケーション能力 ③実行力であるが、なかなか身につかないのが現状である。主体性・コミュニケーション能力・実行力とともに論理的思考力・課題解決能力を育むために、アクティブラーニングが推奨され始めた。

○演習1：ボートの絵を見て、今の時代からこれからの時代を言い表しているのはどちらか、理由を含めて話し合う。(1分30秒で)

左の絵) 優秀な1人のリーダーの存在あり。

—高度経済成長時代を象徴。前を向いている人は1人で、他の人々は指示されながら動いている。

右の絵) リーダーなし。

—自ら主体的に動いている。何が起ころかわからない時代なので、個々人がリーダーシップを発揮しながら生きていかなければならない。

<考察> 全ての人が主体性を持って行動しないと成り立たない時代だからこそ、社会で自立して生きていくために必要な力(主体性、思考力、表現力、判断力)を養うためにアクティブラーニングを授業に取り入れる必要がある。何をできるようになるか、何を学ぶかではなく、どのように学ぶかが大事である。

○演習2：どんな会話をしているか、話し合う。(2013年度東京大学入試問題(英語)より)



写真の左側の人物をX、右側の人物をYとして、二人の間の会話を自由に想像して書きなさい。分量は解答欄におさまる程度とする。

XとYのどちらからはじめてもよいし、それぞれ何度でも発言してよい。

ただし、どちらが会話しているかわかるように、X：……Y：……のように記しなさい。

☆いつ、どこで、何を（5W1H）を聞いている。課題解決能力に何が必要か、仮説をつくれないと課題解決は不可能である。英語の問題にもかかわらず、自由記述の問題を取り入れているのは、課題解決能力を測るためである。正解は1つではなく、論理的に整理して、課題解決を導く思考が必要となる。

アクティブラーニングとは課題の発見、解決に向けた主体的、協働的な学びである。

○まとめ

小中学校はアクティブラーニング形式の授業多い（全体の26%）。しかし、高校では激減している。学力テスト、PISAでは高学力だが、高校に入ると学力が低下する理由として、講義形式の授業の多さがあげられる。この状況を改善するために、大学入試の改革と、先生が説明するだけでなく、生徒が説明する授業に転換する必要がある。話す、書く、聞くことの3技能のすべてを活性化させることがアクティブラーニングであり、生徒が主体的に活動することが大事である。

宮城県や岩手県では進学校でもアクティブラーニングを導入している。アクティブラーニング実施以前は、半年前に学習したことが、半年後には5パーセントしか身につけていないとのデータがあげられていたが、アクティブラーニング実施後は、90パーセントの定着率に変化した。このことからアクティブラーニングは知識の定着にも役立つといわれている。

第2回校内職員研修

「心と体の健康づくり」 ～アンガーマネジメント講座&エアロビクス～

講師：臨床心理士

石山 宏央氏

日体協公認エアロビクス指導員

石井 亜紀氏

1 概要

日時 平成27年12月10日（木）

平成28年1月18日（月）

会場 会議室・講堂

趣旨 いらいらや怒りを自ら管理し、適切な問題解決や良好なコミュニケーションに結びつける心理技術を学ぶとともに、実際に体を動かすことにより心身の健全化を図る。

2 講話記録

「学ぼう自分自身のメンタルヘルスケアーアンガーマネジメントー」

講師 石山 宏央氏（臨床心理士）

（あきた心理センター センター長）

1) はじめに

皆さんこんにちは。今年度からスクールカウンセラーとしてお世話になっております、臨床心理士の石山と言います。今日は先生方の研修会ということで、いろいろあるテーマの中から特に「アンガーマネジメント」ということで話をいただきました。このようなキーワードを設定することは、日頃それだけ先生方が本当にご苦労されているのだろう、一生懸命生徒や保護者と関わっているのだろうという思いです。そうなれば当然、先生方のストレス・負荷は相当なものだろうと察します。今日最初は「アンガーマネジメント」の本題に入る前に、本当に先生方がそれだけ苦しんでいるのか、辛いのかというあたりを少しのぞいてみようと思います。

2) 「家」「木」「人」の絵からわかる心の状態

これから絵を描いていただきます。渡った紙を横にして家を一軒描いてもらいます。もう一枚は縦にして木を一本描いてもらいます。裏には人を一人描いてもらいます。特に難しいことはないと思います。定規等は使いません。鉛筆があれば鉛筆で、なければボールペンで結構です。消しゴムを使って構いません。それでは、描いてみてください。

そろそろ描けたでしょうか。これから見る絵の見方は、一つは大きさです。大きいというのは紙からはみ出るくらいの大きさです。小さいというのはやや定義しづらいですが、あまりにも空白があるようなものです。それ以外は普通ということになります。まず、小さい絵を描くという人はそれだけ自分自身を發揮できていないという可能性が強いです。職場の中で萎縮していると思ってください。次に筆圧です。線が太いか細いか。細い人はやはり自信のない方と言えます。

それから破線を連続で描く方も同様です。逆に比較的どっしりしている人は一本線でヒューッと描くことが多いです。言い換えれば、破線で描くという人はそれだけ繊細だということが言えるのかもしれない。

「木」の絵を見てください。皆さんの木はどんな木ですか。三角の形の木を描いた人はどちらかというといらいら度が高めです。丸い形はまず普通と言えるでしょう。枯れ木のような木を描いた人は少し抑うつ的な状態の人です。「この木なんの木」のような木を描いた人はもしかしたらプレッシャーが相当かかっているのかもしれない。このように木の種類や樹幹の描き方でわかることがあります。次に、幹の太さはどうですか。ざっと見た感じ、皆さんは太い幹を描いているように見えました。だから、皆さんは多少のことではつぶれない先生方だろうと感じます。また、幹の中に線などを描いた人はいますか。そのような人は少しデリケートな人と言えます。また、地面については、普通は描きません。描いた人は自分自身がやや不安定という要素が出ていると言えるのかもしれない。

次に「家」の絵を見てください。この絵で大事なものは、まず扉が描かれているかどうかです。無い人はよほど人との関わり方が慎重な人です。きちんと人を見て厳選して本当に大丈夫だなという人とししか関わらない。同様の考え方はスロープを描くとか家の前に壁や塀を描くとか。これらも防衛的な人がそういう絵を描くことがあります。また、雲とかお日様とか描いた人はいますか。通常描かないですね。雲を描く人は少し心の状態が曇っている。太陽は、「なぜもっと自分を見てくれないんだ、ちゃんと私を見て」というアピル的なところがある人が描くことがあります。地面については、「木」の絵と同様のことが言えます。

最後に「人」の絵についてです。ポイントは三つあります。一つめは顔に目や耳や口が描かれているかどうかです。そろっているのが一般的です。これらはコミュニケーション手段のツールですので、やはり必要です。「耳」がないのは他人の話を聞きたくないということにつながります。「目」がないのは見たくない、「口」がないのは他人と話したくないということにつながっていく可能性があります。特定の人にそのような感情的なものがあるのか、全体的に他人に対してそのようなものがあるのかは定かではありませんが、いずれ生徒も先生方も、目、口、耳の3点セットはそろってほしいと思います。次に手を見てください。グーになっているのか、パーになっているのか。グーはいらいら度が高い人と言えます。通常はパーなどが圧倒的に多いと思います。したがってグーというのは、内面に抱えているもの、あるいは、こらえているものがもしかしたらあるのかもしれない。ポケットに手を入れているとか、後ろに手を回している人はいますか。そのような人は他人には言えない秘め事を持っている可能性があります。ちなみに今までの中高生の事例でいくと、万引きをした生徒、警察にやっかいになった生徒は、だいたい手を隠す絵を描くことが多いです。

以上、三つの絵について説明してきましたが、先生方は基本皆さん元気だろうと、そんなにいらいら感が出るようなことはないだろうという気がしました。でも一応今日は「アンガーマネジメント」ということで、少しそのいらいら感・怒りについて見ていきたいと思います。

3) アンガーマネジメント概要

①怒りとは

「怒り」というのは自分のメンタルヘルスと非常に密接な関わりがあります。この「怒り」というものをコントロールすることで、良好な対人関係を築くことができます。人間関係というのは二つの要素から成り立っています。一つは人、もう一つは感情です。感情と感情がぶつ

かるので、人間関係は非常に難しくなってきます。その感情の中の「怒り」というものをうまくコントロールすることで、良好な関係を築くことができます。思い通りにならずむかむかするとか、あるいは一時的にかつとなって人にあたってしまったり、怒りによる行動で人を傷つけることは皆さんはありませんか。僕自身もあります。僕自身も気が短いです。子どもたちや保護者の方と話すときは全く苦痛を感じないが、それ以外になると気が短くなってしまいます。

②アンガーマネジメントとは

日常の中でちょっとした怒りやいらいらを感じ、我慢しすぎてストレスの原因になったり、人間関係がうまくいかなかったりというのは誰にでもあるはずで、「アンガーマネジメント」というのは、アメリカ生まれで、怒りの感情と上手に付き合うための心理トレーニングといえます。プロスポーツ選手のメンタルトレーニングはもちろん、企業の研修でも取り入れられています。人間関係を良好にして、生産性を上げる効果があります。部活動の中においても、こういったことを取り入れて行っているというところもあります。

③アンガーマネジメントのプログラム

1 生理的反応への対応

興奮した身体や心を沈静化するためのストレスマネジメントを学びます。

2 認知反応への対応

混乱している状態を整理するために考える力を育てます。状況を客観的に把握したり、視野を広げたり、先を見通す力を育てます。

3 向社会的判断力・行動力の育成

自分の気持ちや欲求を適切な方向に表現する「ソーシャルスキル」というものを学びます。

4) 具体的な対処方法

①いらいらを点数化する

具体的にどのように対応していったらいいかという
と、まず一つ目は、いらいらを点数化するという
ことです。自分の今のいらいらは何点かと、点数をつけてみる
ことによって本当に自分が何に対して強く怒っているの
かがよくわかります。本当は怒る必要がないことに怒っ
ているということがわかって、点数が低いいらいらに振
り回されなくなるということもあります。



②いらいらを書き出す

さらにいらいらしたものを書き出すことで、何となくいらいらするという漠然とした意識を正確に理解し、コントロールします。よくカウンセリングとはどういう効果があるのかと尋ねられますが、我々はカタルシスと言っていますが、たまっているものを吐き出す、整理する、そういうことによって非常に気持ちがゆったりしたり、もう少し客観的に見たりということができるようになります。それがことばの書き出しであったり、あるいは絵だったりでもいい。一つ書くことによって、書く作業で頭を冷静にできます。書くことで、対策・対処法を用意できるようになります。そして自分の怒りのパターンがわかります。

③いらいらに優先順位をつける

また、いらいらに優先順位をつけます。いらいらにどれぐらいのエネルギーと労力を配分す

るのか。優先順位が高いものには取りかかり、低いものは無視する、または静める、流すということも必要です。

④いろいろな価値観を楽しむ

あとは、いろいろな価値観を楽しむ。我々は、見方、とらえ方を広くしなくてははいけません。人の価値観は十人十色です。ほかの人の価値観を理解しろとは言えませんが、そういう考え方もあるのだという感じになっていけばいいと思います。あえて人の価値観を楽しんでみる。そうすると、世界はおもしろく興味深い人たちだらけになります。受け入れてみるということ。あまり自分だけの世界、自分だけの物差しだけで考えてしまうのは、いらいらにつながってしまいます。

⑤「魔法の呪文」と「タイムアウト」で心を鎮める

「魔法の呪文」と「タイムアウト」というのがあります。

どうしても我慢できないときには心の中で「怒るのもしかたない、大丈夫、大丈夫」というように、魔法の呪文を自分自身にかけると効果があります。誰かに優しい言葉をかけられて気持ち落ち着くように、自分で自分に優しい言葉をかけるのも同じ効果が得られます。これはリラクゼーションにも大きく関わっています。震災など緊急事態が起きたときの心のケアの一つにもこの方法が取り入れられています。「あなたはあなたのままでいい、大丈夫」と言ってあげることでとても落ち着いてきます。それを自分自身に言い聞かせることによって、自己暗示で落ち着かせていきます。

さらに冷静になった頃には「タイムアウト」です。その場をいったん離れて落ち着くと、無駄なけんかを防ぐことができます。「ずらす」ということです。その場所にとどまらずに少し移動してみる、離れてみるということもいいです。

⑥呼吸を大きくゆっくりにする

それから呼吸法になります。呼吸を大きくします。いらいらすると危険対処のために頭に血が上り、緊張状態になります。鼻から息を大きく吸って、吸うときの倍の時間をかけて吐くということが基本になります。大きく吐き出す、大きく息をすることで、心が落ち着いていきます。

⑦人それぞれの「怒りのパターン」を知る

さて、いらいらすると人はどういう行動をとるでしょうか。いらいらしているかどうかはどうやって見分けるか。まず目が違います。ほかに見やすいのは肩です。肩が上がります。また、腕も組んだりします。これは要注意、危険信号です。このポーズのときはいらいら感がだいぶ高めです。このように、体のある部分を見れば、緊張度やいらいら感がわかることがあります。

我々は怒るときには傾向パターンがあります。でもそれを覚えていません。いつ、何が、どうして、という自分の怒りのレベルをメモしておく、自分がどのような状況で怒りやすいかが客観的にわかるようになります。自分を知ることが必要です。たとえば怒りを感じるシーンとして、仕事をするふりをして遊んでいる人を見たときに、あるいは、夕飯のおかずが野菜ばかりで肉がなかったとき、などです。これは、必ず仕事をするべきだ、夕飯には必ず肉を出すべきだなどの、その人のルールによるものです。〇〇すべきというものを少し変えてみるのが大切です。

⑧白黒つけない

それから、白黒つけない、はっきりさせない。世の中の多くのことは白黒つかないものとして、現実をそのまま受け入れます。むりやり白黒をつけると、考え方にゆがみが出てしまいま

す。現実を事実として受け止めるということも必要です。

⑨80点で満足する

そこそこで満足するということも必要です。完全主義、完璧主義をやめましょう。これらの主義はマイナス点ばかりが気になって、現状に満足できないということに陥ってしまいます。何が足りないかというところに目を向けるのではなく、今何ができているかというところに目を向けるということが大事です。

⑩なんでも褒めてみる

これは「認めてあげる」と置き換えていいかもしれません。結果というよりも努力したプロセス、道のりを認めてあげます。「そのプロセスをしっかり見ているよ」と、生徒や先生方同士で言い合えるというのは非常にモチベーションも高くなりますし、団結力や、何かに挑戦する意欲が出てきます。人の欠点を探すのではなく、できたところを見てあげる、がんばってきた道のりをうまくたたえるということをしてみるということが必要です。

⑪気分転換できるものを用意する

お茶やコーヒーを飲むとか、アメを舐めてもいいでしょう。少しリフレッシュというのも効果があります。気分転換できるものを用意しておきたいです。

⑫過去と未来を考えない

今この場所、時間に集中するということが大事です。過去のことを思い出していらいらしたり、次に会ったときにどうやって言うてやろうなどと考えたりしないようにしましょう。

⑬他の人と比較しない

比較することで、自分のいらいらを誰かのせいにしてしまうため、解消できません。いらいらの責任が自分にあることを認め、自分で鎮める必要があります。



⑭理想の人を見つけて真似をする

自分の尊敬する人を目標にして真似てみます。まず真似から入る。それがだんだんと自分のものになっていき、理想の人に近づくことができます。

⑮嬉しかったことや楽しかったことを書く

いらいらを書き出すと先ほど話しましたが、これは嬉しかったことや楽しかったことも書いてみましょうということです。そうすることで、いらいらした絶望的な考えに支配された頭を切り替えることができます。したがって普段から楽しいことをやっておかなければいけないということになります。先生方は限られた時間を有効に使っていますか。仕事は仕事、遊びは遊びというふうに、うまく分けながら生活していくことが必要です。

⑯成功体験を思い出す

自分が何かをうまくやりとげたこと、うまくいったときのことを思い出すことによって、失敗して投げやりな気持ちから抜け出し、自信を取り戻し、自分を勇気づけることができます。

⑰怒りのメカニズム「べき」が怒りの原因

怒るといのは自分が信じている「〇〇するべき」「〇〇するべきでない」というものが裏切られたとき、思い込みが裏切られたときに怒りを感じます。しかし、信じている「べき」は、人によって違います。自分の「べき」にしがみついていると、いらいらしたりけんかの原因になったりします。それぞれの「べき」を擦り合わせておくと、けんかの原因がわかり、いらいらをなくすことができます。

⑩「べき」の許容範囲を広げるといらいらしない

たとえば、待ち合わせの時間に、時間通りに来る→OK、5分遅れる→許容、5分以上遅れる→NG、というのを、30分に置き換えて考えます。一気に30分が無理でも、7分なら許すかな？ 10分なら許すかな？ というふうに、許容範囲を広げてみるのも効果があります。

⑪「怒り方」にもコツがある。上手な怒り方とは？

怒ることはだめなのではなく、上手に怒ることが必要です。そして怒らなくてもいいことには怒らないようにするという線引きが大事です。怒ったことで後悔や罪悪感を覚えるかそうでないかが、線引きのひとつのキーワードになります。

⑫怒るときのNGワード

「前から言おうと思ってただけど」「なんで？」「いつも、必ず、絶対」これらは怒りをより大きく見せるための「修飾語」です。相手の不信感を買ったり、相手を追いつめたりするだけなので使わないほうが良いでしょう。

⑬上手な怒り方

まずは聞き手が落ち着いて話を聞ける状況か観察します。そして、相手の言い分を聞き、それを受け入れます。また、感情的にはならず、本当に伝えたいことを伝えます。上手に怒ることはなかなか難しいと感じるかもしれませんが、相手に次からどうしてほしいかを冷静に伝えることが大事です。学校現場においては、「考えさせる」「諭す」「振り返らせる」といった手法も大切でしょう。昔は生徒に対してスパルタ的に、攻撃的に、感情的に怒ってうまくいったということが多々あったかもしれませんが、近年はそういう指導では生徒が伸びない、伸びにくいという考え方に変わってきています。いろいろな競技の指導者を見ると、皆非常に冷静です。感情的にはなりません。落ち着いて平然として、にこっと笑っているくらいです。そういうふうな指導が教えられる側にとってはよりのびのびとでき、結果もついてくるようです。

5) リラクゼーションの方法

1 自律訓練法

一種の催眠療法。目を覚ます動作（消去動作）が必要。眠くなるということは緊張がほぐれるということ。「心の中で気持ちがとても落ち着いている」という自己暗示をかける。

実施の手順

- ①静かな部屋で、ベッドに仰向けに寝る。(椅子でも可)
- ②軽く目を閉じて、体の力を抜く。
- ③公式を繰り返し心の中で唱える。頭の中にイメージしながら、何回か繰り返す。

公式

基礎公式「気持ちがとても落ち着いている」

第1公式 手足の重感「手足が重たい」

第2公式 手足の温感「手足が温かい」

第3公式「心臓が静かに打っている」

第4公式「呼吸が楽にできる」

第5公式「お腹が温かい」

第6公式「額が涼しい」

消去動作

- ①両手をゆっくりと2～3回グーパー

②両ひじをゆっくり曲げ伸ばし

③大きく背伸びをする

2 呼吸法

腹式呼吸。いつでもどこでもできるのがよいところ。

実施の手順

①鼻からゆっくり大きく息を吸う（おなかをふくらませる）「1 2 3」

②少しとめて「4」

③口からゆっくり息を吐く（おなかをへこませる）「5 6 7 8 9 10」

3 漸進性筋弛緩法

意識的に筋肉に力を入れて、その後ゆるめることを繰り返すことで、リラックスしていく方法。

実施の手順

①からだの各部分に思い切り力を入れて緊張させる。

②しばらくその感覚を保ったあと、ストーンと力を抜く。

6) おわりに

思ったより先生方は元気がある、いらいらが少ないと感じました。この状況が続けばいいでしょうし、いらいら感や怒りが出そうになったときに、自分のパターンや対処方法を身につけることで、かなり対応ができます。先生方は本当に日頃から生徒のためにご難儀されているというのが重々伝わってきます。先生方の健康、活力というものが生徒たちに影響しますので、どうか先生方は元気で過ごされて、これからの生徒たちへの指導をしていただければと思います。

実技 「軽めのエアロビクス」

講師 日体協公認エアロビクス指導員 石井 亜紀 氏

講堂において、30分ほどの運動を行った。最初はストレッチや軽いステップから始まり、徐々に全身運動へと発展していった。

軽快な音楽と講師のかけ声にリードされ、時間が過ぎるもの忘れ、日頃運動不足な先生方も楽しく体を動かすことができた。



教職員全員参加による「AED研修」

総務部 米 澤 雅 史

1 AED研修の導入

本校では「職員研修」として、隔年または秋田市の規定により3年に1度、教職員全員がAED研修を実践している。今年度は教職員全員が一堂に会して研修を受けることとした。数年前、私自身がさいたま市で作成した「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」に出会ったことがきっかけである。平成23年9月にさいたま市で駅伝の課外練習中に当時小学校6年生の桐田明日香さんが亡くなった事故から生まれた教員研修用のテキストである。

本来であれば、このテキストを使って事前の講習会を行い、実践すべきところではあるが、実際に体験し、危機意識を持ってもらう方が良いと考え、夏休み明けに本校で行われている球技大会直前に全職員対象で実施することとした。

2 ASUKAモデル

ASUKAモデルの内容は以下になる。(テキスト目次より抜粋)

1 日常における重大事故の未然防止

教職員一人ひとりの危機管理に関する意識や資質の向上、重大事故発生時に迅速かつ的確に対応できる危機管理体制の整備について

- (1) 教職員等の危機管理に関する意識や資質の向上
- (2) 危機管理体制の整備
- (3) 自己の健康管理に関する指導

日々の継続的な健康観察の実施によって、児童生徒に自己の健康に興味・関心をもたせ、自己管理能力を育成する。

2 体育活動時等における重大事故の未然防止

- 指導開始前と指導終了後に、指導者全員でチェックリストを用いて、1分程度のブリーフィング（最終打ち合わせ）を行う。

3 重大事故発生時における対応

- 重大事故が発生した場合、児童生徒の生命及び身体の安全確保を最優先とした、迅速かつ適切な対応を行う。
 - (1) 第一発見者としての対応
 - (2) 応援者としての対応

4 事故発生後の対応

- (1) 事実確認と分析
- (2) 傷病者の保護者等

現在はASUKAモデルのホームページに他に、「使おうAED、減らそう突然死」というホームページも立ち上がり、中には様々な命の記録MOVIEや「心止村湯けむり事件簿」というサスペンスドラマゲームなど誰でも理解しやすく、わかりやすい内容のものが掲載され、AEDの必要性や多くの命が救われた事例を見ることができる。

授業中や休み時間、部活動など学校内で何が起こるか、また自然災害がいつ発生するのか予測ができない状況では、誰もが遭遇する可能性がある。どのような状況下であっても、迅速に対応できることは、教職員としての使命であり、職務と考えている。

3 今年度の取り組み

秋田市消防本部では普通救命講習など各種講習会を準備しているが、本校では特に応急処置、AED使用方法、災害時の心得に特化した講習会をお願いした。以下当日（8月21日）の講習内容である。

- ① 通常日常生活における事故防止、手当の基本
- ② 人工呼吸や心臓マッサージの方法
- ③ AEDを用いるまでの流れ
- ④ AEDの使用実技
- ⑤ 止血の仕方、包帯の使い方
- ⑥ 骨折などの場合の固定、患者の搬送（担架がない場合）
- ⑦ 災害時の心得

実施終了後に実施したアンケートでは、危機意識の向上や緊急時の対応意識の向上を見ることができた。



4 今後の取り組み

来年度の取り組みとして挙げられるのは、「新任者についても同様の講習会の実施」、「様々な状況下における対応（授業時、部活動時、登下校時）」、「上位の講習会の実施（心肺蘇生法（主に成人を対象）、AED、異物除去法、大出血時の止血法など）」を考えている。

今後も全教職員が危機意識を持ち、事故対応ができるよう研修を続けていきたいと考えている。



勝平小・中・高・特別支援学校連携協議会

研 修 部

◎学校間連携のねらい

勝平小学校・勝平中学校・秋田商業高校・秋田きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで、長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着、生活習慣の形成に努める。

1 と き 平成27年5月13日（火）

2 と ころ 秋田市立勝平中学校

3 日 程

授業参観 13：35～14：25

連携協議会 14：45～16：00

(1)全体会 14：45～15：00

①勝平中学校長あいさつ

②今年度の学校間連携についての説明

(2)分科会（学部会・プロジェクトの協議）15：05～15：35

(3)全体会 15：45～16：00

①各部会からの報告

②勝平小学校長あいさつ

4 参加校 勝平小学校・勝平中学校・秋田きらり支援学校・秋田商業高等学校

5 中・高連携部会で話し合われたこと

1) 昨年度の事業について（勝平中2年生 商業科目授業体験）

- ・2月という時期は天候が悪かったりすると生徒全員を連れて行くのが大変で、もっと早い時期にしてもらいたかったが、昨年度に関しては天候にも恵まれてよかった。しかしながら本当はもっと早い時期がよかった。
- ・授業内容に関しては、コンピュータを使った授業を体験させてもらい非常によかった。授業前に商業についての説明があったが、それもとてわかりやすくよかった。
- ・以前は秋商の生徒も授業に参加してくれていたが、昨年度はなかった。先生だけというのも、それはそれでよかったかもしれないが、生徒に「自分も高校生になったらこんなふうになれるんだ」と思ってもらえるいい機会だったかもしれない。
- ・秋商側の事情で昨年度は午後の授業体験ということになったが、そのおかげで午前中は授業（3時間）を行い、お昼を食べてから移動、授業体験後は現地解散という流れになって、とて

もよかった。(以上、勝平中学校の先生方より)

2) 今年度事業について

①11月10日 勝平中学校指導主事計画訪問時の授業参観及び各教科協議会参加

②2月16日 勝平中2年生 商業科目授業体験

- ・今年度の勝平中学校2年生の要望も聞き入れつつ、商業高校の特性を生かした授業を体験させたい。
- ・2月は3年生は自宅学習期間ということもあり、進路の決まった3年生、できれば勝中出身の生徒を補助員に使っての授業体験を実施してもらいたい。

3) 勝平中学校における「秋商に関する掲示コーナー」の設置について

①商業科目授業体験時の写真展示

②秋商に入学した生徒からの手紙掲示

勝平中学校側からの提案

- ・昨年度までは ①は体育館に続く廊下、②は3年生の教室棟の廊下に展示していたが、今年度は①②を一緒に展示するなどして充実を図りたい。

6 授業参観した先生方から

1) 授業内容について (参考になったこと)

- ・TTの形での科学実験の実施について。

Fe + S → FeSの実験について、SO₂発生危険性もあるため、しっかりとした危機管理のもとで実験しなければならない。生徒たち(1年生)も落ち着いて授業に臨んでいたように思う。

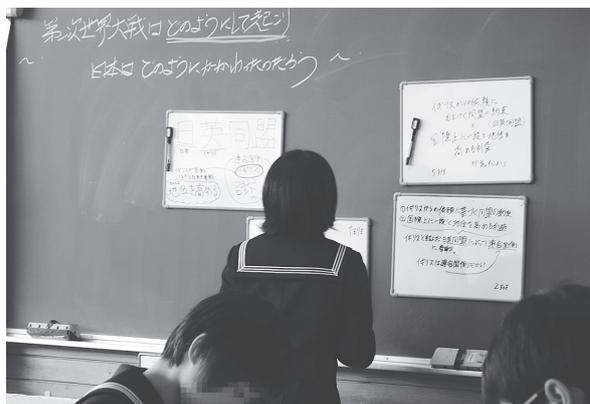
- ・グループ学習の際にホワイトボードを使って意見をまとめさせていた。被服室に関連分野の書籍や新聞記事を掲示しており、自然と生徒が興味を持つような工夫が感じられた。家庭科のマークシートに“やってみたいこと”という欄があり、学んだことを実践させる仕



社会の授業



社会の授業



社会の授業(ホワイトボードを使って)

掛けが工夫されていると思った。

- ・ 1, 2, 3年の各学年の数学の授業を参観したが、全員が参加する工夫がされていた。
- ・ 生徒の思考を促すような発問の工夫が見られた。グループ学習のように動きのある授業展開があった。
- ・ 中学校の年次による学習内容の差を確認することができた。
- ・ 中学校がどこまで指導しているかが実際の授業を見てよくわかった。高校でも実践できる授業方法だった。

2) 授業参観した感想

- ・ 時期的には厳しい時期であるものの、中学校の授業を見るのも参考になると思う。今回は1年生と3年生の2クラス見ることで興味深かった。
- ・ 各クラスの人数が30人弱と理想的で、指導が行き届いているのがよくわかりました。生徒の自己紹介文など、掲示されているものの記入が丁寧で、文章もしっかりしており、感心しました。教科（家庭科）の指導に関しては、大変丁寧に学んだことを生活の中で実践させるような指導をされていましたが、高校生の指導をしていると（本校だけかもしれませんが）、せっかく学んだことが身につけていない生徒もいます。やはり、くり返し定着させる必要があると感じさせられました。
- ・ どの授業でも一人一人がしっかりと取り組んでいた。全校でそのような取り組みがされている成果であると感じた。
- ・ 中学校の授業を参観する機会がなかったので、よい機会をいただいた。一方的な授業展開が多くなりがちな高校の授業の改善点にもなる部分があった。
- ・ 授業での英語使用について考えるきっかけとなった。
- ・ なかなかない機会なので、可能な限り今後も参加したい。

【参観した教科】

英語（3） 数学（3） 理科（3）
社会（2） 国語（4） 家庭（2）



家庭科の授業(洗剤の実験)



理科の授業(実験)



数学の授業



国語の授業(ペアワーク)



国語の授業(グループ学習)

3) 中高連携について

- 普段なかなか見ることのできない異校種の授業を拝見する貴重な機会であると感じている。できれば担任は必ず入る水6（LHR）の前でなければ非常に助かるが、なかなか難しいのだろうか。研修の機会があることはとても良いことと思う。
- 中学生がどのように学んでいるのかを知る貴重な機会なので、ぜひ今後も継続してほしい。
- 内容についての検討は毎年必要であると思うが、中高連携は進めてほしい。



中高連携部会

勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会参加報告

研 修 部

- 1 と き 平成27年11月10日（火）
- 2 ところ 秋田市立勝平中学校
- 3 日 程 特定授業参観 11：05～11：55
研究協議会 13：45～15：05
- 4 参加者 本校からは、特定授業（研究授業）参観に7名、その後の研究協議会に7名、延べ8名の先生が参加した。

～参加した先生方から～

授業参観した感想

- ・生徒がとてもactiveで、担当の生徒との普段からの信頼関係ができているなど実感しました。communicativeな授業で、とてもよかったですと思います。できれば普通の授業を今度は参観してみたいと思いました。（英語）
- ・考える時間を多くとっていたので、うらやましいと思いました。他の単元も参観してみたいです。（数学）
- ・中学校で古典にどのように触れて高校に入学してくるかがわかった。文語文法や逐語訳で高校1年で古典嫌いになる生徒がいる現状から脱する上で参考にしたい。（国語）
- ・生徒の反応がとても良く、楽しく活動していた。生徒の特性を活かした役割の与え方で、授業の中で、一人一人の生徒が活躍する場面があった。（英語）
- ・高校とは違う学習形態（ジグソー学習の授業スタイル）を見ることができて、参考になった。（社会）

【参観した教科】 国語（3） 英語（2）
社会（1） 数学（1）



教科研究協議会の様子

【英語科】

- 内容 ・参加者全員から活発な意見が出て、研究主題、協議題に沿った内容だった。
- ・日々の授業実践について活発に話し合いがなされていた。
- 感想 ・年に一度は中高連携の機会があってもよいと思いました。
- ・中学校の先生方が授業の中で常日頃大事に



英 語

されていることを聞くことができ、大変参考になりました。中高連携の観点からも生かせる点がたくさんありました。

【数学科】

内容 ・自己紹介、学校の説明、授業について、研究議題、指導・助言の順に行われた。

感想 ・発問について指導主事の先生から聞いたことがすごく参考になりました。



数 学

【国語科】

内容 ・配慮するところが、教材より生徒の実態に合わせたグループの作り方であったり、また話し合いのスキルであったり、中学校と高校の視点の違いを感じた協議会であった。終始和やかだった。

感想 ・中学校の場合は教科指導と生徒指導が50/50であり、様々な生徒がいるので、上位校を目指す生徒はある程度自分で先を進めなければいけないと感じました。



国 語

【社会科】

内容 ・勝平中研究主題の背景、授業者から、授業について（方法・内容の深め方）、指導主事の指導助言の順に行われた。

感想 ・今まで知らなかった学習方法を知ることができ、中学校でグループ学習をどのように進めているかなども学ぶことができたので、有意義であった。



社 会

勝平中学校2年生による商業科目授業体験

商業科 櫻庭 咲子

1. はじめに

小・中・高・特別支援学校連携協議会において、勝平小・中学校、秋田商業高校、きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着に努めるとされている。そのような状況の中で、中高交流授業の一環として勝平中学校の2年生が秋田商業高校を訪問し、授業を体験することで商業科目及び商業高校についての理解を深めている。

2. 実施内容

今年度の中高連携授業は平成28年2月16日（火）に行われ、本校の3年生が「電子商取引」で学ぶHTML言語を用いてWebページの作成を行った。勝平中学校の生徒はメモ帳を使って、HTML言語をタグという命令文で入力した。その際、半角と全角の区別や区切りにスペースを入れたりする入力制約があり、それを守らないと思い通りのページが表示できないため、生徒たちは資料を見ながら時間をかけて入力作業を行っていた。Webページがうまく完成した際には歓声があがり、生徒たちは達成感を味わったようである。また、当日は勝平中学校卒業生である本校3年生8名がアシスタントとして授業を手伝い、中学生の質問に臨機応変に対応するとともに、困っている生徒に優しく声がけをしていた。



時 間	内 容		備 考
～ 9:50	秋田商業高校到着、生徒昇降口で内履きに履き替えて各教室へ		1 校時
10:00 ～10:10	総合情報処理室（定員88） 84名（男子49、女子35）	プログラミング室（定員44） 40名（男子32、女子8）	2 校時
	開会行事 （進行：鎌田） 1 挨拶（村上教頭） 2 日程説明 ※アンケート用紙配布	開会行事 （進行：谷内） 1 挨拶（船木教頭） 2 日程説明 ※アンケート用紙配布	
10:20 ～11:30	授業体験 担当：小西、菅原、鎌田 ※補助員 勝平中卒業生 （3年E組5人）	授業体験 担当：谷内、大久保 ※補助員 勝平中卒業生 （3年F組3人）	3 校時
11:30 ～11:40	閉会行事 1 挨拶（村上教頭） 2 勝平中生徒挨拶 ※アンケート回収	閉会行事 1 挨拶（船木教頭） 2 勝平中生徒挨拶 ※アンケート回収	
11:50～	勝平中学校へ移動		

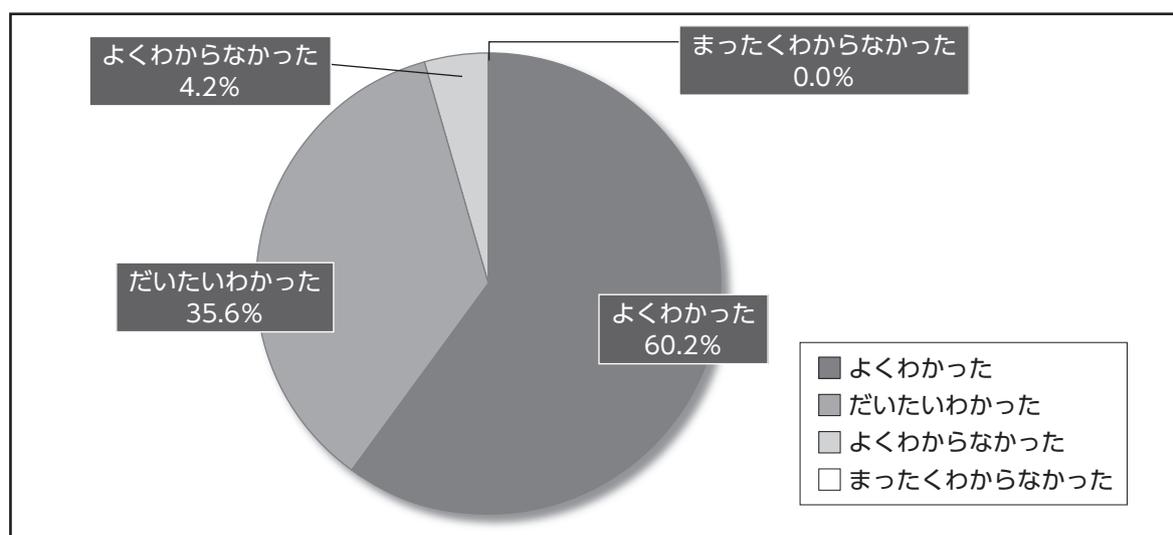
3. 中学生の感想

参加した生徒からは「この体験を進路につなげたい」「自分の好みの色を組み合わせることで納得のいくウェブページを作ることができた。パソコンでこのようなものを作るということは結構おもしろく、もっと大きなものも作ってみたい」「パソコンを使いこなせた方が将来絶対に役に立つと感じた。秋商の先輩方は丁寧で優しかった」などという感想が寄せられた。

4. アンケート集計結果（対象者 勝平中学校2年生 118名）

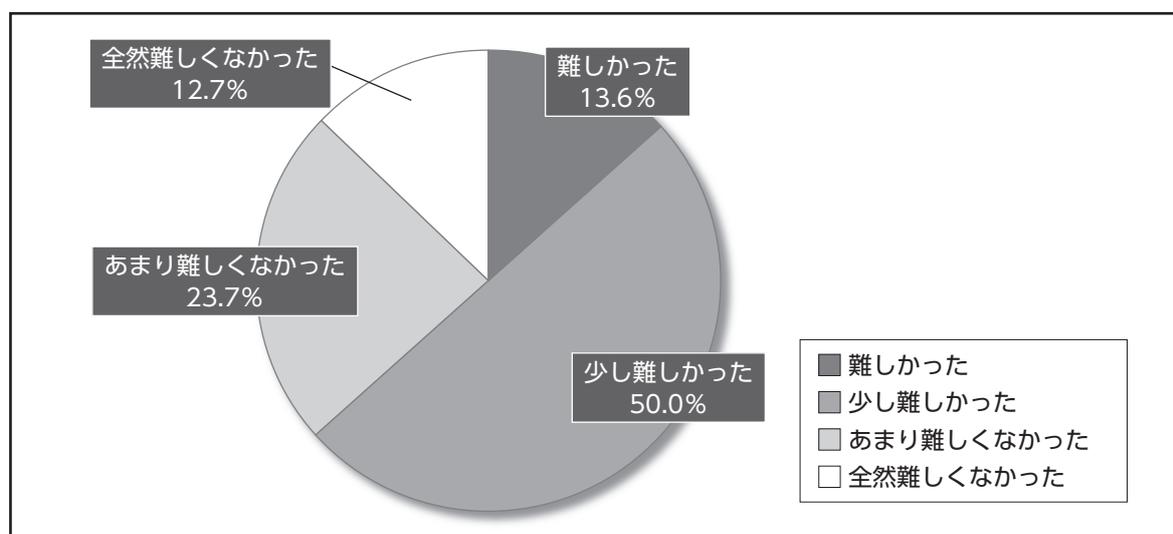
1 授業の内容はわかりましたか？ (人)

よくわかった	だいたいわかった	よくわからなかった	まったくわからなかった
71	42	5	0



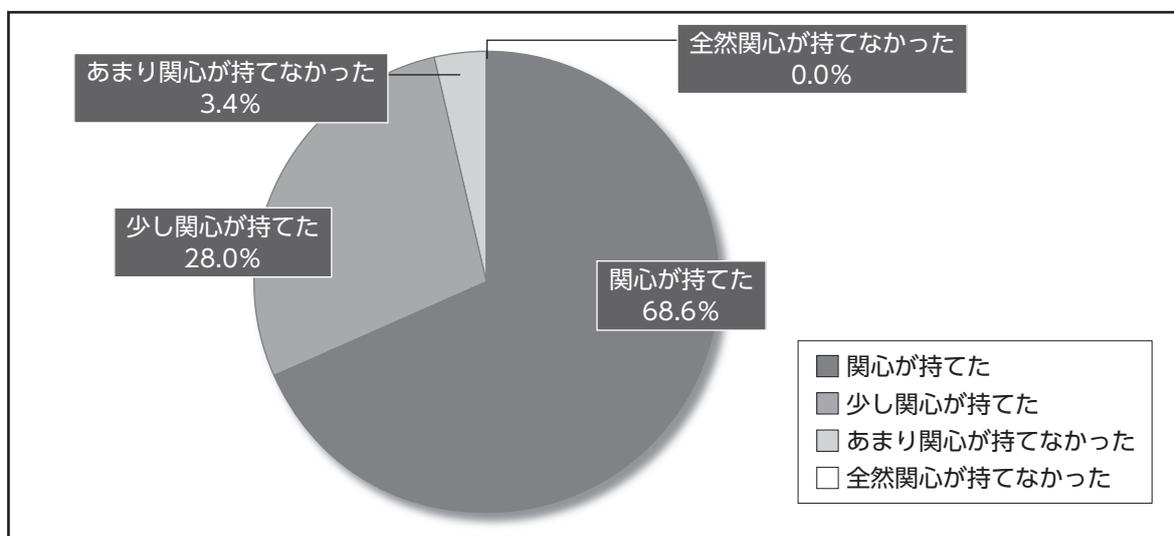
2 授業内容は難しかったですか？ (人)

難しかった	少し難しかった	あまり難しくなかった	全然難しくなかった
16	59	28	15



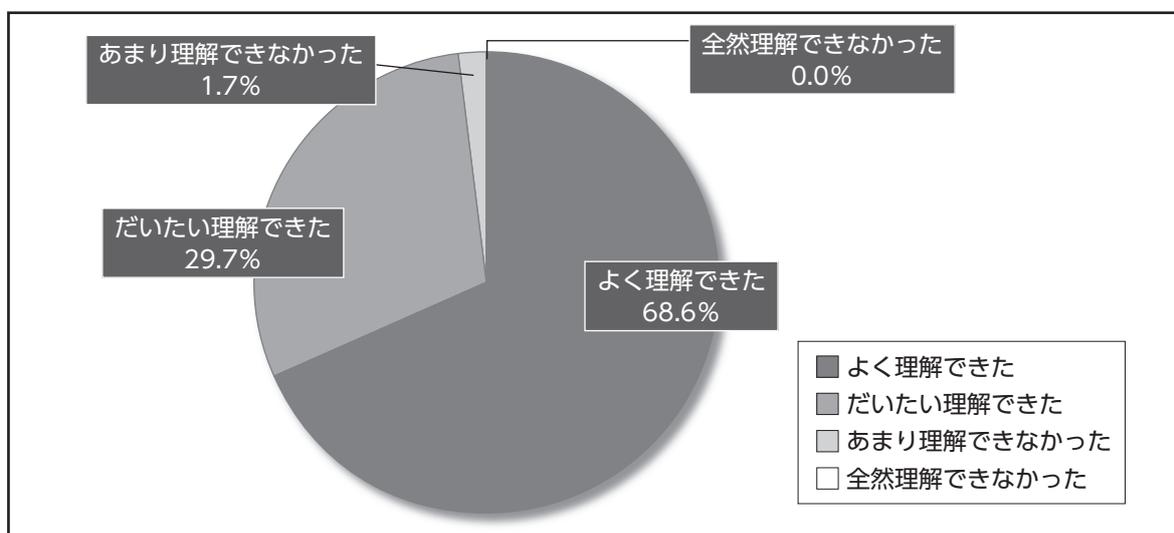
3 授業内容に関心は持てましたか？ (人)

関心が持てた	少し関心が持てた	あまり関心が持てなかった	全然関心が持てなかった
81	33	4	0



4 先生の話は理解できましたか？ (人)

よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	全然理解できなかった
81	35	2	0



5. 参加生徒からの質問 Q & A ※答えは後日「アンケート結果」と共に勝平中学校へ送りました。

Q 「はじめに打った文字に何の意味があるのかわかりません」

A ホームページを作るための言語です。

〈HTML〉～〈/HTML〉はホームページを作るという意味です。

〈BODY〉～〈/BODY〉の中で記述したものが画面に表示されます。

Q 「パターンをどう変更すれば、青や黄色など自由に色を変えられるのですか？」

A 色は「# 0 0 0 0 0 0」の部分を変更します。

#000000→黒 #FFFFFF→白 #FF0000→赤 #00FF00→緑
#0000FF→青 あとは、組み合わせます。 例) #FF00FF→紫

Q「ホームページへ曲を転送するにはどうすればいいのですか？」

A 〈BODY〉～〈/BODY〉や〈HEAD〉～〈/HEAD〉の中に曲を流すプログラムを記述することで流れます。ただし、著作権がありますので安易に流すことはできません。

Q「ウォークマンに曲を入れるにはどうすればいいのですか？」

A 取扱書を読んでみましょう。

無くした場合は、製品のHPよりダウンロードしましょう。

Q「楽天市場の仕組みをもっと知りたいです。」

A 簡単に説明できるものではないですが、楽天に登録したお店に売り上げがあがると数%が楽天に収入として入ります。

Q「パソコンにもっと慣れるにはどうしたらよいですか？」

A 使う機会を増やすのが一番です。(ゲームでもOK)

6. 参加生徒の感想(抜粋)

- ・Webページを作ってみて特別なソフトがなくても簡単に作れることがわかった。
- ・自分の好みの色を組み合わせる納得のいくウェブページを作ることができた。パソコンでこのようなものを作るということは結構おもしろく、もっと大きなものも作ってみたいと思った。
- ・パソコンでホームページを加工してみたりしました。自分好みの色などで作る場所が楽しかったです。友達にも教えることができました。今日の授業で自分の知識が高まったと思います。
- ・背景の色を変えることが簡単にできることに驚きました。家でもやってみたいと思います。
- ・この授業では、数字を替えたりするだけで、文字の大きさや色が変わったので自分の家のパソコンを使ってページを作ってみようと思います。
- ・電子取引についての勉強はとてもわかりやすく、楽しかったです。少し難しいところはあったし、キーボードで打ったりするのが大変だったけれど、先生の話がとてもわかりやすく、すぐ理解することができたので、こういう授業がまたあったら積極的に参加したいです。
- ・自分はよく楽天を利用するので、電子商取引の初歩を学べてよかったです。とても貴重な体験をさせていただきました。
- ・パソコンをあまり使わないので、うまくできる



「Webページを作ろう」



「楽天を利用したことのある人」の問いかけに…

か自信がありませんでしたが、授業内容がわかりやすく楽しかったです。難しいと思っていたパソコンも簡単で楽しいことがわかったので、家でもやってみたいです。

- ・打っていくうちに楽しくなって、とてもおもしろかったです。早く終わって、友達に教えるのもおもしろかったです。家にあるパソコンも使いたいと思います。
- ・初めて聞いた言葉など難しいところもありましたが、先生や先輩の教え方が上手でとてもわかりやすかったです。
- ・意外に体力と集中力を使った。色を変えたりするのがおもしろかった。先輩の人たちがすごく優しくかった。
- ・先輩方の教え方がわかりやすく、とてもためになりました。一つ間違えてしまうだけで、画面に映るものが違ってくるのはおもしろいと思いました。
- ・少し手間がかかるのですが、完成したときの満足感はすごかったです。家でもできたらやってみたいです。

- ・最後に色を変えることができませんでした。色を変えること以外はしっかりできたので、楽しかったです。家にもパソコンはありますが、あまり使わないので少し使いたいと思いました。
- ・今日やってみてあまりうまくできませんでした。色の付け方が全くわからなくて焦りました。授業を受けてみて、PCの使い方があまり理解できていなかったの、家でも少し練習したいです。

- ・自分は商業に行きたいと思っていましたが、パソコンなどを持っていなかったの、やれるのか不安でした。でも今回の授業を受けてみて、説明もわかりやすく、また、パソコンを操作するのがとても楽しかったので、より行きたいと思えるようになりました。
- ・今日の授業で、商業の授業にとっても興味を持った。今のところ商業に行きたいと思っているのでとてもいい体験ができた。
- ・商業にあまり関心はなかったけれど、今日の勉強で少し関心が持ててよかったです。そしてパソコンの使い方も結構わかったのでよかったです。
- ・商業高校の勉強は進学というよりはビジネスについてのいろいろなことが学べるんだなと思った。



情報コースの3年生が個別にサポート



Web ページの色を好みの色に変えています



サポートしてくれた勝中OBの先輩と授業者にお礼のこたば

また、パソコンは便利だけど、ファイルがたくさんあって大変だなと思った。

- ・パソコンを使いこなせた方が将来絶対に役に立つと思いました。秋商の先輩方は丁寧で優しくかったです。
- ・今日の授業は簡単でやりやすかったです。将来、パソコンを使う仕事がしたいので、とても勉強になってよかったです。
- ・パソコンの技術を少しでも磨くことができよかったです。今日習ったことを家庭でもやってみたいなと思いました。先輩の皆さんも優しく教えてくださったのでうれしかったです。ありがとうございました。
- ・何か間違ったところがあればサポートの人が教えてくれてわかりやすかった。また、普段パソコンを使っていて自分がわからないことを知ることができ、とてもいい授業だった。今後このことを生かしていきたい。
- ・もともとパソコンを使うのが好きなので興味深い内容だった。できれば段落ごとに何を表しているのかをもう少し詳しく教えてほしかったです。

授業公開週間実施報告

研 修 部

【趣 旨】 お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。

【テーマ】 生徒の興味・関心をかきたてるための授業改善

【期 間】 1回目 6月15日（月）～26日（金）

2回目 11月16日（月）～27日（金）

※11月24日（火）～27日（木） コラボレーションフェア

【授業するに当たっての留意点】

1回目 「本時の目標」をきちんと示し、確認する。

2回目 ①「本時の目標」をきちんと示し、確認する。

②アクティブラーニングを意識した授業を心がける

※生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。

（グループ学習・教え合い・調べ学習・考察・発表など）

【実施方法】

事前に一

○時間割を時間割変更黒板に掲示。期間中、出張・年次の場合のみ、赤で斜線を記入する。

○授業変更が生じる場合は、変更後のクラス・実施場所などを直接書き込む。

○見てほしい授業（アピール授業）を赤枠で囲む。

期間中一

○全職員が必ず自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上の授業を参観する。なお、期間中に参観できない場合は、期間外に参観する。その際は、授業者の承諾を得る。

○フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよいが、時間の半分（25分）以上は参観する。

○参観時には『参観シート』を持参し、アンケート及び授業者へのメッセージを記入する。

※1授業につき1枚

○指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者と研修部に配付する。

○名票を時間割変更黒板に掲示。自教科、他教科各1時間でも参観したら○をつける。

【実施状況】 アンケート結果から

「第1回 授業公開週間」アンケート集計結果

参観者数 44人／50人（88％）

自教科 40人／50人（80％）

他教科 44人／50人（88％）

◎参観シート集計結果

質問1	参観日	人数	
1	6月15日	3	
2	16日	12	
3	17日	9	
4	18日	20	◎
5	19日	8	
6	22日	5	
7	23日	13	
8	24日	4	
9	25日	14	
10	26日	12	
	計	100	

質問2	参観校時	人数	
1	1校時	20	
2	2校時	25	◎
3	3校時	19	
4	4校時	16	
5	5校時	12	
6	6校時	8	
	計	100	

質問4	参観教科	人数	
1	国語	14	
2	数学	13	
3	英語	9	
4	社会	8	
5	理科	11	
6	商業	24	◎
7	保体	14	
8	家庭	2	
9	芸術	5	
	計	100	

◎アピール授業実施者数 6人

1 実施時期及び期間について

I この時期・期間でいい

- ・適切だと思う。(7)
- ・実施時期及び期間については現状のままでよい。
- ・期間はこの時が一番よいと思う。

II 多少問題もあるが、仕方ない

- ・他の業務と重なり苦勞した部分もあるが、この時期でよいと思う。
- ・教育実習生の指導等で忙しい先生もいたと思うが、この時期しかなかったと思う。
- ・いつ実施しても誰かが忙しいと思います。この時期でやり続けて定着させた方がよいと思います。
- ・どの時期であっても忙しいという方はいるので、どこかでやらなくてはならないのであれば、この位の時期でよいと思います。

III いつでもいい

- ・通年で個々人の都合が良い時、教員間の交渉で実施。

IV 変更してほしい

- ・教育実習生の指導が入り時間が作れない。
- ・教育実習生が多数いて、空き時間等は指導案の指導があったり、研究授業があり、忙しいです。(最終週も実習生が本当はいました)
- ・6月のこの時期はありだと思うが、東北総体がらみでの時間変更も多く、考慮いただければと思った。
- ・東北大会期間中で出張があり、少し参観が大変でした。
- ・11月中旬など。

2 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容

I グループ学習など

- ・生徒相互の学び合い。
- ・間の取り方、話し合うタイミング。(グループ学習)
- ・グループに分かれて、生徒同士で教え合う授業。

- ・グループ活動を題材として、生徒により身近なものを選びたいと思った。
- ・グループ学習。
- ・アクティブラーニング。

II 視聴覚教材の活用

- ・パソコンの活用。(黒板にはって記入、パソコンを黒板に写す)
- ・ICTを活用している授業。
- ・視聴覚教材。
- ・ホワイトボードみたいなスクリーンを使用した授業。(ICTの利用)
- ・電子黒板を使用しながら授業を行ってみたい。
- ・パソコンとプロジェクターを使った授業。教室もインターネット回線があれば、ネットのサイトなどを見せながら授業ができるので、あれば便利かなと思いました。
- ・PCや情報機器を使った授業はできるのだが、更に一步進めた授業ができたらと考える。普通教科でも、もっと活用しなければと思った。
- ・近野先生のプレゼンの授業は、生徒の総合力を見ることができると感じた。
- ・数学…… ICTの活用。

III その他

- ・内容というより雰囲気をもっと真似したいです。
- ・わかりやすい例えを取り入れた説明が参考になったので取り入れていきたい。
- ・指示の出し方。
- ・実物を生徒の手で持たせ、生徒が活動する中で学んでいく授業展開。
- ・生徒に基礎事項を定着させるちょっとした工夫。
- ・商業の授業で身近な「広告」という現物からグループ学習を行っていた。身近な題材を使用したい。
- ・生徒の興味関心を引きつけ、1時間その興味をそらさない授業構成と言葉かけ。
- ・設問に対して生徒が答える内容をさらに深く追究していくこと。今の学習がどのような場面で活用できるか、活用されているかを説明すること。
- ・100%英語を使った授業。
- ・アットホームな雰囲気。
- ・説明や映像を見せるだけでなく、今回の理科のように実際に実験などを取り入れてみたい。
- ・音読させて文の意味を理解させること。
- ・千田先生の「科学と人間生活」でスナック菓子の油分を測定する実験を行っていました。身近なものを題材にする活動を自分でも取り入れたいです。

3 今後、自分の授業で改善したいと思っていること

I 板書の仕方

- ・板書について、生徒が理解しやすいようもっと整理して書くこと。
- ・板書のバランス。一言一言の言葉づかい。
- ・効率の良い板書、教材の提示。(帳簿など板書すると時間がかかるため)
- ・板書の工夫。

II 視聴覚教材の活用

- ・プロジェクターや動画をうまく活用した授業をしていきたい。

-
-
- ・板書の時間を削り、少しでも多く生徒の発話の機会を増やしたい。そのためにICTの活用は有効な手段だと思った。
 - ・スクリーンを使った授業展開。
 - ・ICTの活用。グループ学習。講義形式からの脱却。

Ⅲ「本時の目標」の掲示

- ・「本時の目標」の示し方を工夫したいです。(高校生なので色々な示し方があると思う)

Ⅳ 教材の精選・開発

- ・教材研究のあり方。

Ⅴ その他

- ・生徒への問いかけを多くし、授業に集中しやすいようにしたい。理科の分野に限らず、様々な話題を出せるようにしたい。
- ・説明中心から、生徒の動き(活動)のある展開にしていきたい。
- ・生徒の声を生かす授業展開。
- ・発問の工夫。
- ・生徒を動かす授業の展開。
- ・講義式の授業からの脱却。
- ・生徒の発言回数の増加。
- ・生徒が動ける授業を考える。(作業をさせる)
- ・グループ学習を有効に活用すること。
- ・寝せない授業の継続。
- ・たくさんありました。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、深みのあるものにしたい。
- ・生徒の主体性が育つ授業。
- ・基礎力の低い生徒への授業での対応。
- ・生徒が活動する場面を増やしたい。
- ・生徒が何のために今の学習、今の課題があるのかを理解し、取り組み後に有用感の残る授業。
- ・同じ学年でもクラスによって雰囲気が違う傾向にあるので、実態に即したわかりやすい授業を目指したいと思います。
- ・生徒が集中できる静かな環境でありながらも和やかな雰囲気の授業作り。
- ・講義式から脱却しつつ、生徒が課題にしっかり向かい合う方法について。なおかつ、進度を確保するにはどうバランスを取るか。
- ・教室で座学で授業に向かう生徒について、学習意欲向上の手立てをさらに考えたい。
- ・ICTの割合を増やしたいと思いつつ「ひたすらノートを書く」ことで、生徒に「忍耐」をつけさせたい。
- ・動と静、メリハリのある授業をしたい。

4 その他、要望など

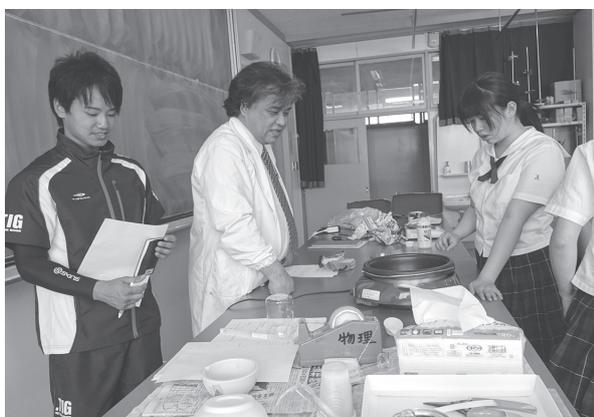
- ・若い先生方にアピール授業を積極的にやってほしい。



生徒企画によるアンケートの実施と、結果分析を報告しているところ。このグループは「現代の若者の結婚観」をテーマとした。(近野)



授業を参観しながら熱心にメモを取る先生、じっくり見ている先生。



食品から油脂を取り出す実験をしています。身近にあるものを利用して実験を行っています。(千田)



広告の企業名について、何の業態か学習グループごとに話し合わせ、各グループの結果を発表してもらっているところ。(大久保)



ネットワークの実習。ビニールテープでグループを作り、その中でネットワークを構築していきます。見えないものを見えるように工夫しました。(保坂)



数学の時間、グループ学習に取り組み、班毎（3名～4名）に問題を解きながら、導いた答えを発表させている。考える時間や発表の時間、説明の時間を増やすため、問題を実物投影机を利用して映しながら授業を行っています。(木村)

「第2回 授業公開週間」アンケート集計結果

参観者数 50人/50人 (100%)

自教科 46人/50人 (92%)

他教科 49人/50人 (98%)

◎授業参観シート集計結果

授業参観日			人数
11月	16日	月	4
	17日	火	11
	18日	水	8
	19日	木	20 ◎
	20日	金	16
	24日	火	11
	25日	水	17
	26日	木	13
	27日	金	11
その他			1
計			112

参観校時	人数
1校時	12
2校時	20
3校時	16
4校時	14
5校時	33 ◎
6校時	17
計	112

参観教科	人数
国語	9
数学	18
英語	19
地歴公民	19
理科	6
商業	29 ◎
保健体育	7
家庭	1
芸術	4
計	112

◎事後アンケート集計結果

いくつの授業を参観したか

授業数	自教科	他教科
1	35	37
2	6	8
3	2	1
4	1	1
5以上	0	1
未記入	3	1

	はい	いいえ	未記入
アクティブラーニングを意識した授業をしたか	47	1	1
「組織で取り組む授業改善」を意識したか	31	17	1

◎アピール授業実施者数 49人/50人 (98%)

実施時期について	今のままでよい	38
	変えた方がよい	11

- 意見
- ・2年部の行事が多かった時期。
 - ・時期はいいが他の行事との兼ね合いを考えてほしい。
 - ・今回の時期は適さないと思う。
 - ・コラボレーションフェアと重ならない時期。
 - ・修学旅行・インターンシップと重ならない時期。(同様の意見2件)
 - ・11月は避けた方がよい。時期を定めるのは難しい。
 - ・各中間考査後。
 - ・前半の1回目をなくし、後半はこのままで良いと思う。

実施期間について	今のままでよい	44
	もっと短い方がよい	3
	もっと長い方がよい	2

- 意見【短い方がよい】 10日、7日
 【長い方がよい】 年間を通していつでもお互いに授業参観できる雰囲気作りが大切かと思う。
 21日

<自分の授業に取り入れたいと思った授業内容>

グループ学習・アクティブラーニング等について

- ・実験を取り入れたグループ学習
- ・グループ学習のテーマ (考えさせるポイント)

- ・役割をきちんと分けたグループ学習
- ・グループ学習の利点がわかった。可能な限り、グループ学習を増やすなど努力してみたい。
- ・グループ学習とICTの活用
- ・グループ学習のやり方の改善
- ・グループで話し合いをした内容を黒板に貼る。
- ・グループで教え合いながら学習していた点
- ・生徒の自分で考える力が身につくと思う。
- ・ディスカッションを取り入れてみたい（特にグループ内で）。
- ・小林、田中両先生の授業での個々によるアクティブラーニング
- ・ペアワーク
- ・グループワークによる問題演習
- ・知識の共有（グループ学習）
- ・グループ学習
- ・発表（生徒の答えや考えを発表する）
- ・グループで課題に取り組ませる際に、裏紙を綴じたものを使った泉先生の授業
- ・「生徒に説明させる」場面を取り入れてみたいと思った。

ICTについて

- ・実物投影機やPCを用いた授業を行いたい。実験室でできれば良いのだがなかなか難しいと思う。
- ・パワーポイントを使った授業（国語）
- ・プロジェクタを使った授業（商業科・国語科）
- ・PCを使った授業（国語科・社会科）
- ・図やグラフを提示しながらの説明

その他

- ・ALTとのTTを有効に活用する。
- ・1時間の授業の中に、調べること、考えることをしっかり取り入れている（定着させている）授業
- ・芸術（音楽）の授業で雰囲気がとても良く普段から信頼関係があるのがよくわかった。積み重ねが大事だと実感した。
- ・見本を確認しながらの作業（情報処理）

<自分の授業で改善したいと思っていること>

グループ学習・アクティブラーニングについて

- ・グループ学習での私語をなくすようにしたい。
- ・グループ活動をした際の進度の遅れ
- ・グループ活動で話し合った後の発表の仕方をどうしたらよいか。
- ・グループ学習を行わずにアクティブラーニングを行うこと
- ・生徒同士が英語を使って会話（長め）やディベートを行う活動の導入
- ・身につけさせたい力は何かを意識したアクティブラーニング
- ・まだまだ講義式のところもあるので、脱却を図り、アクティブラーニングをもっと意識するよう改善をしていきたい。
- ・話し合っ発表したことをどのように評価につなげていくのか考えた授業展開にするべきだと思った（アクティブラーニング＝話し合いで完結しがちなので）。
- ・ICTの活用（アクティブラーニングの手助け）の方法を改善する必要がある。

教材・教具について

- ・ノートとプリントをいかに両立させるか。
- ・「ノートをひたすら書く」以外にも生徒が活動できるように教科研究・授業作りから改善したい。
- ・映像で確認しながら授業（実技）できれば効果的である。
- ・パソコンの有効活用
- ・ITの使用上のトラブル回避について
- ・ICTを活用した授業を展開したい。
- ・いつでもだれでも気軽に使用できる環境整備の必要性を感じた。

指導の工夫・授業展開について

- ・思考を深めて、ノート等に記録し、それを積み重ねていくスタイルの授業
- ・発問の工夫
- ・授業内で生徒が考えたことを発表する時間を多くする。
- ・生徒同士で教え合う場面を増やす。
- ・もっと考える時間をあたえられるようにしたい。
- ・発問、発表について工夫したい。
- ・授業のあらゆる場面で、生徒が何を「考える」「作業する」「確認する」べきか明確に指示される授業を心がけたい。
- ・説明、練習の他、生徒が話をする場面を作るよう考えたい。
- ・個々の生徒が主体的（＝能動的）な授業活動
- ・板書の仕方
- ・「授業の目的」と「生徒の活動」がもっとリンクするような授業展開を考えたい。
- ・ポイントを絞って生徒にじっくり考えさせたい。
- ・人前で発表する態度、表現する能力の育成
- ・帯活動の継続
- ・ただ作業の繰り返しは改善したい。考える授業にしたい。
- ・生徒を引きつける授業。単純な一斉授業を繰り返さない。

その他

- ・商業科の理科指導について改めて考えていきたい。現行の単位数でできることを考えた上でもっと体験的な内容を増やすことができればと思う。
- ・やはり楽しい達成感のある授業、英語力がつく授業をこれからも目指していきたい。
- ・見たい先生、授業が自分のコマと重なっていて見に行くことができないでいた。



子どもの生活習慣の確立と親のかかわりについての授業。（佐々木）



グループワークをしている生徒のプリントに丸つけているところです。（舟木）

【参考】第2回授業公開週間で使用

「平成27年度授業公開週間参観シート」

授業参観者名 ()

授業担当者名 ()

授業参観に関する以下の項目についてお答えください。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。

：空白マーク ：正しいぬりつぶし ：不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

(1) 授業参観した日を塗りつぶしてください。

16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
24日(火)	25日(水)	26日(木)	27日(金)	月 日

(2) 授業参観した校時を塗りつぶしてください。

1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時
-----	-----	-----	-----	-----	-----

(3) 授業参観した教科を塗りつぶしてください。※ () 内には科目をご記入ください。

国語 ()	数学 ()	英語 ()
社会 ()	理科 ()	商業 ()
保体 ()	家庭 ()	芸術 ()

(4) 参観した授業において、次の観点についてあてはまるものを塗りつぶしてください。

①授業のねらいが明確に示されていますか。

そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	--------

②板書は丁寧でわかりやすいですか。

そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	--------

③説明する声が大きく、聞き取りやすいですか。

そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	--------

④質問や教材を工夫して、生徒を引きつける授業が行われていますか。

そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	--------

⑤学習内容は、わかりやすく説明されていますか。

そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	--------

⑥授業は、生徒の理解度を確認しながら、適切なペースで進められていますか。

そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	--------

⑦生徒の発言や反応を大事にしていますか。

そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	--------

⑧私語・居眠りに対して注意するなど、規律ある授業となっていますか。

そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	--------

(5) 参観した授業の感想は裏面にご記入ください。

(6) 参観した授業の感想をご記入ください。



2次関数の発展的内容です。各班ごとの場合分けされた範囲の最大値、最小値を話し合い、各班の考えを発表者が発表している場面です。(坂田)



指数関数の性質についてグループで取り組んでいます。(野呂)



3年国語表現。グループごとに話し合いをしてみたものをホワイトボードに書き上げたところ。(このあとグループの代表者が発表する)(三浦)



Big padを使っでの授業なので、文字の大きさやレイアウトなどに配慮した。色合いも目に入りやすいものを選んだ。(菅生)



第一次世界大戦への興味・関心を高めるため、任意の生徒に簡単に劇を演じてもらっているところ。第一次世界大戦の様子をつかめたかな？(高橋)

【考察】

今年度の研修テーマは、「生徒の興味・関心をかきたてるための授業改善」ということで、このテーマに則って、今年も2回2週間ずつ、授業公開週間を行った。

昨年度との違いは、授業する際の留意点を決めたこと、参観する際の観点を明確にするとともに4段階で評価したことである。特に、2回目は全員がアピール授業を行うこととしたため、士気がぐっと高まり、参観率100%を達成できた。ただ、授業公開週間の元々の趣旨が、普段の授業を見合うということなので、アピール授業をどう位置づけるかが難しいところである。授業する側としては見てほしい授業を公にしたほうがやりやすかったかもしれない。反面、アピール授業以外は参観しにくい雰囲気になってしまわなかったか、その点を注意しなければならない。

6月に実施したアクティブラーニングの校内研修の成果を、2回目の授業公開週間で実感できたのは収穫であった。

AKISHOPの取り組み

商業科 櫻庭 咲子

1 はじめに

本校では平成14年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立て商品開発や販売、地域貢献活動などを行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。この活動の目的は、社会人基礎力を身に付けることであり、社会人基礎力は①前に踏み出す力②考え抜く力③チームで働く力の3つの力と定義している。

また、今年度より①自分と仲間がつながる②自分達と学校外(小学校・企業)の人達がつながる③自分達と自然がつながるといった「つながり」を大切に活動している。



2 今年度の取り組み

(1) AKISHOPの活動を広報し、外部イベントに参加

AKISHOPの組織の中に広報班を設け、「AKISHOP=物売りイベント」という外部からの印象を払拭するとともに、授業の集大成であることをアピールした。広報班の主な活動は年間を通じて各班の活動風景を写真に収めるとともに活動内容を取材し、「AKISHOP JOURNAL」というフリーペーパーを作成し



て、AKISHOP当日にお客様に配布し、各班の活動内容をアピールした。また、ビジネス実践終了後には今年度の活動の全てを収録した「AKISHOP SUMMARY」を作成した。

また、地元企業が行っている「サンワ市」や農業協同組合が主催する「ふれあいフェア」、横手市で行われた「若者チャレンジ産業祭」やアゴラ広場で行われた「食のフェスティバル」等にも積極的に参加し、AKISHOPの活動を広く秋田県内外の人にPRするとともに、開発商品の販売を行い、様々な地域の方に商品を購入してもらうことができた。

(2) イベント班・CM班の創設

これまでも本部がAKISHOPへの集客を高めるために様々なイベントや広報活動を行ってきたが、今年度はイベント班・CM班を創設し、多くの生徒に新しいアイデアを出してもらい、AKISHOPを盛り上げたいと考えた。



イベント班ではステージを活用した「なまはげ太鼓」や「ヤートセ」を企画したり、タニタ食堂と連携して「スムージーや豚汁の販売」を行うとともに、ブラウブリッツの選手とフリーキック対決をしたり、本校の茶道部がお茶を提供したりし、多くのお客様にAKISHOPに

来場していただくことができた。

また、CM班ではビジネス実践の活動をPRするCMを作成し、AKI SHOP当日、秋田市民市場で披露した。

(3)ペロタクシーの運行

今年度のAKI SHOPは10月31日（土）に秋田市民市場、大屋根下、アゴラ広場、エリアなかいちの



4会場で実施したため、各会場をお客様が来するには距離が離れている。このような状況でもお客様に会場をまわってもらいたいと考え、「ペロタクシー」の運行を行った。ペロタクシーは無料で運行し、お客様の要望に応じて秋田市民市場からエリアなかいちまでを往復した。これにより、年配のお客様にも全ての会場に足を運んでもらうことができた。

(4)受託販売

毎年、秋田県産の食材を使用した菓子や総菜などの商品を地元企業と連携して開発して販売しているが、売れ行きが好調な班や製造個数に制限がある商品を扱っている班は正午頃には商品が完売し、店じまいしてしまう。AKI SHOPを訪れたお客様からは「せっかく来たのに、もう商品がないの?」「せっかく来たのに、残念」などの声があったため、今年度から秋田市外から地元でしか販売されていない商品を各班で仕入れ、受託販売することにした。

これにより、秋田市内では販売されていない多くの商品をAKI SHOPに来場されたお客様にもPRすることができるとともに、営業時間内に店じまいしてしまう班も少なくなった。



また、生徒も商品情報や原材料など様々なことを事前に調査し、当日、お客様に自らの言葉で伝えることができていた。

3 今年度を振り返って

今年度のAKI SHOPはアゴラ広場やなかいち広場など屋外にテントを張って商品販売やイベントを行



う班が多く、天候が心配されていた。しかし、販売当日は3,500個程用意した商品も午後2時には全て完売し、天候が荒れる前に閉店することができた。訪れたお客様からは「秋田商業の生徒の考えた商品だと買わなきゃいけないなあ」「毎年楽しみにしているよ」と声をかけていただき、生徒たちは達成感を味わうことができたようである。

また、AKI SHOPを継続できているのはこの活動を理解し、ご協力いただける企業が多いからである。そのため、来年度もこれまでの活動を継続し、改善すべきところは改善してさらに良いものにしていきたいと考えている。前年度までの反省・課題を踏まえて新たな活動を行い、改善を図ったが終えてみるとまだまだ改善の余地があることが分かった。ビジネス実践「AKI SHOP」は来年度も総合的な学習の時間を活用して継続していくことになるため、生徒が将来就職した際にそれぞれの会社で活躍できるように社会人基礎力を養うことができる活動にしていきたいと考えている。また、つながりを大切に活動の幅を広げていきたい。

キッズビジネスタウンの取り組み

商業科 石田 雄 哉

今年度は10月30日（金）、31日（土）に8年目のキッズビジネスタウンが開催された。1日目は勝平小と出戸小の児童175名、2日目は県内各小学校から一般参加として215名の児童が参加した。今年度は、勝平小学校の学習発表会との重なりを回避したが、その分他の小学校と重なってしまい、参加者の不足がぎりぎりまで心配されていた。事前申し込みも少なかったが、当日昼からでも参加したいという児童も来てくれたので、何とか200名を超える参加を得ることができた。

1 キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、商業高校で学習した「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を子ども達に教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

2 今年度の活動

今年度は2・3年生の希望者が28名で、1人1店舗の社長として活動した。1年生は2日も公欠の生徒以外はすべて割り振りを行った。

①スケジュール

- ・6月：ガイダンス、基礎学習
- ・7月：店舗の模索、決定
- ・夏休み：企業への研修、交渉等
- ・9月：求人票、マニュアルの作成
- ・10月：店舗準備、1年生へ指導、本番
- ・11月：報告会

②今年度の開設店舗

年	組	番	氏名	担当	決定
3	A	7	諏訪 諒	大関	キッズバンク
3	A	8	仙花 一輝	今	ラーメン屋
3	A	18	鎌田 梨花	伊藤	雑貨工房
3	A	24	小林 瑞季	高橋	新聞社
3	B	20	熊谷 衿香	泉	科学研究所
3	C	21	渡辺 聖麻	佐藤	病院
3	D	1	石塚 陸	今	サッカー教室
3	D	15	成田 翔	伊藤	アイスショップ
3	D	20	武藤 清也	戸田	コンビニエンスストア
3	D	34	高橋 玲奈	戸田	フラワーアクセサリー店
3	E	5	今野 恭輔	石田	ハローワーク
3	E	11	武石 元気	船山	おもちゃ・駄菓子屋
3	E	18	宇佐美遥菜	高橋	駅
3	E	24	木内 遥香	近野	アロマ工房
3	F	2	浦山 猛	戸田	市役所
2	A	7	小玉 雄貴	大関	きりたんぼ屋
2	A	19	松橋 広弥	高橋	木工工房
2	A	25	神田日菜子	近野	ヘアメイクサロン
2	B	19	横山 和真	泉	なまはげ体験
2	B	32	鈴木ゆうか	今	税務署
2	C	9	佐藤 史明	伊藤	車屋
2	C	11	柴田 輝	船山	はんこ工房
2	D	18	鈴木 璃空	船山	たこ焼き屋
2	E	5	鎌田 葵	佐藤	クリーンアップ
2	E	6	齊藤 飛翔	泉	うどん屋
2	E	8	佐藤 慶吾	佐藤	ラジオ局
2	E	21	石田 萌	近野	カフェ（ラテアート）
2	F	7	佐藤 光将	大関	消防署
2	F	35	塚本あかり	石田	空港

3 当日の様子

1 日目は勝平小と出戸小が事前説明を受け、事前に学習をしてくれているので、高校生にとってはよいリハーサルとなっている。今年度は勝平小・出戸小ともに10:00～14:00の活動となった。はじめの時間帯は、就職と買い物に全体を分け、買い物客がゼロにならないように行った。

2 日目はスムーズに業務に入ることができ、生徒と小学生は楽しく仕事をしていた。高校生に対しても、大変好印象を持ってくれた。アンケート結果は以下の通りであった。

＜小学生アンケートより＞

	はい	いいえ
楽しかったか	82	2
お金の大切さを実感	77	7
ものの大切さを実感	78	5
来年も参加したい	83	1

＜保護者アンケートより＞

1. 何でキッズを知ったか
 - ・過去に参加したから：33
 - ・学校からの通知：35
 - ・知人からの話：11
 - ・他：7
2. 来場した交通機関
 - ・車：79
 - ・徒歩：7
 - ・公共交通機関等：0
3. 満足度
 - ・大変よかった：51
 - ・よかった：25
 - ・物足りなかった：10



たこ焼き屋



銀行(通貨メルクを販売)

4 課題等の状況

①入場時の受付をスムーズに

今年度は、事前申込者に「整理券」を配布し、受付窓口も4カ所、銀行、市役所などの1年生にも手伝ってもらい、スムーズにできた。

②最後に消費させる店舗

今年度も、多くの保護者からメルクが余ってしまったとの要望が多く寄せられた。今年度は以下の対策を行っており、一定の効果は得られていたようであった。

- ・駄菓子屋に時間帯ごとに倉庫から出すようにして、早く売り切れない状態を指示した。
- ・飲食店に、いずれ時間がくれば売れるから安易に値下げしないように指導した。

それでも終了間際に特定の店舗に大量に並んだり、メルクを余らせて帰ったりした方もいた。これらの対策として、次年度は以下のことを実践することが考えられる。

- ・給料の値下げにより、余るメルクを少なくする。
- ・おみやげに買って帰れる商品を用意する。それらを、通常時間帯に売り切れないように確保しておく。

③学習発表会との重なり

毎年の課題であるが、今年度は参加者数の大きな勝平小学校に合わせたところ、他の小学校の学習発表会と重なり、参加者が苦しい状態になってしまった。土曜日に発表会終了後来場してくれた小学生もいたが、実質1～2回しか働くことができなく、買い物も売り切れが発生して不十分であった。

重ならないように調整することを前提にし、最終日は短時間労働も考慮する必要があるかもしれない。

エコロジカルビジネスの取り組み

英語科 大 堤 直 人

1 はじめに

ビジネス実践の枠組みの中に「エコロジカルビジネス」の部門が設けられてから3年目になる。この班は今年度、3年生12名、2年生7名、教員2名で構成されていた。昨年度と同様に、「企業やNPO法人などとの連携を通して、エコロジカル（生態系保全）とビジネス（商業・経済活動）を両立させた『持続可能な社会』の構築のために行動する力を育成する」ことを目標にしながら多様な活動を行った。

2 今年度の取り組み

今年度取り組んだことは、以下の三つのものに大別することができる。

(1)外部講師による講座

次の期日に講師の方々に来校してもらい、持続可能な社会に関連した講座を受講した。9月～10月の講座は秋田県の「環境の達人」地域派遣事業による。

「持続可能な」は英語でsustainable（サステイナブル）といい、これらの講座はすべてこの概念に関連させるようにした。以下の講座のタイトルにも含まれている「サステイナブル」は、地球環境を保全し、現在の世代だけでなく将来



さいとうみつこ氏による地域理解講座

の世代も安全・健康に暮らしていけるような状態のことを指している。

6月25日(木) 『海から上がったおむすび地蔵さん』による地域理解講座 さいとうみつこ氏

9月17日(木) 「サステイナブルプロジェクトについて」 サステイナブルデザイングループ 辻純一氏

10月16日(木) 「サステイナブルハウスについて」 長田建設株式会社 長田陽一氏

10月29日(木) 「ペレットストーブの促進について」 秋田ペレット株式会社 石井廣喜氏

(2)企業やNPO法人などとの連携

具体的な連携先と、その連携先で行った主な活動は以下の通りである。例年行っていた大曲南中学校との合同授業は、貸し切りバスの代金が今年度から大幅に上がったため、とりやめざるを得なかった。

一般社団法人あきた地球環境会議…「地球温暖化について学ぶデジタル紙芝居」の実施
伊藤良治氏…秋田杉の廃材からリサイクル箸を作成

さいとうみつこ氏…勝平小学校での割り箸による書画講座実施の手伝い

株式会社コバリン…もみ殻を固めて作った各種ボードの展示場を見学

秋田ユネスコ協会…「2015東北ブロックユネスコ活動研究会」で受付等のボランティア

(3)AKI SHOP、キッズビジネスタウンでの活動

ビジネス実践の他の二つの部門と連携して、

いくつかの活動を行った。

AKI SHOPのメインイベントが開催された日の前日、3年生の女子生徒5名は秋田市雄和・協和地区まで移動し、雨のなか農園でダリア摘みを行った。そこで摘んだダリアは、本校生花部の3年生の協力のもとにキッズビジネスタウンの会場となる本校の飾りつけに使ったほか、翌日のAKI SHOP会場において来場者に無料配布した。



雨のなか摘んだダリア

エコロジカルビジネスの生徒たちはまた、家庭で不要になっている物品を持ち寄り、AKI SHOP当日、それらを販売するフリーマーケットを開いた。たくさんのお客さんが来てくださり、午前中にはほぼ完売した。この取り組みにより5,640円の収益が上がり、シリア難民のために国連UNHCR協会に寄付した。



家庭で不要な物品を販売するフリーマーケット

フリーマーケットの近くでは、リサイクル箸を作成するコーナーを設けた。これは、あらかじめ棒状になった木材（秋田杉の廃材）にやすりをかけて自分なりの箸を作成し、最後に講師

の伊藤良治さんに仕上げてもらったうえで無料で持ち帰ることのできる講座である。100名ほどの来場者がこの箸を作り、用意した木材は午前中ではほぼなくなった。



リサイクル箸を作成するコーナー

一方、3年生の女子生徒4人は、さいとうみつこさんの指導を受けながら、キッズビジネスタウンの一環として書道室で「自分発見講座」を実施した。リーフレットの説明文には、「自分や他の人の良いところを見つけ、なりたい自分に近づくことのできる講座」と書かれている。同じ場所で、割り箸を使った書画の体験コーナーも用意した。たくさんのお客さんや保護者の方が来場していた。

3 今年度のその他の特記事項

今年度は、エコロジカルビジネスの活動に関連して二つの高校による学校訪問があった。広島県立御調高等学校の教員2名は、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点に立った学習指導方法について学びたいということで、10月9日（金）に来校した。沖縄県立首里高等学校の教員4名は、国際理解教育に関する取り組みについて学びたいということで、11月25日（水）に来校した。エコロジカルビジネス班の前身である「ユネスコスクール班」が数年前まで国際理解教育に力を入れ、アフリカ・スタディツアーなども実施していたため、そのような取り組みについて説明した。

ユネスコ主催気候変動国際セミナーに参加して

英語科 大 堤 直 人

1 はじめに

国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）に合わせてフランスのパリで開催されるユネスコ主催「気候変動国際セミナー」に本校が参加することが決定したのは、昨年9月のことだった。その後、参加に向けた準備が進められていたが、11月13日に開催地パリで同時多発テロが起き、校内では多数の方が参加について心配してくださった。しかし、このセミナーは予定通り開催されることになり、実際に現地に行ってみると、警官をほとんど見ないことに加えて、危ないことは何一つなかった。ユネスコ本部で2015年12月7日～8日に開催されたこの国際セミナーに、本校を代表して参加した者として、以下にその経緯や内容について報告したい。

2 参加の経緯

このセミナーに同行した文部科学省の担当者によると、「気候変動」に取り組んでいる学校が6校、セミナー参加校として選ばれたという。本校のほか、気仙沼市立階上中学校、岡崎市立新香山中学校、信州大学教育学部附属松本中学校、神戸市立葺合高等学校、不二聖心女子学院中学校・高等学校の5校が選ばれた。

本校を含めてこのうちの4校は、2014年11月に岡山県で開催されたユネスコスクール世界大会分科会の発表校として選ばれているので、それが一つの判断基準になったようである。本校が推薦を得ることになった理由として知らされていることは次の通りである。

「ビジネスと結びつけて地球環境問題に取り組んでいる。また、近隣中学（大仙市立大曲南中学校）とも連携している」



参加者一同（ユネスコ本部前で）

3 セミナー開催の背景

このセミナーの正式名称は、The UNESCO International Seminar on Climate Change Education ‘Getting climate-ready: ASPnet schools’ response to climate change（気候変動教育に関するユネスコ国際セミナー「気候変動問題に向き合う——気候変動に対するユネスコスクールの取り組み」）である。ユネスコによると、このセミナーの開催は2015年の国連気候変動会議（COP21）に対するユネスコの主たる貢献であり、国連気候変動枠組み条約第6条（気候エンパワーメントのための行動）の実施に相当するという。このセミナーはユネスコの「持続可能な開発のための教育に関する世界行動計画」に焦点を当てるものであり、また、この行動計画は「国連持続可能な開発のための教育の10年」（2005年～2014年）を正式に引き継ぐものであるという。

ユネスコスクールは、秋田県では本校を含めて3校しかないが、全国には1,000校近く、全世界には181カ国に1万校以上ある。このセミナーで一堂に会したのは11カ国（ブラジル、デンマーク、ドミニカ共和国、フランス、ドイツ、ギリシャ、インドネシア、日本、レバノン、ナ

ミビア、セネガル) のナショナル・コーディネーター (ユネスコ国内連絡担当者)、そして、そうした国々にある55校のユネスコスクールの教員と生徒である。司会者や全体会合の話題提供者も含めて、約100名がこの会議に参加した。

英語圏だけでなく、フランス語圏やスペイン語圏からの参加国もあったため、英語、フランス語、スペイン語の同時通訳が行われた。フランス語やスペイン語で話す人がいれば、座席に備えつけられているヘッドホンで英語を聞くことができた。

4 セミナーの概要

このセミナーの目的は、参加する学校や国から始めて、気候変動問題をユネスコスクールの中に組み入れるための踏み台となること、とされていた。ユネスコ事務局長のイリーナ・ボコバ氏は歓迎の挨拶の中でこう述べた。「持続可能性は学校から始まります。そのようなわけで、ユネスコスクールのネットワークは非常に大切なのです。ユネスコスクールは、地域や社会の必要に敏感な、『脈をはかる者』です。ユネスコスクールはまた、ユネスコの優先順位と価値観を地方での枠組みの中に組み込むにあたって、『ペースを決める者』でもあります」



ユネスコ事務局長による歓迎の挨拶

セミナーの全体会合においては、持続可能な開発のための教育 (ESD) と気候変動の専門家とともに、気候変動教育を「ホールスクール・アプローチ (学校全体の取り組み)」を通してどのように実施するかについて話し合った。ま

た、各校の取り組みについてのプレゼンや討論、ワークショップも行い、優良実践例を共有したり、行動の規模を拡大するための戦略を開発したりした、ということになっている。

2日間の主な日程は次の通りである。

1日目：2015年12月7日 (月)

気候変動に関する教育についての公開討論会

- ・気候変動に対するホールスクール・アプローチと教育に関する基調演説
- ・全体会合1：COP21での気候変動に関する教育
- ・全体会合2：マルチステークホルダーによる協力の促進
- ・全体会合3：気候変動に関する教育は、学校現場においてどのように実現しうるか

2日目：2015年12月8日 (火)

「ホールスクール・アプローチを通して、どのように気候変動に関する教育を実施するか」についてのユネスコスクール参加者のディスカッション

- ・全体会合4：気候変動に関する教育を促進するためにユネスコスクールの世界的ネットワークは何かできるか
- ・全体会合5：ホールスクール・アプローチによるESDと気候変動に対する取り組みの維持
- ・パラレルワーキンググループ (三つのグループに分かれ、並行して行うワークショップ)
- ・全体会合6：ホールスクール・アプローチによるESDと気候変動に対する取り組みの維持

5 会議での発言

今回のセミナーへの参加にあたっては、ユネスコ本部から渡航費と滞在費、文部科学省と日本持続発展教育推進フォーラムから国内移動費をいただいた。これだけのことをしていただき

ながら、しかも英語教員でありながら、会議で一つも発言しなかったとなれば問題である、ということで、これまで本校で編集・発行にたずさわった『高校生のための地球環境問題入門』（アルテ、2012年）等の5冊の本の最も主張しなかったことを述べてきた。話す内容はその場で考え、メモに書いた。その内容を以下に翻訳して掲載したい。

「日本の秋田商業高校の教員です。私たちの学校は、ESDに関連した高校生向けの5冊の本を編集・発行してきました。残念ながらそれらは英語ではなく、日本語で書かれています。それらは国際協力、国際連合システム、アフリカ理解、地球環境問題、そしてESDに関する本です。私が書いた章や記事では、世界資源を分かち合う必要性を強調しました」



全体会合での発言

「COP21の会議を見てもお分かりのように、先進国と開発途上国の間には対立があります。この対立を解消するには、国家間での信頼が必要です。信頼を創り出すには、人類が一つであることを認識し、私たちは同じ人類家族に属していることを認識し、同胞愛の精神で世界資源を公平に分かち合う必要があります」

「世界資源の分かち合いを実施するには、資源の再分配を専門に行う新しい国連機関が必要となるかもしれません」

「すべての国の間で資源を分かち合い、信頼を創造することができれば、気候変動対策の一つとして密接な国際協力のもとに世界中で何

十億本という木を植えることもできます。皆さんには、このような取り組みの可能性について考えていただければと思います」

このように言ってみたものの、私のこの発言に対する直接の反応はなかった。会議中は言いたいことがある人が多く、次から次へと手が挙がっていた。タイミングを見て挙手するのも大変な状況であった。

ちなみに、今回、国内移動費をいただくにあたっては、渡航直前の12月5日（土）、東京の昭和女子大学で開催されたユネスコスクール全国大会で登壇することが条件とされた。他の参加校の代表者とともに、自校での取り組みや国際セミナー参加への意気込みなどを語った。なお、このユネスコスクール全国大会には、同じくエコロジカルビジネス班担当の工藤裕文先生も参加された。



ユネスコスクール全国大会の会場

6 パリでの朝と夜

パリには3泊4日で滞在したものの、日中は会議で建物の中にいたため、朝と夜しか外に出なかった。朝は8時過ぎまで暗く、暗いなかホテルの周辺を少し散歩し、その後、7～8分歩いて会場に行っただけだった。会議が終わる頃にはすでに暗くなっていたが、この2日間の夜は有効に活用することができた。

セミナー初日には、主催者側の方で「カクテル（パーティー）」というものを用意してくれたので、会場となったユネスコ本部7階の部屋のバルコニーから近くのエッフェル塔と夜景を

眺めながら寛ぐことができた。その後、ホテルに帰る途中、日本からの専門家として参加していた聖心女子大学の永田佳之教授と一緒にカフェでお話をする機会もあった。

次の日の夜は、日本政府ユネスコ代表部の奈良哲公使から食事会への参加のお誘いを受けていたため、入り組んだパリの街中を一行で歩き、50ユーロの美味しいフランス料理を



いただくことができた（メインデッシュは、肉、魚、ハトの3種類から一つ選ぶことになっていた）。日本政府代表部の南野圭史一等書記官も同席してくださった。

パリに到着した時は夜だったが、大型タクシーの運転手が気をきかせてくれて、凱旋門とシャンゼリゼ通りのそばを通った。夜でもある程度の数の観光客がいて、テロ後であっても緊迫した雰囲気はなかった。また、空港からの高速道路沿いに、テロ事件の一つが起きたサッカー競技場があった。フランス国旗の3色でライトアップされていたのが印象的であった。



ライトアップされたサッカー競技場

帰る日は、ノートルダム寺院くらいは見たいという声も上がっていたが、手違いがあって大型タクシーは手配できず、どこにも寄らずに2

台のタクシーでシャルルドゴール空港まで直行した。したがって、日中、外に出での観光は一切なかった。

7 まとめ

今回は国際会議であったため、英語が標準の使用言語であった。日常の会話とはまた違い、専門家が専門用語を交えてとうとうと話す英語に関しては、理解できない部分が多くあった。また、同じ英語でも各国のくせのある英語で話されるため、聞き取るのが容易でないことも多々あった。ニュージーランドやナミビア、ギリシャといった国の人々が話す英語に苦労した。しかし、英語の研修という観点から考えれば、通常の英語指導者研修よりも、はるかにためになった。

このセミナーに参加したからといって、今後、何かを大々的にやる意欲が湧いたわけではない。今まで、好きなことを好きなだけやらせていただいたせいもある。本校の生徒4人をアフリカに連れていったり、本を5冊出版したりと、大胆なことに次々と挑戦してきた。

また、この3年ほどは学年主任を務めてきたので、エコロジカルビジネスの活動にはあまり力を入れないつもりであった。一昨年、「ユネスコスクールESD優良実践事例集」に応募する際も、締め切り直前まで応募しないつもりであった。昨年も、このセミナーへの参加の推薦の話が来たとき、受けていいものかどうか迷い、進路指導主事の谷内先生に相談した。「その頃（12月）には（就職試験が）ほぼ終わっている」という言葉をいただいて、推薦の話を受けた経緯があった。その通り、就職に関しては12月上旬には9割以上内定したので、ゆったりとした気持ちで渡航することができた。3年生の進路に関してうまく進んだので、このように参加することができた。3年生に対して面接や小論文等の指導をしていただいた先生方に、重ねて感謝申し上げる次第である。

各教科等の指導における言語活動の充実

商業科 柏谷 亜紀子

1. 期 日 平成27年9月18日（金）
2. 場 所 秋田県総合教育センター
3. 講座の目標 「言語活動の充実」についての基本的な考え方、各教科等における指導と評価のポイントを確認し、思考力・判断力・表現力等を育む指導力の向上を図る。
4. 研修内容

＜講義・実践発表＞

「言語活動を位置づけた指導の実際」

【実践発表1：にかほ市金浦中学校 教育専門監 佐々木修一先生】

言語活動の充実はアクティブラーニング

アクティブラーニングとは、“主体的・協働的な学び”である。例えば、発見学習、問題解決学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどがあり、以前より授業に取り入れられてきている。しかし、なぜ“アクティブラーニング”という呼称なのか。それは、「遊びではない。効果的なものである。」という保護者や地域へのメッセージであり、さらに「従来の取り組みを振り返ってほしい」という教員へのメッセージでもある。

実践例

- ・言葉だけの予想だと、イメージが共有しづらいため、図などを用いて「イメージの共有化」を図る。
- ・話し合いや実験の結果を一覧で見られるように板書計画を立てる。一覧にすることで、視点を持った話し合いが活発になり、ずれた原因を探ることも可能になる。
- ・ホワイトボードを利用して、イラストや単語単文などで簡潔に表現させる。
- ・まとめの際に、絶対入っていてほしい言葉（キーワード）を出し合ってからまとめていく。ポイントを押さえたまとめの文章が作成しやすくなる。

言語活動を成り立たせるもの

「言語活動＝アウトプット」の充実には、「体験活動＝インプット」を多くする必要がある。そのため、言語活動も体験活動も、ねらいを達成する手段として、双輪で考えていかなければならない。

【実践発表2：県立博物館 主任学芸主事 伊藤 真先生】

歴史探究プリントによる通史授業の実践例

「特別教室はいつ、なぜ学校に普及したのか」

明治中期から昭和（戦後）の間に小学校に普及した特別教室（①音楽室 ②家庭科室 ③図書室 ④理科室）を予想する内容であった。プリントには、その時代の社会的事項や教育関係既習事項がヒントとして記載されていて、それをもとに、参加者がグループごとにどの教室がどの時代に普及したかを話し合った。この話し合いの中で、その時代はどのような時代だったのかや時

代の変遷を想像し、いろいろな意見が出された。このような授業を行うことで、單元ごとの総合的な理解が深まり、歴史がただの暗記科目ではなく、考える科目になることにとても感動した。教科は違って、自分の授業でも取り入れてみたいと思った。

<講義・協議>

「言語活動を位置づけた指導の在り方」 総合教育センター 主任指導主事 熊谷 禎子

言語活動の充実とは

「探究型」の授業とは、今日の授業で何が身についたのかが実感できる授業である。そのため考えを伝え合い、発展させる時間を授業内に取り入れることが必要である。

言語活動設定のポイント

教科の力を身につけるために言語活動を取り入れることが大前提であり、児童生徒の変容を具体的にイメージすることが必要である。また、言語活動を成立させるためには、活発な意見交換ができるコミュニティの形成が土台となる。その上で、「話す・聞く」の学習をどのように進めるかが、言語力育成の鍵といえる。

言語環境を整える

教師の正しい言葉遣いや正確かつ丁寧な板書、配布物や掲示物等における適切な用語や文字の使用など、教師の行動や心がけが言語環境に大きく影響を与える。そのため、まずは教師自身が正しい言語活動を行わなければならない。

これからの時代に求められる力

主体的、協働的な学びの中で、必要な知識や情報を求めたり、様々な知識を関連付けて解決策を模索・検討したりする課題解決を図る能力が求められている。

また、理論的に考え、他者にわかりやすく表現したりする、「実社会で活用できる能力＝汎用的能力」が求められている。

教育相談に生かすカウンセリングの技法

理科 藤 中 由 美

講師の先生は、秋田大学でブリーフセラピーを専門に臨床心理士として活躍されている柴田健教授であった。

講座のはじめに柴田先生から、「先生方、今日はどんなことを知りたいですか?」と尋ねられ、参加者からは、不登校生徒の保護者への対応、学習が遅れている生徒の支援方法、家庭内の問題がある場合の教師の関わり方、不登校に対する教員間の意識や共有不足への対応等々の質問が寄せられた。立場や校種が異なる先生が集まっていることもあり、関心があるテーマも多岐に渡ることがうかがえた。

私がこの研修を希望した理由は今年度1年生の担任となり、4月当初から生徒や保護者からの相談が多かったこと、またその内容も多様だったためである。1年生は、新たな生活へ期待が高まると同時に大きな不安を抱えるケースも多い。面談希望者が重なってしまい、時間的制約がある中でも、相談者の状況や個々の性格、傾聴する側の心理的状況にも左右されることなく有意義な面談にするためには、カウンセリングの技法の習得が大切であると感じ本研修を申し込んだ。

研修は前半が講義、後半は面談の基本となるジョイニングの演習とブリーフセラピーを使った演習、そして柴田先生自らが生のカウンセリングを実践して見せる、という内容で、最初から最後まで大変興味深かった。

ここではブリーフセラピーの基本的考え方について報告する。

○ブリーフセラピー

ブリーフセラピーとは、現状の問題から、「未来はどうしたいか」に焦点を当て、「そのために何ができるか」を考え解決しようとするカウンセリング技法である。

医療現場などにおいては、患者の問題は過去に遡って原因を探る。問題の原因を過去に遡って分析する方法を「問題モード」とするならば、ブリーフセラピーは「解決モード」といえる。

問題モードでは、現状を「なぜこれしかできないのか」と問題点に焦点を当てて分析するのに対して、ブリーフセラピーでは「どうしてここまでのことができてきているのか」と「成果」に焦点を当てて分析する姿勢を基本としている。

ブリーフセラピーを行うにあたっての基本的考え方とルールは次の通りである。

〈解決志向ブリーフセラピーの基本的考え方4つ〉

- 1 変化は絶えず起こっており、必然である。
- 2 小さな変化は大きな変化を生み出すもの。小さな変化を大切にする。
- 3 「解決」について知る方が、問題と原因を把握することよりも有用である。
- 4 クライエントは彼らの問題解決のためのリソース（資源・資質）を持っている。クライエントこそが（彼らの）解決の専門家である。

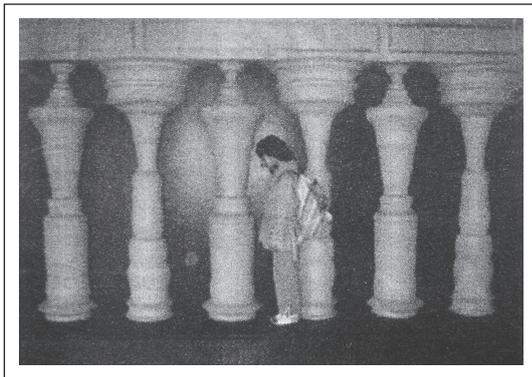
〈解決志向ブリーフセラピーを行うに当たっての3つのルール〉

- 1 もし壊れていないのなら直そうとするな
- 2 うまくいくことが分かったなら、もっとそれをせよ
- 3 もしもうまくいかないのなら、もう繰り返すな、何か違ったことをせよ

「問題」と「解決」は関係なく、解決とは問題と別のところに新たに作り上げていくものだとする、「解決構築」の考え方はとても印象的だった。生徒や保護者から相談を受けた際、問題の原因に焦点を当てて解決を目指してしまうが、問題の原因をどう読み解くかは、その人の考え方や価値観で大きく変わる。そのため教師と生徒で共感が難しいこともある。仮に解決に向かっていても、それまでの過程や結果に不満が残り、後味の悪いことも少なくない。

ブリーフセラピーはクライアントの生育歴や過去の状況は問題視しない。「クライアントは彼らの問題解決のためのリソース（資源・資質）を持っている。クライアントこそが（彼らの）解決の専門家である。」という考え方なので、カウンセラーが相談者の「今やれていること」を小さなことでも発見できるかどうかセラピーの鍵になる。ブリーフセラピーは「短期療法」と訳される。少ない面談回数で問題解決を目指すブリーフセラピーは実際の教育相談に取り入れやすく、一度のカウンセリングで行動変容が期待できる技法だということも興味深かった。

ここまでブリーフセラピーの基本について説明してきたが、柴田先生の講義の中で印象深かった内容を以下に紹介する。



☆『問題の背後には必ずうまくやれている部分がある』

子どもがうつむき加減で立ち、その背後に柱が何本か立っている絵。柱に着目しがちであるが、よく見ると背後に向かい合っている人も見えてくる、いわゆる「だまし絵」である。人は抱えている問題に着目しがちであるが、背後には必ずうまくやれている部分がある、ということ象徴している絵である。

☆『この研修が終わった後、ブラジルに行く人はいらっしゃいますか？』

この質問をされて、本気で「行こうかな？」と考える人はまずいない。なぜならば、研修の後にブラジルへ行く経験をしている人はいないからである。

人は過去から現在の延長線上に未来をとらえ、その通りに動こうとする。頭の中にある未来の選択肢は、過去の経験から作り出されている。未来の選択肢は本来無限にあるはずだ。

カウンセリングは現在進行形の未来時間を少しでも良くし、未来時間を変えるためである、ということに気づかせてもらった。

☆『助言者の基本的態度は「さくら友蔵」。究極の助言は「サントリー山崎」的助言』

助言はとても難しい。そのまま助言すれば8割は無視される。優れたセラピストは、クライアントに「この人はこちらで丁寧に説明してあげないとよく分からない人なんだな」と思わせるセラピストである。

～「さくら友蔵」の会話例～

- ・「正直言って、いまいちピンと来ないんじやが、悪いけどもうちょっと説明してくれないかのう」
- ・「あーあー、何となくわかってきたぞい」
- ・「おー、まるこの描く絵は世界一じゃのお」

察しが悪くてわかりがよく、相手を褒める「さくら友蔵」的会話を心がけることで、多くの情報を聞き出すことができる。カウンセラーに何度も細かく丁寧に説明することで、クライアント自身が本当の問題点は何なのか整理することができる。

～「サントリー山崎」的助言～

「何も足さない。何も引かない。サントリーピュアマルトウイスキー・山崎」
(相手に対し、指示や要求をしない)

～助言例～

- ・「それでいいよ。もうできているじゃないか」
- ・「今のままでいいよ、それだけであれば十分だ」
- ・「君は十分に役に立っているよ。そのままやってくれ」
- ・「今やれていることを続けてください」

最後に、柴田先生から面談に必要な4つの力とジョイニングの姿勢について説明があったので、参考までに紹介する。

〈参考〉面接に必要な力とジョイニング

〈面接に必要な4つの力〉

- 1 観察力：変化に注目する力
- 2 傾聴力：話をイメージしながら聞ける力
- 3 反応力：相手に合わせていける力
- 4 質問力：相手の関心に合わせた質問を展開できる力

○ジョイニング

ジョイニングとは、援助者が相手であるクライアントや家族にうまくとけ込む、あるいは仲間入りすること。面接に必要な4つの力を発揮させるためにはジョイニングがとても重要である。ジョイニングがうまくいくと相手からの情報収集はスムーズに進み、相手の行動や思考に変化が起こり始め、面接担当者の負担は軽くなる。

〈ジョイニングの方法5つ〉

- 1 相手のムードや雰囲気や家風に合わせる
- 2 相手を褒めるより勇気づける
- 3 相手が興味・関心がある話に合わせて
- 4 相手の動き・言動の特徴に合わせて
- 5 相手の話の内容に合わせて

気になる児童生徒への支援

英語科 舟木志保

1. 期 日 平成27年11月11日（水）
2. 場 所 秋田県総合教育センター
3. 講座の目標 気になる児童生徒について、事例を持ち寄り、対応を考えるとともに、有効な事例検討会の手法についての理解を図る。

4. 研修内容

<講義・実践発表>

「気になる児童生徒への対応～円環的思考のすすめ～」

【実践発表1：秋田県総合教育センター 支援班 堀川 修 先生】

(1) 直線的思考と円環的思考

直線的思考

一つの原因から一つの結果が生じること。「どちらか一方が正しい」「～すべき」

円環的思考

原因が結果となり、結果が原因となる考え方。思い込みをはずし、問題の原因が複数あり、同じ現象が繰り返されていると考えること。

(2) 有効な仮説を立てるために

- ①行動の目的と対応
- ②「不登校3つのタイプ」と対応

学校に行けないタイプ

一症状などがあり、学校に行きたいが、行くことができない。

<対応策>見守りながら、登校刺激のタイミングを図る。

学校に行かないタイプ

一とにかく学校に行きたくないという気持ちが強い。

(3) アサーショントレーニング

誰の心にも3つの顔

①受け身的アサーション（のび太くんタイプ）

相手が一番大事。自分は次。「表現しない」「しそこなっている」→ 伝わらない。

自分や相手に正直でない。→ 欲求不満やストレス

②攻撃的アサーション（ジャイアンタイプ）

自分が大事。人はどうでもいい。「はっきり言う」「相手を軽んじる過剰な自己表現」

優位を保とうとする。→ 相互尊重できない。

③相手も自分も大切にするアサーション（しずかちゃんタイプ）

自分も相手も大切。正直にその場にふさわしい方法で → 相手にも冷静に対応

自分も相手も大切にする

相手がこちらの意図のとおりを受け取らないこともあるが、「自分も相手も大切にする」姿

勢は、「受け身的自己表現」や「攻撃的な自己表現」から伝えることはできない。周囲の大人自身がアサーション（自分も相手も大切にする技法）によって、子どもたちと接することで、自己信頼と他者信頼を育む。

認知の考え方

○エリスの「A-B-C理論」

出来事（A）→ 自分の認知（B:Belief）→ 結果（C）

- ・人は外界の出来事に対して、主観的意味付け（色めがね）をして見ている。
- ・人は出来事（A）と結果（C）の間に、自分の認知が作用していることに無自覚である。
- ・Belief = 「非合理的思い込み」「合理的信念」
- ・非合理的思い込みを、合理的信念に変えていく必要がある。

節度ある押しつけがましさ

- ・積極的に関わりをもちたいという姿勢は見せるものの、決して追い詰めないように配慮することが大事である。「逃げ場を作りつつ、関わりを続けること」
- ・教員側が、本人や保護者の心に土足で踏み込むことがないように配慮する必要がある。

高等学校授業力向上研修講座2－A(採用8年目)を受講して

商業科 大久保 薫

期 日 平成27年10月5日(月)～10月6日(火)

場 所 秋田県総合教育センター

日 程 5日(月)

9:30～10:00 受付

10:00～10:10 開講式

あいさつ 総合教育センター主幹 近藤 正実

10:25～12:00 オリエンテーション

(自己紹介、日程確認、協議の進め方の説明等)

指導案及び授業について(授業者からの説明)

13:00～14:30 グループ別授業分析①

授業者 大曲高等学校(商業) 小松 徳彦

14:40～16:10 グループ別授業分析②

授業者 六郷高等学校(家庭) 富谷 朋子

6日(火)

10:00～10:30 指導案及び授業について(授業者からの説明)

10:30～12:00 グループ別授業分析③

授業者 秋田商業高等学校(商業) 大久保 薫

13:00～14:30 グループ別授業分析④

授業者 男鹿海洋高等学校(家庭) 高橋奈奈子

14:40～16:10 グループ別授業分析⑤

授業者 雄勝高等学校(商業) 佐藤 博之

指導助言者 総合教育センター指導主事(商業) 柴田 弘喜

指導助言者 総合教育センター指導主事(家庭) 浅沼 和子

概要 採用3年目及び8年目の教員が、教科別でグループによる授業分析を中心とした研修を行い、授業力向上を図る。

事前準備 「秋田県学校教育の指針 平成27年度の重点」の各教科等の重点と自身で設定した協議の視点を踏まえて授業を行い、撮影したものをDVD-R2枚に記録し事前に提出する。

撮影にあたっては、授業の様子や生徒が話し合ったり発表したりする活動の様子が伝わるように、撮影者をお願いする。撮影したビデオはDVD-Video形式に変換すること。

ビデオ視聴の時間は各教科で設定するため、撮影した50分間の授業ビデオは編集する必要はない。協議の視点は、ねらいを達成するための手立てや工夫した点など、主に協議してほしいことを設定する。

第1学年B組 商業科（ビジネス基礎）学習指導案

日 時：平成27年6月25日（木）1校時
 場 所：1B教室
 指 導 者：大久保 薫
 使用教科書：ビジネス基礎（実教出版）

1 単元名 第3章 ビジネスの担い手

2 目 標

- 生産者、卸売業、小売業、金融業、保険業、運輸業、情報通信業などのビジネスの担い手の仕事の概要や役割について理解させる。
- 求められる倫理について考察させる。

3 単元（題材）と生徒

対象の生徒は商業科1年生40名（男子18名、女子22名）である。学習意欲が高く、興味関心をもって授業に取り組むことができる。本単元はビジネスの担い手についてであり、日常生活での購買活動や親の職業などを通して身近に感じられる内容である。普段の気づきや疑問などを発言しやすい単元でもあるので、生徒の考えを発言したり聞いたりする場を設け、学び合う形を作るとともに、専門的知識として理解させたい。

4 指導と評価の計画

第3章 ビジネスの担い手

第3節 小売業者（計2時間）

	時 間	観点別評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
① 小売業者の役割	} 1	①小売業者の役割について、グループ内で考え、意見交換できている。（本時）	④小売業者の動向について、商店街の活性化への取り組みや、街づくりとの関連について思考し、小売業者の今後について考察できる。	①小売業者の種類について理解し、実際の企業名を業態別に分類することができる。（本時）	①小売業者のビジネスについて、商店街などの集まりとチェーン化について理解している。
② 小売業者の種類					
③ 小売業者のビジネス	} 1				
④ 小売業者の動向					

5 本時の計画

- (1) ねらい 小売業者の種類を知り、その役割について考察する。
- (2) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習グループになる。 ○プリントに記名し、資料（広告）を確認する。 ○本時の目標と流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○配置と班名の確認をする。 ○黒板に目標を提示し、本時の流れを確認する。 	
展 開 30 分	<ul style="list-style-type: none"> ○企業名について、広告を利用して何を売っている店か確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">例「マルダイ」は何を売っているか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ○小売業者は業種別、業態別の捉え方があることを知る。 ○小売業者について業態別に分類し、その内容を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">カテゴリーキラーと呼ばれる企業はどれか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ○カテゴリーキラーを考察し、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ドラッグストアはなぜ食品だらけなのか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ドラッグストアを利用する消費者のニーズを考察し発表する。 ○教科書の重要な箇所線に線を引き、小売業者の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ある企業名を取り上げ、何を売っているか発問する。 ○業種と業態の説明を板書し理解させる。 ○教科書 p 69～70を用いて小売業者の種類を説明する。 ○発表内容を板書し、分類が合っているか確認する。 ○教科書 p 70を用いて意味を確認し、企業名に印をつけて確認する。 ○ドラッグストアを利用している消費者層や来店頻度などを取り上げ考察させる。 ○教科書 p 68を参照させ小売業者の役割を理解させる。 ○プリントの「スーパードラッグ」などの店名に触れる。 	<p>企業名を種類ごとに分けることができる。 【技能】</p> <p>発問についてグループ内で考え、意見交換できている。 【関心・意欲・態度】</p>
ま と め 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○次時の確認をする。 ○感想を記入する。 ○机を元に戻し、プリントを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡潔にまとめるように指示する。 ○記名の書き忘れに注意させる。 	

6 協議の視点

- (1) 学習意欲を高め、持続させる工夫は有効であったか。
- (2) 既存知識を活用して、課題を解決させるための支援は適切であったか。

平成27年度 高等学校授業力向上研修講座 1-A・2-Aグループ別授業分析ワークシート

	協議の視点1 学習意欲を継続させる工夫は有効であったか。	協議の視点2 課題を解決させるための支援は適切であったか。	その他
+	<p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な題材から教材をつくっている。 ○生徒の意見から授業をつくっている（学び合う授業）。 ○地元の広告を使って、自分の生活と関連づけて学習している（持って来させたことで意欲が高まっている）。 ○複数の教材が意欲を継続させている。 ○身近な情報には生徒が食いついている。 	<p>支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最初に授業の流れを示すことで解決の支援になっている。 ○説明する際や正解をいうときに、生徒の意見を組み込んで説明している。 ○知識を与えすぎない（説明しすぎない）ことで、自主的活動につながっている。 ○プリントに生徒の意見が分かる工夫があったので、生徒の意見が引き出せている。 	<p>人柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メリハリがあつてよい。 ○話し方がハキハキしていてテンポがよい。
-	<p>○発表場面を増やす。</p> <p>○教科書の確認は、生徒に答えさせる。</p> <p>展開の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各班の発表をすべて板書したため、後半生徒が疲れた様子だった。 ○取り扱った小売業者の数が多。 ○広告を使わずに、知っている店を発表させて双方向で進めていく方法もある。 ○目標を書き、今日やることを説明してから広告（教材）を渡す。 ○個人・グループ学習の時間でメリハリをつける。 ○グループ活動の展開の仕方に工夫が必要である。 	<p>発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前列の生徒が反応していたので、指名することもできた。 ○「業種」「業態」は前時の確認にもなるので、生徒に答えさせて、例えを引き出す方法もある。 ○「業種と業態はどう違うか」という発問もある。 ○「なぜ～か」という質問法を考察する。 ○「カテゴリーキラーはこの中に○つある。どれだと思うか。」という具体的発問もある。 ○ドラッグストア業界の2014年度の商品販売額4兆円という説明は、ピンときていない。他業界との比較もある。 	<p>指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表を聞いていない生徒が多い。 ○一斉に教科書を見ていない。
改善策	ツールの多すぎたので、教材や場面設定を厳選する。	発問と展開方法（静・動・静の授業）を工夫する。	

高等学校教職10年経験者研修報告

～秋田商業高校で10年を振り返る～

保健体育科 菊 地 亜 紀

新採用の年を県南の「県立横手城南高校」で迎え、共学を3年後に控えた変革の年だっただけに慌ただしさと刺激のあった3年間であった。女子校勤務の拝命は当初、自分のような者に勤まるのか不安であったし、女性に間違われたのではないかと思うこともあった。横手は県内有数の豪雪地帯であり、授業には地域の特性を生かしたカリキュラムの一つにスキー授業があった。雪不足は皆無で、1～3月の平日は近隣の横手スキー場で授業を行い、教員の我々も常駐していることが当たり前であった。また、3年目の平成19年に開催された秋田国体では、年間の3分の1を合宿や試合に費やし、3年生の担任だった私にとってはとても目まぐるしくも充実した年であった。また、共学を翌年に迎えた同年度におこなわれた選抜試験では、受験しにきた生徒の中に男子中学生の姿を見て、時代の流れと新鮮さを感じるとともに貴重な経験ができた。

2009年本校に着任。母校である本校には育てられたという思いが強く、恩返しがしたいという一心で赴任した。自分が生徒だった当時と比べると、男女共習や制服は違えど、伝統は当時のまま息づいていた。ただ、生徒は時代とともに変化しており、教員として伝統にあぐらをかくのではなく、生徒のため、学校のためにより良くしていこうとする気概を常に持って職務に臨むことが自分にとっての使命と考えた。本校勤務ではこれまでに8回担任を拝命した。コースによってクラスや生徒の雰囲気が違うのが当たり前だが、毎回受け持つこととなった流通経済コースは、自分が生徒だった当時を彷彿させる秋商の雰囲気で居心地がよかった。

部活動では陸上競技部の顧問として、様々な方のご協力をいただき、これまでにリレーを含めインターハイに29名、国体に4名出場させることができた。部員は秋田商業で陸上競技がしたいという思いで集まった生徒達で、練習に対してストイックな者程、上位進出を成し遂げた。平成23年には男子少年800mで入賞を果たし、我が後輩部員が秋商陸上競技部の歴史の1ページを刻んでくれた。

指導に当たり、常に心に秘めていることは「勝利を急がないこと」である。学校教育でいえば「向上を急がないこと」である。指導側が葛藤や不安に陥るとき、そこにあるのは自らの固定概念や思い込みである。生徒は生徒であり、自分ではない。目の前にいる子供たちは日々未知の物事に取り組んでいる。みんな一生懸命なのである。我々はその支えとしてのスタンスを忘れてはいけない。

これまで同僚や生徒に恵まれ、多くのことを学ぶことができた。高校在学中から現在まで師と仰いできた恩師の方々にあこがれを抱きつつも、当時の指導をそのまま真似するのでは現在に通用することは少ない。ただ、高校時代に恩師の方々から感じた情熱は自らの現在と照らし合わせ、常に問い続けていきたい。生徒との距離を感じ始めたらこの仕事は終了である。これからも、生徒とともに歩むことでこの仕事を天職と感じ続けていければ本望である。また、先輩教員がしてくれたように、適切な指導助言で若手教員に少しでも力を与えられる存在に近づくことができるよう、今後一層の研鑽を積んでいきたい。

校内研修計画書

秋田市立秋田商業高校

研修教員：菊地亜紀（保健体育科・2年C組担任）	校長：鎌田 勝
-------------------------	---------

I 校内全体計画

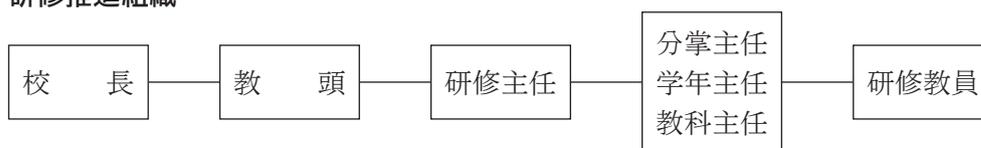
1 研修目的及び方針

研修教員に対しての評価結果に基づき、「教科指導等研修」については、「授業実践で指導技術を磨く」ことを主とする。また、「生徒指導等研修」については不登校の防止とその対応を意識した生徒理解研修を実施しながら、資質の向上を図る。

そのため、次のような方針を設ける。

- (1) 教科指導等研修については、当該教科の科員の協力の下に実施し、観察や実技指導を通して、科学的な見方や考え方を養う方法を探る。
- (2) 生徒指導等研修については、各分掌及び学年部と協力し、生徒の抱える様々な諸問題に取り組み、生徒が学校や学級での生活によりよく適応するための支援の方法を探る。

2 研修推進組織



(評価・指導・助言) (指導・助言) (連絡・調整) (指導・助言)

3 校内指導分担と主な内容

担 当 者	研修の主な内容
校 長 鎌 田 勝	教育目標の達成と学校経営について
教 頭 船 木 文 子	高校教育の現状と課題について
教 頭 村 上 清 秀	法規に関する事例研究
研 修 主 任 大 関 由 理	10年研修の進め方について
総 務 主 任 米 澤 雅 史	P T A ・ 地 域 と の 連 携 に つ い て
教 務 主 任 保 坂 徹	教育課程の編成・教務内規について
進 路 指 導 主 事 谷 内 陽 一	進路指導の現状と課題について
生 徒 指 導 主 事 高 橋 伸 友	生徒指導に関する事例研究
特 別 活 動 主 任 村 上 健	部活動・生徒会活動に関する事例研究
2 学 年 主 任 木 村 実 樹 夫	学年経営および個人面接に基づく研究
保 健 体 育 科 主 任 山 本 正 敏	教科指導のあり方と指導方法の工夫
養 護 教 諭 保 浦 寿 子	保健室利用の実態について
ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー 石 山 宏 央	カウンセリングのあり方について

Ⅱ 校内年間研修報告書

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員：菊地亜紀（保健体育科・2年C組担任） 校長：鎌田 勝

教 → 教科指導等研修 生 → 生徒指導等研修

実施月日 (曜日)	研修内容	研修方法・形態	全体・個別の区別	時間割内・放課後の別	研修時間	研修指導者
4/13(月)	10年研修の進め方について	生 講義→授業研究	個別	放	2	研修主任
5/27(水)	教育目標の達成と学校経営について	教 講義→一般研修	個別	内(2・3)	2	校長
28(木)	生徒指導に関する事例研究	生 講義→一般研修	個別	放	2	生徒指導主事
6/1(月)	P T A・地域との連携について	生 講義→一般研修	個別	放	2	総務主任
10(水)	教材研究と指導案の作成(1)	教 授業研究	個別	放	2	保健体育科主任
11(木)	授業実践に基づく授業研究(1)	教 授業研究→授業指導	校内研修	内(3)・放	2	保健体育科主任・科員
12(金)	教材研究と指導案の作成指導(1)	教 授業研究→授業指導	個別	内(3)・放	2	保健体育科主任(若手教諭)
17(水)	授業の参観と助言(1)	教 授業指導	個別	内(3)・放	2	保健体育科主任(若手教諭)
24(水)	教育課程の編成・教務内規について	生 講義→授業研究	個別	放	2	教務主任
29(月)	アクティブラーニングについて	教 講義→一般研修	全体	放	2	外部講師
7/7(火)	法規に関する事例研究	生 講義→一般研修	個別	放	2	教頭
14(火)	教材研究と指導案の作成(2)	教 授業研究→授業指導	個別	内(4)・放	2	保健体育科主任
15(水)	授業実践に基づく授業研究(2)	教 授業研究→授業指導	個別	内(3)・放	2	保健体育科主任・科員
8/24(月)	選択研修の成果と課題	生 一般研修→講義	個別	放	2	校長
25(火)	高校教育の現状と課題	生 講義→授業研究	個別	放	2	教頭
9/9(水)	教材研究と指導案の作成指導(2)	教 授業指導	個別	放	2	保健体育科主任(若手教諭)
10(木)	授業の参観と助言(2)	教 授業指導	個別	内(2・3)	2	保健体育科主任(若手教諭)
10/6(火)	保健室利用の実態について	生 講義→一般研修	個別	放	2	養護教諭
11/4(水)	生徒分析と個人面談計画の作成	生 講義→一般研修	個別	放	2	学年主任
5(木)	個人面談実践に基づく研究	生 一般研修	個別	放	2	学年主任
6(金)	教材研究と指導案の作成指導(3)	教 授業指導	個別	放	2	保健体育科主任(若手教諭)
20(金)	授業の参観と助言(3)	教 授業指導	個別	内(2・3)放	3	保健体育科主任(若手教諭)
25(水)	教材研究と指導案の作成(3)	教 授業研究→授業指導	個別	内(4)・放	2	保健体育科主任
26(木)	授業実践に基づく授業研究(3)	教 授業研究→授業指導	校内研修	内(3)・放	2	保健体育科主任・科員
12/9(水)	健康について(1)	教 講義→一般研修	全体	放	2	外部指導者
10(木)	カウンセリングのあり方について	生 講義→授業研究	個別	内(2・3)	2	スクールカウンセラー
21(月)	特定課題研究の中間まとめ	生 一般研修	個別	放	2	研修主任
22(火)	部活動・生徒活動に関する事例研究	生 講義→授業研究	個別	内(2・3)	2	特活主任
1/18(月)	健康について(2)	教 講義→一般研修	全体	放	2	外部指導者
20(水)	進路指導の現状と課題	生 講義	個別	内(5・6)	2	進路指導主事
2/17(水)	特定課題研究の成果と課題	生 一般研修→講義	全体	放	2	校長以下全員

実施日数 合計	研修方法・形態別の研修日数 (時間数)				時間割内 研修時間計 (a)	放 課 後 研修時間計 (b)	研修時間 合計 (a + b)
	講 義	授業研究	授業指導	一般研修			
31	17 (18)	12 (13)	11 (17)	13 (15)	19	44	63

選 択 研 修 計 画 書

研修教員	菊地 亜紀	所属校	秋田商業高等学校	連絡先	TEL 018-823-4308 FAX 018-823-4310
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ用品全般を取り扱っている会社の在庫管理の実情について理解する。 ・カウンター業務補助、取引企業への集金業務などを通し、接客マナーについて学ぶ。 				
研修先	有限会社工藤スポーツ		研修先	〒011-0941 秋田市土崎港北1丁目12-36 TEL 018-845-4504 FAX 018-845-7684	
代表者名	工藤 克		正式職名	代表取締役	
担当者名	工藤 克		部・課名	代表取締役	
月日(曜)	研修時間		内 容		
第1日 7月23日(木)	8:30 ~ 12:00 12:00 ~ 13:00 13:00 ~ 17:15		開店準備(清掃・商品の管理など) カウンター業務補助及び外回り営業補助 休憩 カウンター業務補助及び外回り営業補助 在庫管理		
第2日 7月24日(金)	8:30 ~ 12:00 12:00 ~ 13:00 13:00 ~ 17:15		開店準備(清掃・商品の管理など) カウンター業務補助及び外回り営業補助 休憩 カウンター業務補助及び外回り営業補助 在庫管理		
第3日 7月25日(土)	8:30 ~ 12:00 12:00 ~ 13:00 13:00 ~ 17:15		開店準備(清掃・商品の管理など) カウンター業務補助及び外回り営業補助 休憩 カウンター業務補助及び外回り営業補助 在庫管理		

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 菊 地 亜 紀
研 修 先	(有) 工藤スポーツ		
研 修 期 間	平成27年 7月24日 (金) ～平成27年 7月26日 (日)		
1 研修の概要			
<p>大館市長根山陸上競技場で7月25日、26日と開催される全県中学校通信陸上競技大会における来場客向けの商品販売</p> <p>1日目：現地へ搬入する商品の管理及び値札付け、トラックへの搬入などの出店準備</p> <p>2日目：販売ブースの設置、商品の陳列、接客</p> <p>3日目：商品補充、接客、販売ブースの撤収</p>			
2 研修の成果			
<p>今回の研修の目的は、スポーツに携わる者として、指導する側だけではなく、スポーツにサポートとして関わる視点を養うことや、販売会場において中学生と触れ合うことで、専門としている陸上競技の新たな課題を見出すことであった。</p> <p>初日は、社長より社内理念「お客様と歩み、地域に貢献する夢作り」に関してお話をいただき、社員としての心構えを指導していただいた。重要な事として、商品を売るだけでなく、買っていただいたことで、少しでも夢に近づけることを応援しているという、販売側の姿勢が大切ということを教わった。社長自らもスポーツマンであり、選手の気持ちをよく理解されていることが実感でき、納得のいく指導であった。</p> <p>翌日は早朝より秋田市から大館市に移動し、現地に到着すると早速販売ブースの設置にかかった。あいにくの悪天候であったが、社長他1名の従業員で息の合った作業により、瞬く間に販売の準備が整った。天候による不慮の事態に備えて、テントの固定や雨対策など、今後を予想した危機管理には、商品販売以上に時間を費やした。これも、事故を起こさないという以前に、今大会で活躍するであろう、すべての選手を一番に気遣った手立てであることに揺るぎなかった。</p> <p>接客・販売中は両日も悪天候の中、大勢の来客があり、めまぐるしい状況であったが、試合後訪れる選手には結果について話をしたり、これからレースがある選手には励ましたりと充実した時間が過ぎた。最終日も同様に接客・販売と多忙を極めたが、幸いに天候は回復し、撤収作業を行う頃には雨はすっかり上がっていた。</p> <p>研修期間を通して、多くの中学生・保護者と話ができ、競技に対する考え方や選手が競技に対して真剣に取り組んでいる様子を窺い見ることができ、携わる側の応援する気持ちが一体となった状況は、まさにWカップ以上の達成感と感動を味わうことができた3日間であった。</p>			

特定課題研究レポート

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 菊 地 亜 紀
研究分野	(A) 教科指導 B 学級・学年・学校経営 C 生徒指導 D 進路指導 E 特別活動に係る指導 F 総合的な学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導 H その他		
研究テーマ	授業における言語活動の実践		
1 研究の概要			
<p>11月の研究授業実施に当たり、研究授業日の前に2回の研究授業会を行った。その際に、自教科教員はもちろん、他教科教員にも研修部を中心に協力をお願いし、様々なアドバイスを頂くことができた。特に、主に指導案を元にして意見をいただき、修正を重ねることでより明確な見通しを立てて本番に臨むことができた。なお、授業は言語活動を中心とした「思考型授業」を目指し、「発問の仕方」や「授業のねらい」など議論しやすいものになるように配慮した。</p>			
2 成果と課題			
<p>(1) 成果</p> <p>授業の展開に当たっては、ICTを活用し、生徒の興味関心を引き出すことで多数の意見・発表を得ることができた。また、生徒同士の発表に関して、「意見を否定しない」「小さな気づきも評価する」などの心構えを生徒に促し、他者の意見を参考にしながら、生徒自らがより良い考えに発展できるように配慮した。なお、導入ではグループ単位の活動であったが、最終的には自らの意見を主張する事が重要と促し、それを受けて一人ひとりが探究心を持って学習に臨み、すべての生徒に自分なりの考え方を発表させることができた。また、結果として他者理解の心を育むことができ、その単元を段階的に終えることができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>言語活動は話し合いや討議が中心になりがちで、時間制限を設けなければ指導案の計画どおりには進みづらい。今回の単元として、もう少し話し合いの時間が必要と感じた。年間計画も含め、次年度の検討課題としたい。また、授業内で発表などの評価は評価規準の「関心・意欲」に多くのウェイトを占めるが、「知識・理解」については、生徒にとって指導要領どおりに必要な内容の教授が不足しないように留意する必要がある。そのためには、考査の内容をより精選するとともに、言語活動に対する教科担当同士の共通理解をより強める必要がある。</p>			

平成27年度 研修会・研究会等参加者

【センター研修】

◎A講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

16-A 授業力向上研修講座（8年研）	大久保薫	10/5～6
20 10年経験者研修講座	菊地亜紀	①6/25 ②8/5～6 ③9/3 ④1/7
26 新任教頭研修講座	村上清秀教頭	5/18・19
28 新任教務主任研修講座	保坂 徹	①5/12 ③10/20
34 新任生徒指導主事研修講座	高橋伸友	①5/22 ②9/25

◎B講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

1 各教科などの指導における言語活動の充実	柏谷亜紀子	9/18
-----------------------	-------	------

◎C講座（専門研修講座）自主的に受講する研修

18 授業に生かす基本的なICTの活用	石井洋年	8/20
24 アドラー心理学を活用した学級づくり	藤中由美	7/31
26 教育相談に生かすカウンセリングの技法	藤中由美	11/6
33 高等学校講師研修講座	石井洋年 嶋田 平 三浦康平 佐藤 大	①6/11
15 J T E English Workshop	舟木志保	9/16
23 気になる児童生徒への支援	舟木志保	11/11

※免許更新開始 泉 広宣・横山秀和・柏谷亜紀子・池田孝幸
坂田絵里・石田雄哉・（舟木志保）
" 継続 佐々木ひな子

【中高連携関係】

小・中・高・特別支援学校連携協議会（勝平中学校授業参観）	村上清秀教頭 野呂耕一郎 大堤直人 千田義人 佐々木ひな子 今 聡 三浦康平 大関由理	5/13
勝平中学校特定授業参観・各教科研究協議会	船本文子教頭 工藤裕文 近野祥子 今 聡 坂田絵里 三浦康平 舟木志保 大関由理	11/10

勝平中学校2年生商業科目授業体験（授業者）	谷内陽一 小西一幸 大久保薫 菅原健太 鎌田修明	2/16
-----------------------	--------------------------------------	------

【英語科】

秋田発！英語コミュニケーション能力育成事業 平成27年度外国語活動・英語科担当教員指導力向上研修	伊藤彰康	① 4/27 ② 8/10 ③ 11/2
---	------	----------------------------

【商業科】

産業情報技術者指導養成研究大会（千葉商科大学）	櫻庭咲子	7/30～8/1
全国商業教育研究大会（東京）	鎌田勝校長 石田雄哉	8/3～5
高校情報教育全国大会（宮崎公立大学）	小西一幸	8/9～11
商業教育指導者研修会（全商会館）	櫻庭咲子	8/16～21
簿記指導者講習会（大原簿記専門学校横浜校）	村井良裕	8/18～19
感染症情報システム研修会（市役所）	嶋田 平	8/20
簿記指導者講習会（大原簿記専門学校）	櫻庭咲子	8/22
簿記指導者セミナー（仙台商工会議所）	柏谷亜紀子	8/24

【教育課程研究協議会】

英語	菅生あずさ	8/3
理科	千田義人	8/4
体育	山本正敏	8/4

【その他】

特別支援コーディネーター研修	畑沢一利	① 5/29 ② 7/7 ③ 11/4
秋田大学教育文化学部附属中学校公開研究協議会	高橋賢右	6/5
スポーツ栄養学研修会	保浦寿子	9/19
中堅教員研修（秋田地方総合庁舎）	佐々木ひな子	8/17
高等学校・特別支援学校養護教諭研修会	保浦寿子	12/1
ユネスコ気候変動教育国際セミナー（仏・パリ）	大堤直人	12/7～8
秋田市養護教諭研究会・研修会	保浦寿子	2/3
秋田県教育研究発表会	藤中由美 大関由理	2/4 2/5
秋田中央高校SSH探究活動発表会	野呂耕一郎	2/19

合計36名（延べ59名）

編集後記

研修部員から

生徒の興味・関心をかきためるにはやはり教師側の「良い準備」が不可欠であることを再認識いたしました。自分自身が今後もさらに研修する力を高めていきたいと思いました。

小林 克

研修部での1年間は、改めて教員が自ら学ぶ姿勢を持ち、授業改善をしていくことが大切だと実感しました。教職員の研修が生徒に必ず還元されると考えることにより、とてもやりがいのある1年間でした。ありがとうございました。

柏谷亜紀子

授業公開週間、校内職員研修など、先生方におかれましては、多忙の折、積極的にご参加くださり、誠にありがとうございました。来年度も先生方の研鑽のお手伝いができれば幸いです。

菊地 亜紀

「20歳だろうが80歳だろうが、とにかく学ぶことをやめてしまった者は老人である。学び続ける者は、みな若い。—自動車会社フォード・モーター創設者ヘンリー・フォード—」これからも謙虚に学び続けていきたいと思います。

三浦 康平

研修は自身のスキルアップはもとより、初心を取り戻すという意味でも大事なものと感じた1年でした。今後も研修を大切にしていきたいと思います。

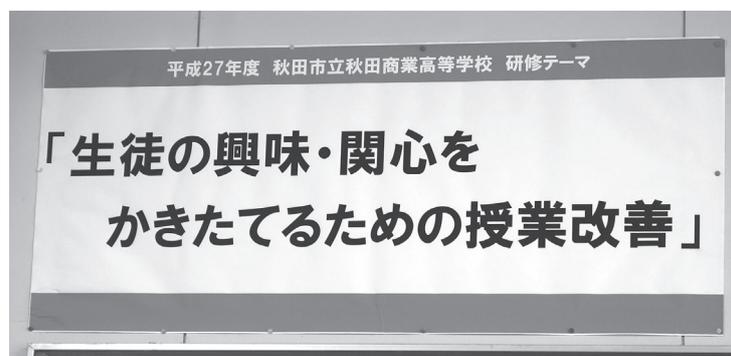
舟木 志保

今年度の研修テーマは「生徒の興味・関心をかきたてるための授業改善」でした。このテーマ誕生の種明かしをします。年度当初、鎌田校長が語った今年度の教育方針の言葉からもらいました。そして、このテーマを具現化するために、6月にアクティブラーニングの校内職員研修会を開きました。更には、11月の授業公開週間において、アクティブラーニングを意識した授業実践を重点目標として掲げ、全員がアピール授業を行いました。一方で生徒による「授業アンケート」も定着し、自分の授業に対する評価を突きつけられることにより、今年は例年以上に先生方の授業改善への意識が高まりました。

ことあるごとに授業の大切さを呼びかけ続けてくださった鎌田校長は今年でご退職となりますが、先生の指し示した方向性はこれからも引き継がれていくことと思います。本校での勤務は2年間と短いものでしたが、影響力は多大でした。

最後になりましたが、本集録に寄稿・協力してくださった方々、読んでくださったすべての方々に感謝申し上げます。

大関 由理



平成27年度 研修集録

発行日 平成28年 3 月31日

発行者 秋田市立秋田商業高等学校

〒010-1603 秋田市新屋勝平台 1 - 1

T E L 018-823-4308~9

F A X 018-823-4310

印刷所 株式会社フロム・エー

題字・校訓揮毫 熊谷 弘(旧職員)



校 訓

感謝
勤勉
鍛鍊